

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成19年度に係る業務の実績に関する評価 全体評価

①評価結果の総括

- (イ) 法人の効率的な管理・運営における定量的成果が顕著であり、着実な成果があがっていると認められ、全体として概ね良好である。
(ロ) 現代舞台芸術に関しては、創造的かつ効果的な企画・制作の面について、長期的展望に立った明確なビジョンを示すことが望まれる。

<参考>

・業務運営の効率化:A

・業務の質の向上:A

・財務内容の改善:A

等

②評価結果を通じて得られた法人の今後の課題

- (イ) 芸術文化活動に対する支援については、支援体制及び支援内容の一層の充実と適正化が求められている。(項目別P. 7)
- (ロ) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演については、各劇場の役割を踏まえた公演が制作・実施されたが、現代舞台芸術の公演に関する企画・集客等については一層の努力の必要がある。(項目別P. 10、23)
- (ハ) 「伝統芸能の伝承者の養成」、「現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修」の意義を広く周知する必要がある。(項目別P. 33、37)
- (ニ) 現代舞台芸術に関する調査研究及び資料の収集・活用は開場以来10年と日が浅く、まだ成果が目に見えた形では充分あがっていないと思われる。(項目別P. 40、46)

③評価結果を踏まえ今後の法人が進むべき方向性

- (イ) 今後の文化庁支援事業との統合・一元化に向けて、支援施策の理念・目的・目標を明確化し、これに基づく支援事業の体系化と具体的なメニュー化を図り、より公正を期した支援体制の構築が望まれる。(項目別P. 7)
- (ロ) 経済性や効率性に配慮しつつ、目的を踏まえた適切な公演活動の展開及び関連する各般の事業の実施を図ることを期待する。(項目別P. 10、23)
- (ハ) 研修生及び修了者の実態の調査を恒常的に実施し、適切な対策を講じることを望む。(項目別P. 33、37)
- (ニ) 現代舞台芸術分野における情報センター的役割を担っていくことが出来るか再考すべきである。(項目別P. 40、46)

④特記事項

特定の関連公益法人へ運営を委託している国立劇場おきなわ及び新国立劇場については、その委託費の大半が国費に由来するものであることに鑑み、日本芸術文化振興会が説明責任をはたす為に、相手先の運営状況を確認する方途として、財団の管理運営に関する事項についても把握できるよう、契約内容を改善すべきである。

文部科学省独立行政法人評価委員会 文化分科会日本芸術文化振興会部会委員名簿

<正委員>

- 船山 信子 上野学園大学音楽・文化学部教授
渡邊 正太郎 前社団法人経済同友会副代表幹事

<臨時委員>

- 扇田 昭彦 演劇評論家
根木 昭 東京芸術大学音楽学部教授
星野 紘 東京文化財研究所名誉研究員
三浦 雅士 舞踊評論家

(以上6名、○は部会長)

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成19年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化 [※]					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化 [※]				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置	-	-	-	A	A	(細目名)大衆芸能(寄席囃子、太神楽)	A	A	A	A	A
(中項目名)業務運営の効率化	A	A	A	A	A	(細目名)能楽(ワキ、狂言、囃子)	A	A	A	A	A
(小項目名)業務運営の効率化状況	A	A	A	A	A	(細目名)文楽(大夫、三味線、人形)	A	A	A	B	A
(細目名)効率化に関する施策	A	-	-	-	-	(細目名)組踊(立方・地方)	A	B	A	A	A
(小項目名)組織機構の在り方の検討状況	-	A	A	A	A	(細目名)既成者研修	A	A	A	A	A
(細目名)組織機構の在り方の検討状況	A	-	-	-	-	(細目名)伝統芸能伝承者養成に係る自己点検評価の実施等	A	-	-	-	-
(中項目名)外部評価の実施、職員の意識改革	-	A	A	A	A	(小項目名)現代舞台芸術の実演家の研修	A	A	A	A	A
(小項目名)外部評価の実施、職員の意識改革	A	A	A	A	A	(細目名)オペラ研修	A	A	A	A	A
(細目名)外部評価の実施状況	A	A	A	A	B	(細目名)バレエ研修	A	A	A	A	A
(細目名)職員に対する研修の実施状況	A	A	A	A	A	(細目名)演劇研修	A	A	A	A	A
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	-	-	-	A	A	(細目名)現代舞台芸術実演家研修に係る自己点検評価の実施等	A	-	-	-	-
(中項目名)芸術文化活動に対する支援	A	A	A	A	A	(中項目名)調査研究・資料の収集活用	A	A	A	A	A
(小項目名)助成金の交付実施状況	A	A	A	A	A	(小項目名)伝統芸能関係	A	A	A	A	A
(細目名)助成金の交付実施状況	-	A	A	A	A	(細目名)伝統芸能の調査研究	A	A	A	A	S
(細目名)助成金交付事務の効率化・簡素化状況	A	A	A	A	A	(細目名)伝統芸能の資料の収集・活用	A	A	A	A	A
(小項目名)審査における透明性等を確保	A	A	A	A	A	(細目名)伝統芸能の調査研究等に係る自己点検評価の実施等	A	-	-	-	-
(小項目名)基金の管理運営	A	A	A	A	A	(小項目名)現代舞台芸術関係	B	A	A	A	B
(小項目名)実施状況等の調査、各種情報等の提供	-	A	A	A	A	(細目名)現代舞台芸術の調査研究	A	A	A	A	B
(小項目名)助成対象活動の実施状況等の調査	A	-	-	-	-	(細目名)現代舞台芸術の資料の収集・活用	B	A	A	B	B
(小項目名)芸術団体等に対する各種情報等の提供	B	-	-	-	-	(細目名)現代舞台芸術の調査研究等に係る自己点検評価の実施等	B	-	-	-	-
(細目名)助成対象活動の実施状況等の調査	-	B	A	A	A	(中項目名)劇場施設の利用	A	B	B	B	B
(細目名)芸術団体等に対する各種情報等の提供	-	A	A	A	A	(小項目名)劇場施設の利用	A	B	B	B	B
(細目名)ホームページのアクセス状況	A	-	-	-	-	(中項目名)附帯する業務	A	A	A	A	A
(中項目名)伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	A	A	A	A	A	(小項目名)教育普及事業の実施	A	A	A	A	A
(小項目名)伝統芸能の公開	A	A	A	A	A	(細目名)講座等の実施状況	A	-	-	-	-
(細目名)歌舞伎	A	A	A	S	A	(細目名)講座等の参加者数	A	-	-	-	-
(細目名)文楽	A	A	A	A	A	(細目名)講座等の参加者の満足度	A	-	-	-	-
(細目名)舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A	A	A	(細目名)舞台芸術教材の作成状況	A	-	-	-	-
(細目名)大衆芸能	B	A	A	A	A	(細目名)文化デジタルライブラリーへのアクセス状況	A	-	-	-	-
(細目名)能楽	A	A	A	A	A	(小項目名)広報活動の充実	A	A	A	A	A
(細目名)組踊等沖縄伝統芸能	A	A	B	A	A	(細目名)ホームページの掲載に要する期間	A	-	-	-	-
(細目名)演目の拡充	B	A	A	A	A	(細目名)ホームページへのアクセス件数	A	-	-	-	-
(小項目名)現代舞台芸術の公演	A	A	A	A	B	(小項目名)交流事業の実施	A	A	A	A	A
(細目名)オペラ	A	A	B	A	A	(小項目名)劇場利用者等へのサービスの向上	A	A	A	A	A
(細目名)バレエ	A	A	A	A	A	(細目名)会員数の確保	B	-	-	-	-
(細目名)現代舞踊	A	A	B	A	B	(小項目名)その他(歌舞伎400年記念事業)	A	-	-	-	-
(細目名)演劇	A	A	A	A	B	(大項目名)予算・収支計画及び資金計画	-	-	-	A	A
(小項目名)青少年等を対象とした公開・公演	-	A	A	A	B	(中項目名)予算、収支計画及び資金計画	A	A	A	A	A
(細目名)伝統芸能分野	A	A	A	A	B	(小項目名)予算、収支計画及び資金計画	-	A	A	A	A
(細目名)現代舞台芸術分野	-	A	A	A	A	(大項目名)その他主務省令で定める業務運営に関する事項	-	-	-	A	A
(小項目名)連携協力・地方における上演	-	A	A	A	B	(中項目名)人事に関する計画	-	A	A	A	A
(細目名)伝統芸能分野	A	A	A	A	A	(小項目名)人事に関する計画	-	A	A	A	A
(細目名)現代舞台芸術分野	B	B	A	B	B	(中項目名)施設及び設備に関する計画	-	A	A	A	A
(中項目名)伝統芸能伝承者養成・現代舞台芸術実演家研修	A	A	A	A	A	(小項目名)施設及び設備に関する計画	-	A	A	A	A
(小項目名)伝統芸能の伝承者の養成	A	A	A	A	A	(中項目名)その他振興会の業務運営に関し必要な事項(運営委託)	-	A	A	A	B
(細目名)歌舞伎(俳優、音楽)	A	A	A	A	A	(小項目名)その他振興会の業務運営に関し必要な事項(運営委託)	-	A	A	A	B

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

備考(法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等)

公演及び施設の利用に関して寄せられた合計5件の意見については、「伝統芸能の公開」及び「劇場利用者等へのサービスの向上」の項目において、当該意見を勘案した上で評価を行った。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
収入						支出					
運営費交付金	7,030	12,053	12,084	11,582	11,482	一般管理費	606	1,305	1,072	1,100	1,113
施設整備費補助金	252	656	585	412	801	事業費	6,134	10,945	10,625	10,607	10,799
公演事業収入	1,598	2,811	2,962	3,268	3,046	施設整備費	252	656	585	412	801
公演受託事業収入	11	103	57	33	56	公演事業費	1,590	2,599	2,884	3,018	2,963
基金運用収入	924	1,719	1,788	1,786	1,880	公演受託事業費	6	95	50	23	54
諸収入	18	75	90	100	96	基金助成事業費	763	1,600	1,665	1,752	1,961
計	9,833	17,417	17,566	17,181	17,361	計	9,351	17,200	16,881	16,912	17,691

(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
費用						収益					
経常費用						運営費交付金収益	6,139	11,098	10,943	10,563	10,838
国立劇場公演等事業費	3,924	6,995	7,326	7,142	7,021	事業収入	2,427	4,428	4,511	4,813	4,401
新国立劇場公演等事業費	2,675	4,863	4,802	4,730	4,972	受託事業収入	11	103	57	33	56
基金助成事業費	1,304	2,209	2,261	2,215	2,399	財産利用収入	29	63	66	59	57
一般管理費	578	1,210	983	973	1,023	寄附金収益	—	1	1	1	—
減価償却費	100	406	642	752	916	資産見返負債戻入	34	266	490	569	650
財務費用	18	23	45	34	31	財務収益	79	206	220	227	237
雑損失	4	1	2	1	3	雑益	29	55	65	88	78
臨時損失	—	3	—	16	2	臨時利益	—	0	2	19	207
計	8,603	15,710	16,061	15,863	16,367	計	8,748	16,220	16,355	16,372	16,524
						純利益	145	510	294	509	157
						目的積立金取崩額	—	—	—	—	50
						総利益	145	510	294	509	207

(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	13,495	24,296	31,473	17,649	20,287	業務活動による収入	13,224	25,546	33,700	19,235	21,338
投資活動による支出	6,319	11,320	13,648	12,556	11,716	運営費交付金による収入	7,030	12,053	12,084	11,583	11,482
財務活動による支出	0	134	140	166	219	公演事業による収入	1,415	2,535	2,742	3,034	2,623
翌年度への繰越金	2,784	2,487	3,764	3,291	3,579	基金運用による収入	924	1,719	1,788	1,786	1,880
						公演受託事業による収入	41	56	102	11	26
						その他の収入	3,814	9,183	16,984	2,821	5,327
						投資活動による収入	4,609	9,906	12,838	10,663	11,172
						施設費による収入	252	412	656	585	777
						その他の収入	4,357	9,494	12,182	10,078	10,395
						財務活動による収入	0	1	0	0	0
						前年度よりの繰越金	4,765	2,784	2,487	3,764	3,291
計	22,598	38,237	49,025	33,662	35,801	計	22,598	38,237	49,025	33,662	35,801

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
資産						負債					
流動資産	7,640	21,300	5,426	4,407	5,805	流動負債	1,900	1,776	2,419	2,288	2,215
固定資産	251,828	236,274	245,768	244,750	241,145	固定負債	706	1,939	2,046	2,911	3,221
						負債合計	2,606	3,715	4,465	5,199	5,436
						純資産					
						資本金	246,819	246,819	246,819	246,819	246,819
						資本剰余金	9,761	6,248	△ 1,176	△ 4,397	△ 6,997
						利益剰余金	282	792	1,086	1,536	1,692
						(うち当期未処分利益)	145	510	294	509	207
						純資産合計	256,862	253,859	246,729	243,958	241,514
資産合計	259,468	257,574	251,194	249,157	246,950	負債・純資産合計	259,468	257,574	251,194	249,157	246,950

備考:資本剰余金の減は、特定資産の減価償却費の増加によるものです(独立行政法人会計基準第86による)。

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載)(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
I 当期未処分利益					
当期総利益	145	510	294	509	207
前期繰越欠損金	—	—	—	—	—
II 利益処分額					
積立金	145	401	294	239	207
独立行政法人通則法第44条第3項 により主務大臣の承認を受けた額	—	109	—	270	—

備考:平成16年度の利益処分において独立行政法人通則法第44条第3項により主務大臣の承認を受けた額109百万円は、中期計画に基づき、観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応のための施設・設備の充実等のため、今中期目標期間中に使用するものです。また、第1期中期目標期間の最終年度において未使用となっている通則法第44条第3項に規定する積立金270百万円については、利益処分時において通則法第44条第1項の規定による積立金へ振り替えることとしています。

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:人)

職種※	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
定年制事務職員(管理系)	73	71	61	59	55
定年制事務職員(事業系)	253	248	257	247	249
	326	319	318	306	304

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成19年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価

○評定基準について

S：特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)

A：中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100%以上)

B：中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%以上100%未満)

C：中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満)

F：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。)

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 A

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定		
		A	B	C		段階的評定	定 性 的 評 定 等	
1-1. 劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮した業務運営の効率化	業務運営の効率化状況	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p> <p>※Sについては、客観的基準を事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。また、Fについても、客観的基準を事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合、その評定を付す。 【以下、全ての項目について同様】</p>			<p>1. 企画・分析機能の強化</p> <p>(1) 法人見直し対策本部を中心とした次期中期計画等への対応 19年2月に設置した「法人見直し対策本部」(本部長：総務部・経理部担当理事／構成員：総務部長、経理部長／事務局：経理部計画課)を中心に、中期目標期間終了時における法人の組織・業務の見直し及び「独立行政法人整理合理化計画」の策定に際しての内閣府・総務省・文部科学省等外部への対応を行うとともに、振興会内部の取りまとめ・調整を行い、各部各課の連携の下に法人見直しに関する議論を進め、次期中期計画を策定した。 (法人の見直し等の主な流れ) 19年 2月 部長会において「次期中期計画(第1次調整案)」を策定 3月 政策評価・独立行政法人評価委員会(政独委)事務局ヒアリング 5月 政独委ヒアリング 6月 「経済財政改革の基本方針2007」閣議決定(101独立行政法人の見直し) 政独委による新国立劇場視察 7月 文部科学省独立行政法人評価委員会・振興会部会における見直し当初案の審議 8月 部長会において「見直し当初案」を策定 「独立行政法人整理合理化計画の策定に関する基本方針」閣議決定 文部科学省独立行政法人評価委員会・総会における見直し当初案・整理合理化案の審議決定 9月 行政改革推進本部事務局ヒアリング 政独委ヒアリング 官民競争入札等監理委員会ヒアリング(市場化テスト) 10月～11月 政府部局における審議 12月 「独立行政法人整理合理化計画」の閣議決定(同時に「見直し案」が決定) 「公共サービス改革基本方針」(市場化テスト)の閣議決定 20年 1月 「次期中期計画(第1次調整案)」をもとに第2期中期計画案を検討 2月 役員会において第2期中期計画案を策定 文部科学省独立行政法人評価委員会における審議 中期目標の指示・中期計画の認可申請 3月 第2期中期計画の認可</p> <p>(主な見直しの内容) 法人の見直し及び独立行政法人整理合理化計画において、以下の事項が掲げられ、第2期中期計画に反映をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化振興のための助成事業の統合・一元化 ・ 伝統芸能の伝承者の養成、現代舞台芸術の実演家の研修の見直し ・ 施設の有効活用等 ・ 国立劇場等の管理運営業務に係る外部委託の拡大等 ・ 効率化目標の設定 ・ 給与水準の適正化等 ・ 随意契約の見直し <p>(2) 知的財産活用推進本部の設置 振興会が保有する公演記録等の知的財産の有効活用を検討するため、総務部長を取りまとめ役として総務課に事務局を置き、各部推薦の職員を構成員として20年2月に設置した。3月までに検討会を6回開催した。</p> <p>(3) 国立劇場環境整備委員会の充実</p>	A	A	<p>インターネットチケット販売システムが稼働し、かつ、チケット管理システムとの連携を確立したこと、知的財産活用推進本部を設置し、知的財産の有効活用の検討に着手したことは注目に値する。 また、人件費の削減について、順調に推移しているとともに、全体的に、着実に効率化の成果があがっていると認められ、今後ともその効率化を継続していくことが望まれる。</p> <p>【一般競争入札の導入及び契約の見直等の実施状況】 契約における公平性・透明性の向上に努めるとともに、随意契約の限度額を引き下げ、競争入札の範囲の拡大を図るなど、順当に推移しているものと認められる。</p> <p>【官民競争入札の導入及び外部委託に係る検討・取組状況】 20年度中に結論を得ることとされている、劇場等の管理・運営等の民間競争入札の導入については、十分な検討を行うことが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 知的財産活用推進本部による知的財産の有効活用のため、全国の劇場・ホールの範となるような著作権処理等に係る方法論の確立など具体的な取り組みを期待する。</p>

本館・演芸場の環境整備に関する事項を審議するために設置する国立劇場環境整備委員会の設置要項を19年7月に改正し、委員会に芸能部担当理事等を加え、審議の充実を図った。また、委員会の下に作業部会を置いて具体案の策定を進めた。劇場周辺の案内看板の統一的なデザインによるより分かりやすい案内看板設置案を策定し、年度中にその一部を実施した。

(4) 情報化統括責任者等の設置

19年10月に「情報化統括責任者設置要項」を制定し、情報化統括責任者及び情報化統括責任者補佐官、従来の「情報処理業務管理運用委員会」に替わる「情報化推進委員会」を設置し、今後の情報システム化や情報基盤整備等を効果的かつ効率的に進めた。

(5) 月次報告、四半期報告の実施

入場者数等の目標・計画の達成状況及び収入支出の状況等を月次で役員会へ報告するとともに、四半期ごとに公演事業に関する自己点検評価の取りまとめなど、事業の進捗状況等の分析等目標管理を行い、必要に応じて適切な対応を図った。

(6) 評価結果への対応

18年度の点検評価を踏まえ、評価委員会の意見等への対応を検討し、19年12月の役員会において「平成18年度の業務の実績に関する評価結果への対応」を審議・決定した。意見等について、可能な限り19年度中に事業へ反映するとともに、20年度計画等に織り込んだ。

2. 情報システムの活用

(1) 館内LANの活用、グループウェアの利用等

振興会の組織全体にわたって整備された館内LANを介して、グループウェア（電子メール・電子掲示板・会議室予約等）や電子ファイルサーバ（共有フォルダ）、内部ホームページを活用し、事務連絡の迅速化や情報の共有、ペーパーレス化など事務の効率化を図った。

また、19年度にはビジネスソフト（Word、Excel、PowerPoint、Access）を使いこなせるよう職員に対するPC研修を実施した。

(2) 基幹業務システムの整備・活用

人事給与システムについては、人事院勧告による年度途中の給与改定に即応するため、給与差額の計算に対応するプログラムを付加するなど必要な改修を行った。次期財務会計業務システムの導入に向けて、コンサルタントを活用して、より効率的なシステムを検討した。また、基幹業務システムサーバのメンテナンスを実施し、機器の老朽化に対応した。

(3) 施設利用システム・助成業務システムの活用

施設利用システムの効率的な運用について検討し、ログインの方式、帳票の修正等の必要な改修を行った。また、助成業務システムについても、検索機能の改善や帳票の修正等の改修を行い、業務の効率化に対応した。

なお、21年度本館小劇場の申込抽選会では施設利用システム搭載のPCを会場に持ち込み、実際の作業と並行して受付から内定通知発行までを現場で試行した。

(4) 情報通信基盤及び情報システムの構成機器更新、セキュリティの強化

館内LANのハードウェアの再構築により、より安定的な情報通信基盤を確保し、事務の効率化を図るとともに、ホームページのバックアップシステムの整備（冗長化）を行い、利用者へのサービス停止を回避する体制を整えた。

また、情報セキュリティポリシーを策定し、情報の保全と情報システムを安全かつ効率的に運営していくための体制を整えた。パスワードの個人管理、パソコンの基本ソフトのプログラム修正の適用など、情報セキュリティの向上を図るとともに、職員の意識向上のために情報セキュリティ研修を行い、また、セキュリティポリシーに従い自己点検を実施した。

3. 事務手続きの簡素化

(1) 決裁事務の簡素化

個々の決裁書類については、合議を必要最小限にとどめ、決裁者を原則課長以上とし、決裁事務の簡素化を図った。引き続き、館内LANを介してのグループウェアや内部ホームページ等の活用により、事務手続きの効率的な実施と事業の速やかな実施に努めた。

(2) インターネット・チケット販売システム

独自のインターネットチケット販売システムを構築し、19年9月より販売を開始した（10月演芸場公演発売分）。システムの導入により、主として以下のとおり手続きの簡素化・迅速化、利便性向上を図った。

- ・ 電話予約受付時間外のインターネット販売の実現
- ・ インターネット決済、自動発券機の導入による予約可能期限の延長（開演時間2時間前まで）。チケット引取り期限の撤廃（事前引き取り不要）
- ・ インターネット会員登録による購入手続きの簡素化
- ・ お知らせメール送信による情報取得の利便性向上
- ・ 自動発券機導入による発券手続きの迅速化・窓口業務の軽減
- ・ 英語版販売ページの公開により外国人の利便性の向上
- ・ 売上データの内部ホームページでの共用により、売上の分析や営業方針の策定が容易になった。

4. 一般競争入札による外部委託の推進

(1) 随意契約の見直し計画

「独立行政法人整理合理化計画」に従い、「随意契約見直し計画」を作成して公表するとともに（19年12月）、第2期中期計画に掲げ、契約における公平性、透明性の向上に努めた。

会計規程に基づき原則として一般競争入札等により契約するとともに、併せて19年4月1日より会計規程を改正し、少額案件について競争入札によらず調達できる金額を引き下げ、競争入札の範囲の拡大を図った（工事・製造・物品・借入以外のその他の契約は「300万円以下」から「100万円以下」としたなど）。

「随意契約見直し計画」では、100万円を超える契約について345件のうち、見直し前の随意契約224件（65%）・83.7億円（78%）を見直し後は115件（33%）・78.5億円（73%）に低減する（18年度契約ベース）。

(2) 入札機会の拡大

引き続き、入札公告等を敷地内に掲示するとともに、振興会ホームページにおいて、競争入札参加に必要な資格・競争

参加資格有資格者一覧・入札情報（入札公告等）を掲載し、入札機会の拡大を図った。

(3) 外部委託の推進

警備業務・駐車場管理業務（本館・能楽堂）、警備業務・電話交換業務（文楽劇場）、清掃業務（能楽堂及び文楽劇場）、電気供給（本館、能楽堂及び文楽劇場）について、20年度契約より従来の単年度契約に替えて2年間の複数年契約を締結することとして一般競争入札を実施した。また、損害保険のうち火災保険については、本館、能楽堂、文楽劇場を一括して3年間の複数年契約とした。

(4) 公共サービス改革（官民競争入札等）に係る状況

① 民間からの提案

19年6月に政府が実施した「特区、地域再生、規制改革、公共サービス改革集中受付月間」（あじさい月間）において、「公共サービス改革基本方針の策定に関する意見（要望）」が2件あり、主務官庁と協議の上、対応を行った。

② 「独立行政法人整理合理化計画」における検討

市場化テストの導入について「劇場、その他所有施設の企画・管理・運営業務」を議論の対象として官民競争入札等監理委員会（内閣府）において検討された。9月25日に委員会によるヒアリングが行われ、12月24日の「公共サービス改革基本方針」の閣議決定で以下のとおり定められた。

- ・ 日本芸術文化振興会の設置・運営する劇場等の運営等業務
（独）日本芸術文化振興会の劇場等の管理・運営等業務について、民間競争入札の実施の可否等を検討し、平成20年度中に結論を得る。

5. 事務の一元化

(1) 調達事務の一元化

19年度の本館警備業務と駐車場管理業務について一括委託を行った。電気供給、清掃業務委託など、政府調達を実施する大型の契約について、引き続き、本館・能楽堂・文楽劇場の契約事務を経理部契約課に集中して行った。また、本館及び文楽劇場の大道具・小道具賃借等について、芸能部企画課（本館）で一括して契約した。

(2) インターネット販売の充実等による業務の一元化

インターネット販売システムを構築し19年9月より稼働した。また、インターネット販売システムとチケット管理システムの連携を確立し、効率的な業務実施を図った。

（主な一元化の内容）

- ・ すべての劇場の販売情報をチケットセンターホームページに集約、各劇場が行っていた販売情報の管理を一元化
- ・ 全劇場のインターネットにおける販売状況を一括管理し票券管理を一元化

6. 省エネルギー、リサイクル等の推進

(1) 光熱水量の削減

主として以下のような取組みにより、光熱水量の節減を図った。

- ・ 事務所部分を中心に、夏季の軽装勤務奨励（クールビズ）及び冷暖房の抑制（設定温度の制限）を実施した。
- ・ 照明器具について、人感センサーの設置、省エネタイプへの更新を行った。本館事務所の通路及びトイレ、本館の観客用トイレ・楽屋トイレ、能楽堂の観客用トイレ・事務所通路に人感センサーによる自動点滅装置を取り付けた。

事 項	区 分	使用量	前年度比
電 気	本館・演芸場	5,777,818kwh	2.0%
	能楽堂	1,005,607kwh	△2.8%
	文楽劇場	2,490,099kwh	△0.6%
	合 計	9,273,524kwh	0.8%
ガ ス	本館・演芸場	64,692m ³	8.2%
	能楽堂	90,382m ³	4.6%
	文楽劇場	170,289m ³	△2.3%
	合 計	325,363m ³	1.5%
水 道	本館・演芸場	77,387m ³	△1.9%
	能楽堂	8,586m ³	10.0%
	文楽劇場	20,312m ³	△6.3%
	合 計	106,285m ³	△1.9%

(2) 廃棄物の減量化

劇場内のゴミ集積場所に可燃物、不燃物、ビン・カン、ペットボトルの分別箱を設置し、分別を呼びかけた。また、廃棄物収集を含めて清掃委託業者に分別作業の徹底を指導した。19年度は、劇場ロビーのゴミ箱に分別投入を促す表示を行った。

事 項	区 分	使用量	前年度比
一般廃棄物	本館・演芸場	67,790kg	△84.3%
	能楽堂	8,100kg	△5.5%
	文楽劇場	64,461kg	△28.7%
	合 計	140,351kg	△73.5%
再利用廃棄物	本館・演芸場	169,853kg	17.9%
	能楽堂	7,762kg	9.1%
	文楽劇場	13,420kg	△8.6%
	合 計	191,035kg	15.2%
産業廃棄物	本館・演芸場	73,122kg	46.0%
	能楽堂	1,870kg	1,733.3%
	文楽劇場	8,900kg	△51.6%
	合 計	83,892kg	49.6%

(3) ペーパーレス化

主として以下のような取組みにより、ペーパーレス化を図った。

- ・ 引き続き、館内LANを介してのグループウェア（電子メール・電子掲示板）、内部ホームページの活用を促進し、事務連絡等のペーパーレス化を推進した。
- ・ 会議資料等の両面コピー及び両面印刷を推奨した。また、コピー機を更新し、両面印刷や集約印刷の機能強化、スキヤナ機能の付加を行った。
- ・ 最小限のプリントアウト、コピー使用や作成途中の検討資料等について反故紙の活用を奨励した。

事 項	区 分	使用量	前年度比
コピー枚数	本館・演芸場	1,665,854枚	△6.6%
	能楽堂	211,908枚	3.8%
	文楽劇場	253,446枚	3.7%
	合 計	2,131,208枚	△4.6%
	うち管理部門	766,221枚	△6.4%
用紙購入	本館・演芸場	3,246,500枚	9.6%
	能楽堂	220,000枚	△50.0%
	文楽劇場	492,000枚	34.4%
	合 計	3,958,500枚	5.0%

(4) グリーン購入法に基づいた調達

事務用品等を中心にグリーン購入法に基づいた物品の購入及びコピー機の賃貸借を行った。

【特記事項】

- ・ 本館の廃棄物処理について、仕様書を見直し、ゴミの種別単価の設定を細分化したことで、廃棄物処理料金の削減結果が得られた（一般廃棄物・再利用廃棄物合計で対前年度3,911千円の削減）。
- ・ トイレットペーパーの新規補充を観客用トイレのみに限定した結果、前年度より約25%使用量を削減した（月平均で約1,000個の削減、事務所部分はすべて使いかけ品を補充）。
- ・ 光熱水量は、食堂・売店等の使用量を除いている。

7. 効率化対策に関する調査研究

- ・ 劇場施設以外の施設の有効活用

引き続き、伝統芸能情報館レクチャー室、能楽堂大講義室、国立劇場おきなわ交流プラザについて有効活用を図るため、業務に支障のない範囲で外部への貸出しを行った。

（利用実績）

施設名	利用件数	利用時間
伝統芸能情報館レクチャー室	3件	8時間
能楽堂大講義室	34件	83時間
国立劇場おきなわ交流プラザ	26件	56時間

8. 「行政改革の重要方針」及び国家公務員の給与構造改革を踏まえた取組み

(1) 「行政改革の重要方針」を踏まえた取組み（総人件費改革）

中期目標期間の最終年度である19年度においては、17年度に比較して1.68%（人事院勧告を踏まえた給与改定分を除くと2.58%）の人件費を削減した。

また、より効率的な事業遂行のための職員配置及び新規職員の採用を実施した（高齢者採用の実施、20年4月採用職員の10月前倒し採用の実施等）。

(2) 国家公務員の給与構造改革を踏まえた取組み

昨年に引き続き給与構造改革を踏まえた給与改定を実施し、国家公務員との給与の比較を行い、他の独法同様に内容についてホームページ等で公表した。

<一般職俸給表適用者との比較（18年度ベース）>

項 目	国の一般職俸給表適用者	振興会一般職俸給表適用者
平均年齢	40.7歳	45.9歳
学歴（大学卒の割合）	48.2%	72.5%

<他の独立行政法人との比較（18年度ベース）>

項 目	全独立行政法人	日本芸術文化振興会
給与総額	7,326千円	7,277千円
平均年齢	43.3歳	45.9歳
ラスバイレス指数※	107.4	99.2

※ 国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数。

【特記事項】

役員の地域手当の引上げを19年度は見送った。

《数値目標の達成状況》

【一般管理費など事務的経費の効率化の達成率】

A：19年度一般管理費決算額

B：14年度一般管理費予算額

(A - B) ÷ A = ⇒ △25%減

				<p>A : 1,112,530千円 B : 1,488,359千円</p> <p>【事業費の効率化の達成率】 A : (当該年度事業費予算額(退職手当を除く) - 当該年度特殊要因予算額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 B : (当該年度事業費決算額(退職手当を除く) - 当該年度特殊要因決算額)</p> <p>(A - B) ÷ A = 0.01 ⇒ 1%減</p> <p style="text-align: right;">(単位:円)</p> <p>A : (10,307,647,000 - 0 - 0 + 280,368,988) ÷ 0.99 = 10,694,965,644</p> <p>B : 10,590,911,013 - 0 = 10,590,911,013</p>		
	一般管理費など事務的経費の効率化の達成率	13.5%以上	13.0%以上 13.5%未満	13.0%未満	<p>A : 19年度一般管理費決算額 B : 14年度一般管理費予算額 (A - B) ÷ A = ⇒ Δ25%減 A : 1,112,530千円 B : 1,488,359千円</p>	
	事業費の効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	<p>A : (当該年度事業費予算額(退職手当を除く) - 当該年度特殊要因予算額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 B : (当該年度事業費決算額(退職手当を除く) - 当該年度特殊要因決算額)</p> <p>(A - B) ÷ A = 0.01 ⇒ 1%減</p> <p style="text-align: right;">(単位:円)</p> <p>A : (10,307,647,000 - 0 - 0 + 280,368,988) ÷ 0.99 = 10,694,965,644</p> <p>B : 10,590,911,013 - 0 = 10,590,911,013</p>	B
1-2. 効率化の進捗状況をふまえた組織機構の検討	組織機構の在り方の検討状況	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する</p>		<p>(1) 人員配置・専門性の確保 人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適正な人事異動を行うとともに、主席芸能調査役を1名増員し、専門的著書の研究、刊行に対応した。 また、自己都合退職における欠員を補うため、20年度採用予定者の一部を19年10月に前倒しで採用し、効率的な補充対策を講じた。 なお、職員の専門性の確保を図るための職員研修の見直しを行い、次年度からの公演研修の導入を検討した。従来は、短期間の自主公演制作実務研修や公演監事室勤務を通じて新規採用職員に振興会の事業に関する研修を実施してきたが、次年度からは公演制作過程の実習を行うとともに3年間にわたり伝統芸能の上演を見てレポートの提出を行う新たな公演研修制度を創設する。</p> <p>(2) 公演記録等振興会の知的財産の活用への取組み 従来より公演記録のビデオ化(DVD化)は、振興会の課題であったが、著作権、収支見込み等の困難な課題が多々ある。既存の体制ではなかなか前進することができなかったため、組織の枠組みにとられない知的財産活用推進本部を組織し、これらの問題に取り組むこととなった。</p>	A	
2. 外部評価の実施、職員の意識改革	外部評価の実施状況	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する</p>		<p>(1) 自己点検評価の実施 ① 18年度の業務実績に関する自己点検評価について 19年2月～3月 各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施 3月～4月 各部において自己点検評価を実施 4月～5月 経理部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ 5月11日 臨時部長会を開催し、自己点検評価を審議 5月16日 理事長により自己点検評価を決定 6月29日 評議員会において、18年度の業務の実績に関する評価を審議・決定 ② 19年度の業務の実績に関する自己点検評価について 自己点検評価は膨大な作業量となるため、公演事業については四半期ごとに自己点検評価を実施して取りまとめることにより業務を分散させ、負担の軽減を図った。また、文部科学省独立行政法人評価委員会において評価の前倒しが検討されているため、各部における自己点検評価を年度内に実施するなどスケジュールを早めた。</p> <p>(2) 評議員会、評価委員会等の実施 ① 評議員会 第9回(6/19)、第10回(9/18)、第11回(3/28)の3回開催した。 議題等: 18年度評価及び18年度決算についての審議、18年度評価結果・評価結果への対応について報告、19年度計画実施状況の報告、第2期中期計画について審議、20年度計画について審議等</p>	B A A	
					<p>評価及び独立行政法人職員の研修について積極的な方策の取り組みが認められる。 今後とも、負担とのバランスを考慮した評価の適切な在り方を検討するとともに、職員の意識改革を進めていくことが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 研修については、他劇場の視察の励行を望む。 現代舞台芸術の外部評価について、今後、各分野の評価の基準についてバラつきがないことを望む。</p>	

			<p>改選：19年10月1日付けで9名の改選を行い、15名から20名とした。</p> <p>② 評価委員会 第14回(4/20)、第15回(6/15)、第16回(6/19)、第17回(10/23)の4回開催した。 議題等：18年度評価の実施、17年度評価結果への対応についての報告、19年度計画についての説明、19年度評価についての報告等 視察：国立劇場おきなわの視察（公演事業・養成事業）、伝統芸能情報館の視察（展示） 改選：19年10月1日付けで2名の改選を行った（7名中）。</p> <p>(3) 公演専門委員会、事業委員会、芸術文化振興基金運営委員会の開催</p> <p>① 公演専門委員会 各公演事業専門委員会を次のとおり実施した。 ・ 歌舞伎公演専門委員会2回開催（6/21・3/25） ・ 文楽公演専門委員会（本館）2回開催（6/5・3/21） ・ 舞踊公演専門委員会2回開催（5/17・3/27） ・ 邦楽公演専門委員会2回開催（5/17・2/22） ・ 雅楽・声明公演専門委員会2回開催（4/26・2/22） ・ 民俗芸能公演専門委員会2回開催（6/5・3/18） ・ 大衆芸能公演専門委員会2回開催（6/28・3/28） ・ 能楽公演専門委員会2回開催（2/5・3/6） ・ 文楽劇場文楽公演専門委員会2回開催（5/17・2/28） ・ 文楽劇場短期公演専門委員会2回開催（5/17・3/13） 議題等：19年度計画・公演事業計画についての説明、18年度評価結果についての報告、19年度の公演事業の実施状況についての意見聴取等</p> <p>② 事業委員会 開催状況：養成事業委員会1回開催（3/24）、調査事業委員会1回開催（7/6） 議題等：19年度計画・事業計画についての説明、18年度評価結果についての報告、19年度の事業の実施状況についての意見聴取等</p> <p>③ 芸術文化振興基金運営委員会 第12回(9/5)、第13回(1/28)、第14回(3/12)の3回開催した。 議題等：20年度助成活動の審査の付託、20年度助成活動の決定、改善意見についての審議等</p> <p>(4) 評価結果への対応 18年度の業務の実績に関する評価において文部科学省独立行政法人評価委員会、振興会評価委員会等により付された意見等について、各部において対応を検討し、可能な限り19年度の事業へ反映するとともに、20年度計画への反映を図った。また、評議員会及び評価委員会へ報告を行った。</p>	
職員に対する研修の実施状況	振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する		<p>(1) 内部研修を次のとおり実施した。 新人職員研修、新規採用職員に対する公演制作・舞台業務研修、理事長及び総務担当理事による管理職職員・職員業務研修、職員の芸術文化に対する意識向上のための特別研修、メンタルヘルス及びセクシャルハラスメント防止研修、職員の情報の管理に対する意識の改善に向けた情報セキュリティ研修会、パソコン実務研修、55歳以上の職員を対象としたセカンドライフ研修、ほか（参加者1,185人）</p> <p>(2) 外部の研修を次のとおり実施した。（参加者86人）</p> <p>① 人事関係 人事行政研究所任用実務・給与実務等各研修会、文部科学省文教団体共同職員研修会、人権に関する国家公務員等研修会、国における人事制度等に関する説明会、ほか（参加者44人）</p> <p>② 会計関係 政府関係法人会計事務職員研修、政府出資法人等の調達担当者研修会（参加者4人）</p> <p>③ 情報処理関係 ベクターワークス基本実習講座（参加者1人）</p> <p>④ 芸術・文化関係 著作権セミナー、文化資源学フォーラム、図書館等職員著作権実務講習会、ほか（参加者11人）</p> <p>⑤ その他業務研修 電話・応対接遇セミナー、独立行政法人経営改革セミナー、市場化テストの実務的課題の対応方法と今後の展望、経営の効率化等貢献するためのセミナー、公文書館等研修会、評価・監査中央セミナー、情報公開・個人情報制度の運営に関する説明会、行政機関及び独立行政法人等のための個人情報保護セミナー、母性保護・育児休業研修会、ほか（参加者27人）</p> <p>【特記事項】 新規の研修として、総務担当理事による業務の進め方・考え方についての実務研修、個人情報等の取扱いに対する意識の向上のための情報セキュリティ研修、パソコン実務研修を企画、実施した。 職員の芸術文化に対する意識向上のための特別研修は、無形文化財保持者（人間国宝）狂言師の野村萬を講師に迎えて「狂言の心」と題して講演を行った。 職員の専門性の確保を図るための職員研修として、新規採用職員を対象に公演研修の導入を検討した。</p>	A

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定																																																																																																																																																																																		
		A	B	C		段階的評定	定 性 的 評 定 等																																																																																																																																																																																	
1. 芸術文化活動に対する支援	(1)-1 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p> <p>※Sについては、客観的基準を事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。また、Fについても、客観的基準を事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合、その評定を付す。 【以下、全ての項目について同様】</p>			<p>1. 助成金の交付</p> <p>(1) 19年度助成金の交付実績</p> <p>① 舞台芸術振興事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>交付件数</th> <th>交付金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音 楽</td> <td>17件</td> <td>148,600千円</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>19件</td> <td>83,400千円</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>45件</td> <td>208,600千円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>81件</td> <td>440,600千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 芸術文化振興基金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>交付件数</th> <th>交付金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">芸術創造普及活動</td> <td>現代舞台芸術創造普及活動</td> <td>272件</td> <td>734,400千円</td> </tr> <tr> <td>音 楽</td> <td>65件</td> <td>226,100千円</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>45件</td> <td>76,700千円</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>162件</td> <td>431,600千円</td> </tr> <tr> <td>伝統芸能の公開</td> <td>38件</td> <td>79,400千円</td> </tr> <tr> <td>美術の創造普及活動</td> <td>14件</td> <td>18,300千円</td> </tr> <tr> <td>先駆的・実験的芸術創造活動</td> <td>58件</td> <td>99,500千円</td> </tr> <tr> <td>芸術の国際交流活動</td> <td>8件</td> <td>28,200千円</td> </tr> <tr> <td>映画の製作活動</td> <td>31件</td> <td>357,000千円</td> </tr> <tr> <td>劇映画</td> <td>18件</td> <td>290,000千円</td> </tr> <tr> <td>記録映画</td> <td>10件</td> <td>41,000千円</td> </tr> <tr> <td>アニメーション映画</td> <td>3件</td> <td>26,000千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>421件</td> <td>1,316,800千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">地域文化振興活動</td> <td>地域文化施設公演・展示活動</td> <td>180件</td> <td>271,000千円</td> </tr> <tr> <td>文化会館公演活動</td> <td>113件</td> <td>130,200千円</td> </tr> <tr> <td>美術館展示活動</td> <td>67件</td> <td>140,800千円</td> </tr> <tr> <td>歴史的集落・町並み・文化的景観保存活用活動</td> <td>11件</td> <td>9,700千円</td> </tr> <tr> <td>民俗文化財の保存活用活動</td> <td>19件</td> <td>15,900千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>210件</td> <td>296,600千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">文化振興普及団体活動</td> <td>アマチュア等の文化団体活動</td> <td>150件</td> <td>135,000千円</td> </tr> <tr> <td>伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動</td> <td>8件</td> <td>21,400千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>158件</td> <td>156,400千円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>789件</td> <td>1,769,800千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 20年度助成対象活動の募集実績</p> <p>① 舞台芸術振興事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>応募件数</th> <th>採択件数</th> <th>交付予定額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音 楽</td> <td>120件</td> <td>6件</td> <td>65,100千円</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>56件</td> <td>8件</td> <td>37,100千円</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>298件</td> <td>20件</td> <td>94,800千円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>474件</td> <td>34件</td> <td>197,000千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 芸術文化振興基金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>応募件数</th> <th>採択件数</th> <th>交付予定額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">芸術創造普及活動</td> <td>現代舞台芸術創造普及活動</td> <td>864件</td> <td>272件</td> <td>840,900千円</td> </tr> <tr> <td>音 楽</td> <td>205件</td> <td>55件</td> <td>263,800千円</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>119件</td> <td>47件</td> <td>101,700千円</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>540件</td> <td>170件</td> <td>475,400千円</td> </tr> <tr> <td>伝統芸能の公開活動</td> <td>82件</td> <td>47件</td> <td>83,600千円</td> </tr> <tr> <td>美術の創造普及活動</td> <td>47件</td> <td>23件</td> <td>35,000千円</td> </tr> <tr> <td>多分野共同等芸術創造活動</td> <td>72件</td> <td>20件</td> <td>36,500千円</td> </tr> <tr> <td>映画の製作活動(※)</td> <td>56件</td> <td>12件</td> <td>162,000千円</td> </tr> <tr> <td>劇映画</td> <td>38件</td> <td>8件</td> <td>130,000千円</td> </tr> <tr> <td>記録映画</td> <td>15件</td> <td>3件</td> <td>12,000千円</td> </tr> <tr> <td>アニメーション映画</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>20,000千円</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>1,121件</td> <td>374件</td> <td>1,158,000千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地域文化振興活動</td> <td>地域文化施設公演・展示活動</td> <td>281件</td> <td>190件</td> <td>312,400千円</td> </tr> <tr> <td>文化会館公演活動</td> <td>166件</td> <td>113件</td> <td>138,100千円</td> </tr> <tr> <td>美術館展示活動</td> <td>115件</td> <td>77件</td> <td>174,300千円</td> </tr> </tbody> </table>	助成対象分野	交付件数	交付金額	音 楽	17件	148,600千円	舞 踊	19件	83,400千円	演 劇	45件	208,600千円	合 計	81件	440,600千円	助成対象分野	交付件数	交付金額	芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	272件	734,400千円	音 楽	65件	226,100千円	舞 踊	45件	76,700千円	演 劇	162件	431,600千円	伝統芸能の公開	38件	79,400千円	美術の創造普及活動	14件	18,300千円	先駆的・実験的芸術創造活動	58件	99,500千円	芸術の国際交流活動	8件	28,200千円	映画の製作活動	31件	357,000千円	劇映画	18件	290,000千円	記録映画	10件	41,000千円	アニメーション映画	3件	26,000千円	小 計	421件	1,316,800千円	地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	180件	271,000千円	文化会館公演活動	113件	130,200千円	美術館展示活動	67件	140,800千円	歴史的集落・町並み・文化的景観保存活用活動	11件	9,700千円	民俗文化財の保存活用活動	19件	15,900千円	小 計	210件	296,600千円	文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	150件	135,000千円	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	8件	21,400千円	小 計	158件	156,400千円	合 計	789件	1,769,800千円	助成対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額	音 楽	120件	6件	65,100千円	舞 踊	56件	8件	37,100千円	演 劇	298件	20件	94,800千円	合 計	474件	34件	197,000千円	助成対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額	芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	864件	272件	840,900千円	音 楽	205件	55件	263,800千円	舞 踊	119件	47件	101,700千円	演 劇	540件	170件	475,400千円	伝統芸能の公開活動	82件	47件	83,600千円	美術の創造普及活動	47件	23件	35,000千円	多分野共同等芸術創造活動	72件	20件	36,500千円	映画の製作活動(※)	56件	12件	162,000千円	劇映画	38件	8件	130,000千円	記録映画	15件	3件	12,000千円	アニメーション映画	3件	1件	20,000千円	小 計	1,121件	374件	1,158,000千円	地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	281件	190件	312,400千円	文化会館公演活動	166件	113件	138,100千円	美術館展示活動	115件	77件	174,300千円	A	A A A	<p>支援事業は、審査及び公表等の情報提供を含め、円滑に進められ、申請受理から交付決定までの期間の短縮及び助成対象活動の調査件数においても、数値上、一層の成果が認められる。また、「舞台芸術振興事業」と「芸術文化振興基金」の助成対象活動の区分の見直しなど、応募者に対する募集の趣旨の明確化を行ったことも評価できる。今後とも、交付事務の一層の効率化、応募者への募集の趣旨のさらなる明確化に努めることが期待される。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁支援事業と振興会助成事業の統合、一元化に向け、対象事業の再整理と明確なメニュー化が望まれる。 ・各専門委員会の審査方法等の選考基準が検討された結果を明示されることが望まれる。 ・助成が適正かつ効果的に使用されていることを確認するため、引き続き、全体の1/3以上の調査件数の確保が必要であると考ええる。
助成対象分野	交付件数	交付金額																																																																																																																																																																																						
音 楽	17件	148,600千円																																																																																																																																																																																						
舞 踊	19件	83,400千円																																																																																																																																																																																						
演 劇	45件	208,600千円																																																																																																																																																																																						
合 計	81件	440,600千円																																																																																																																																																																																						
助成対象分野	交付件数	交付金額																																																																																																																																																																																						
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	272件	734,400千円																																																																																																																																																																																					
	音 楽	65件	226,100千円																																																																																																																																																																																					
	舞 踊	45件	76,700千円																																																																																																																																																																																					
	演 劇	162件	431,600千円																																																																																																																																																																																					
	伝統芸能の公開	38件	79,400千円																																																																																																																																																																																					
	美術の創造普及活動	14件	18,300千円																																																																																																																																																																																					
	先駆的・実験的芸術創造活動	58件	99,500千円																																																																																																																																																																																					
	芸術の国際交流活動	8件	28,200千円																																																																																																																																																																																					
	映画の製作活動	31件	357,000千円																																																																																																																																																																																					
	劇映画	18件	290,000千円																																																																																																																																																																																					
	記録映画	10件	41,000千円																																																																																																																																																																																					
	アニメーション映画	3件	26,000千円																																																																																																																																																																																					
	小 計	421件	1,316,800千円																																																																																																																																																																																					
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	180件	271,000千円																																																																																																																																																																																					
	文化会館公演活動	113件	130,200千円																																																																																																																																																																																					
	美術館展示活動	67件	140,800千円																																																																																																																																																																																					
	歴史的集落・町並み・文化的景観保存活用活動	11件	9,700千円																																																																																																																																																																																					
	民俗文化財の保存活用活動	19件	15,900千円																																																																																																																																																																																					
小 計	210件	296,600千円																																																																																																																																																																																						
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	150件	135,000千円																																																																																																																																																																																					
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	8件	21,400千円																																																																																																																																																																																					
	小 計	158件	156,400千円																																																																																																																																																																																					
合 計	789件	1,769,800千円																																																																																																																																																																																						
助成対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額																																																																																																																																																																																					
音 楽	120件	6件	65,100千円																																																																																																																																																																																					
舞 踊	56件	8件	37,100千円																																																																																																																																																																																					
演 劇	298件	20件	94,800千円																																																																																																																																																																																					
合 計	474件	34件	197,000千円																																																																																																																																																																																					
助成対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額																																																																																																																																																																																					
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	864件	272件	840,900千円																																																																																																																																																																																				
	音 楽	205件	55件	263,800千円																																																																																																																																																																																				
	舞 踊	119件	47件	101,700千円																																																																																																																																																																																				
	演 劇	540件	170件	475,400千円																																																																																																																																																																																				
	伝統芸能の公開活動	82件	47件	83,600千円																																																																																																																																																																																				
	美術の創造普及活動	47件	23件	35,000千円																																																																																																																																																																																				
	多分野共同等芸術創造活動	72件	20件	36,500千円																																																																																																																																																																																				
	映画の製作活動(※)	56件	12件	162,000千円																																																																																																																																																																																				
	劇映画	38件	8件	130,000千円																																																																																																																																																																																				
	記録映画	15件	3件	12,000千円																																																																																																																																																																																				
	アニメーション映画	3件	1件	20,000千円																																																																																																																																																																																				
	小 計	1,121件	374件	1,158,000千円																																																																																																																																																																																				
	地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	281件	190件	312,400千円																																																																																																																																																																																			
文化会館公演活動		166件	113件	138,100千円																																																																																																																																																																																				
美術館展示活動		115件	77件	174,300千円																																																																																																																																																																																				

	歴史的集落・町並み・文化的 景観保存活用活動	14件	11件	7,900千円
	民俗文化財の保存活用活動	32件	27件	18,800千円
	小 計	327件	228件	339,100千円
文化振興 普及活動	アマチュア等の文化団体活動	246件	163件	129,900千円
	伝統工芸技術・文化財保存技 術の保存伝承等活動	12件	8件	22,300千円
	小 計	258件	171件	152,200千円
	合 計	1,706件	773件	1,649,300千円

※ 注：芸術創造普及活動については、映画の製作活動第2回募集分は含まれていない。

③ 募集案内の作成に当たっては、「舞台芸術振興事業」と「芸術文化振興基金」の趣旨を分かりやすく表紙に明記するとともに、芸術文化振興基金の助成対象活動の区分についても一部見直しを行うなど、応募者に対して募集の趣旨がより明確となるよう努めた。

(3) 助成対象活動の募集に当たっては以下の点に考慮の上で実施。
 ア 芸術団体等の自主性を尊重し、活動目的及び内容等に関する助言については、慎重に対応した。
 また、助成金交付要望書の記入について、引き続き相談期間を設けて対応した。
 イ 都道府県経由で応募のあった地域文化振興活動及び文化振興普及団体活動について、都道府県担当者からのヒアリングを実施した。

(1)-2 助成金交付事務の効率化・簡素化状況

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

(4) 内部事務の見直しを行うなど事務の簡素化・効率化を行い、助成金交付申請書受理から交付決定までの期間について短縮を図った。

区 分	実 績	目 標
舞台芸術振興事業	29.5日	48.0日
芸術文化振興基金	36.0日	
平 均	35.4日	

A

交付申請書受理から交付決定までの期間の効率化の達成状況

48日未満	48日以上 62日未満	62日以上
-------	----------------	-------

実績35.4日／目標48日以内（達成度135.6%）

A

(2) 審査における客観性及び透明性を確保するための体制の整備等

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

2. 審査手続き等に関する客観性及び透明性の確保を図るための体制の整備

- (1) 舞台芸術振興事業助成金交付要綱及び同取扱細則並びに芸術文化振興基金助成金交付要綱及び同取扱細則を、ホームページにおいて公表。
- (2) 19年度助成対象活動の決定に関する公表状況
- ① 19年3月26日付で助成対象活動の決定について公表し、公表資料をホームページに掲載。
 - ② 広報誌「芸術文化振興基金 No. 22」（6月30日発行）に助成対象活動一覧のほか審査経過等を掲載し、同誌をホームページに掲載。
- (3) 20年度助成対象活動の審査状況
- 芸術文化振興基金運営委員会及び4つの部会、11の専門委員会において、以下のとおり審査を行った。
- なお、音楽・舞踊・演劇の各専門委員会については、文化庁芸術創造活動重点支援事業協力者会議と共同開催するとともに、舞台芸術振興事業と芸術文化振興基金の趣旨を再確認し、舞台芸術振興事業についてはその趣旨に沿って活動を選定するよう審査を行った。また、映画専門委員会については、文化庁文化芸術振興費補助金審査委員会と共同開催した。
- ① 舞台芸術等部会（2回開催・2月）
 - ・ 音楽専門委員会（2回開催・12月、1月）
 - ・ 舞踊専門委員会（2回開催・12月、1月）
 - ・ 演劇専門委員会（2回開催・12月、2月）
 - ・ 伝統芸能専門委員会（2回開催・12月、2月）
 - ・ 美術専門委員会（2回開催・12月、2月）
 - ② 映像芸術部会（1回開催・3月）
 - ・ 劇映画専門委員会（2回開催・12月、3月）
 - ・ 記録映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
 - ・ アニメーション映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
 - ③ 地域文化・文化団体活動部会（1回開催・3月）
 - ・ 地域文化活動専門委員会（2回開催・11月、2月）
 - ・ 文化団体活動専門委員会（2回開催・11月、2月）
 - ④ 文化財部会（1回開催・3月）
 - ・ 文化財保存活用専門委員会（2回開催・11月、2月）

11月中旬～12月中旬	各専門委員会において「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。
12月下旬～2月下旬	各専門委員による応募活動1件ごとの事前審査。
1月28日	運営委員会を開催し、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分について審議、決定。

A

1月下旬～3月初旬	各専門委員会において専門委員の事前審査結果をもとに、合議により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。
2月下旬～3月初旬	各部会において助成対象活動の採否及び助成金額の審議。
3月12日	運営委員会を開催し、助成対象活動について審議、決定。20年3月25日付で公表。

(3) 基金の管理運用

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

3. 芸術文化振興基金の管理運用

- (1) 運用益 1,824,662千円（当初計画1,839,579千円、14,917千円の減）
(2) 利回り 2.75%（当初計画2.78%）

【特記事項】

19年度は基金運用資金 649億円のうち、外国債50億円が償還され、再運用を行った。
現在の経済情勢を考慮すると、しばらくは国内債の低金利状況は継続すると考えられたことから、国内債よりも比較的高い利回りである外国債等に再投資を行うこととし、また、将来の償還額が毎年度概ね均等になるように再運用を行うこととした。なお、運用益が当初計画に達しなかった要因は、極端な円高ドル安という為替水準の影響により、為替連動の外国債の運用益が当初計画よりも減少したことによるものである。

A

(4)-1 助成対象活動の実施状況等の調査

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

4. 助成対象活動等に対する調査

- (1) 助成対象活動に対する調査
① 会計調査：65件（調査活動件数：167件）
② 公演等調査：231件
合計：296件（目標：180件、調査活動件数合計：398件）
(2) 助成団体への周知
交付内定通知書の送付に際して助成金交付決定の取消し等に至った具体的事例を添付し、芸術文化振興基金ホームページに不適切な事例を掲載した。
(3) 助成方策についての検討
芸術文化振興基金の助成対象活動区分について一部見直しを行い、応募者に対して助成対象活動の募集の趣旨がより明確となるよう努めた。
(4) 助成の効果
助成対象活動に係る「助成の効果」について、19年度助成対象活動実績報告書に記載された内容の整理、分類を実施。

集計結果：調査対象件数870件（複数回答を含む）

事 項	件 数
外部から質の高いスタッフ・キャスト・展示品等を確保することができた	294件
設備の整った会場の確保、舞台装置等の充実を図ることができた	229件
当初の計画通りに事業が実施できた	226件
宣伝広告等の広報活動を充実させることができた	204件
団体（団員等）経費負担が軽減され、充実した稽古を行うなど活動に専念できた	138件
入場料の軽減等により幅広い層の観客を集めることができた	128件
助成金を受けていることで公演活動に対する信頼が増し、団体の外部評価が向上した	93件
地域文化財等についての普及・啓発、記録保存の充実が図られた	85件
国際交流の発展及び振興が図られた	57件
地方における芸術文化の活性化に寄与できた	41件
伝統芸能・伝統技術の承継、民俗芸能の復活に役立った	24件
文芸費等の充実により公演内容の向上を図ることができた	21件
地域住民参加による活動が実施できた	19件
活動地域の文化団体と他の地方文化団体との交流促進に寄与できた	15件
創造的・実験的活動が実施できた	13件
今後の活動においての向上心、発展性につながった	10件
合 計	1,597件

A A

(4)-2 芸術団体等に対する各種情報等の提供

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

5. 広報活動

- (1) 基金による助成事業の概要等を紹介したチラシ（3種類）を作成・配布
・ 助成事業の概要を紹介したパンフレット（二つ折り）を作成・配布
・ 映画の製作活動助成を紹介したチラシを作成・配布
・ 芸術文化振興基金助成対象活動PRチラシを作成・配布
(2) 広報誌「芸術文化振興基金 No. 22」を発行（6月30日）し、19年度助成対象活動の決定等の記事掲載。
(3) 「日本芸術文化振興会ニュース」及び「文化庁月報」へ、基金の概要、助成対象活動の募集案内等の記事掲載（毎月）。
(4) 20年度募集案内広告掲載（20誌、10月上旬～11月下旬）。
(5) 20年度募集案内ポスターを配布（都道府県、政令指定都市、公立文化施設等に送付し、広報協力を依頼）。
(6) 20年度助成対象活動募集説明会の開催
・ 大阪：10月 9日、芸術創造普及活動等対象（芸術団体等対象、会場・プリムローズ大阪）
・ 東京： 9月27日、地域文化振興活動・文化振興普及団体活動等対象（都道府県担当者対象、会場・伝統芸能情報館）
・ 東京：10月15日：芸術創造普及活動等対象（会場・こまばエミナースホール）
・ 東京：10月16日：芸術創造普及活動等対象（会場・こまばエミナースホール）
・ 東京：10月17日：映画の製作活動対象（会場・こまばエミナースホール）

A

		<p>(7) 12月に開催された日本動画協会の会議に出席し、募集案内について説明を実施。</p> <p>(8) 基金部ホームページの充実</p> <p>① 都道府県及び政令指定都市に対して、基金ホームページへのリンクを要請</p> <p>② ホームページの構成・内容を随時見直し、ホームページの利便性を向上</p> <p>③ 19年度アクセス件数 実績：97,255件（目標：100,000件）</p>	<p>実績97,255件／目標100,000件（達成度97.3%）</p>	B																																																																																																							
<p>2. 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p>	<p>(1) 伝統芸能の公開</p> <p>振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>(1) 公演実績</p> <table border="1" data-bbox="1092 506 2065 978"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>公演数</th> <th>回数</th> <th>日数</th> <th>入場者数(入場率)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歌舞伎</td> <td>4公演</td> <td>99回</td> <td>94日</td> <td>90,622人(60.2%)</td> <td>89,500人(62.6%)</td> </tr> <tr> <td>文楽</td> <td>8公演</td> <td>321回</td> <td>149日</td> <td>140,162人(66.4%)</td> <td>133,700人(63.0%)</td> </tr> <tr> <td>短期公演</td> <td>20公演</td> <td>31回</td> <td>24日</td> <td>17,462人(76.8%)</td> <td>16,870人(74.2%)</td> </tr> <tr> <td>舞踊</td> <td>5公演</td> <td>9回</td> <td>6日</td> <td>4,719人(75.2%)</td> <td>4,930人(78.5%)</td> </tr> <tr> <td>邦楽</td> <td>5公演</td> <td>7回</td> <td>7日</td> <td>3,645人(84.9%)</td> <td>3,100人(72.2%)</td> </tr> <tr> <td>雅楽</td> <td>2公演</td> <td>2回</td> <td>2日</td> <td>1,094人(92.7%)</td> <td>1,010人(85.6%)</td> </tr> <tr> <td>声明</td> <td>1公演</td> <td>1回</td> <td>1日</td> <td>1,460人(90.7%)</td> <td>1,540人(95.7%)</td> </tr> <tr> <td>民俗芸能</td> <td>3公演</td> <td>7回</td> <td>3日</td> <td>2,918人(70.7%)</td> <td>2,810人(68.0%)</td> </tr> <tr> <td>特別企画</td> <td>4公演</td> <td>5回</td> <td>5日</td> <td>3,626人(69.2%)</td> <td>3,480人(66.4%)</td> </tr> <tr> <td>大衆芸能</td> <td>67公演</td> <td>313回</td> <td>285日</td> <td>54,653人(60.2%)</td> <td>40,380人(44.5%)</td> </tr> <tr> <td>能楽</td> <td>50公演</td> <td>52回</td> <td>51日</td> <td>30,870人(94.7%)</td> <td>29,500人(90.5%)</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>149公演</td> <td>816回</td> <td>603日</td> <td>333,769人(65.8%)</td> <td>309,950人(61.9%)</td> </tr> <tr> <td>組踊等沖縄伝統芸能</td> <td>30公演</td> <td>39回</td> <td>36日</td> <td>14,625人(62.7%)</td> <td>14,400人(60.5%)</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>179公演</td> <td>855回</td> <td>639日</td> <td>348,394人(65.6%)</td> <td>324,350人(61.8%)</td> </tr> <tr> <td>青少年等鑑賞教室</td> <td>6公演</td> <td>173回</td> <td>88日</td> <td>150,204人(73.1%)</td> <td>163,500人(79.5%)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>185公演</td> <td>1,028回</td> <td>727日</td> <td>498,598人(67.7%)</td> <td>487,850人(66.8%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 演目の拡充</p> <p>① 上演候補台本準備稿の作成作業 復活上演候補作品調査検討委員会（3月27日）において、各委員から、上演候補台本準備稿の作成について、最初に取り上げる作品及び作業の進捗状況に関し報告と成果の提出を受けた。</p> <p>② 歌舞伎新作脚本の募集 19年10月より募集を開始し、20年3月末日をもって締め切った。（選考、発表は20年度に行う） 周知法についても、ポスターの掲出、及び演劇雑誌への広告掲載という、前回の方式を踏襲した。結果として、今回は146篇の応募があった。</p> <p>③ 大衆芸能新作脚本の募集 8月1日より落語の脚本募集を行い、8月31日をもって締め切った。応募総数は156篇であった。1月28日に選考会を開催し、優秀作1篇・佳作2篇が選ばれた。 ・ 優秀作「並」三浦健一、佳作「蠅寄せ」栗原昇、「赤心の老松」涼山尚行</p> <p>(3) 外部団体との連携・協力、地方における上演</p> <p>① 平成19年度（第62回）文化庁芸術祭：主催公演4公演、協賛公演22公演</p> <p>② 歌舞伎鑑賞教室等における地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力</p> <p>③ 社会人のための入門公演における（社）日本経済団体連合会、（社）経済同友会、東京商工会議所、（社）東京青年会議所の後援</p> <p>④ 関西元気文化圏共催事業の実施</p> <p>⑤ 3月民俗芸能公演「山形 出羽の芸能」における山形県、財団法人山形県生涯学習文化財団等の後援・協力</p> <p>⑥ 国立劇場おきなわ8月企画公演「インドの芸能 舞踊劇カタカリ」におけるインド大使館、ICCR（インド文化交流評議会）の共催、沖印友好協会、沖縄県、沖縄県教育委員会の後援</p> <p>⑦ 受託による伝統芸能の公開：能楽鑑賞教室の出張公演（聖徳学園川並記念講堂、千葉県松戸市）</p> <p>⑧ 国立能楽堂において制作・初演された新作能「紅天女」（18年2月）の上演に協力した（6件）。</p> <p>⑨ 地方における上演</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎鑑賞教室山梨公演 （共催＝財団法人やまなし文化学習協会、19年6月26日、山梨県立県民文化ホール） 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演 （共催＝かながわ伝統芸能祭実行委員会、19年7月26日～27日、神奈川県立青少年センター） 歌舞伎鑑賞教室石垣公演 （共催＝文化庁・石垣市・石垣市教育委員会、20年3月20日～21日、石垣市民会館） 能楽鑑賞移動教室 （19年6月28日、聖徳学園川並記念講堂） <p>⑩ 海外における上演</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本伝統芸能（舞踊と邦楽）中国公演（海淀劇院（北京）、19年12月12日、1回） 国立劇場おきなわインド・タイ派遣公演「琉球舞踊～美ら島の息吹～」 	分野	公演数	回数	日数	入場者数(入場率)	目標	歌舞伎	4公演	99回	94日	90,622人(60.2%)	89,500人(62.6%)	文楽	8公演	321回	149日	140,162人(66.4%)	133,700人(63.0%)	短期公演	20公演	31回	24日	17,462人(76.8%)	16,870人(74.2%)	舞踊	5公演	9回	6日	4,719人(75.2%)	4,930人(78.5%)	邦楽	5公演	7回	7日	3,645人(84.9%)	3,100人(72.2%)	雅楽	2公演	2回	2日	1,094人(92.7%)	1,010人(85.6%)	声明	1公演	1回	1日	1,460人(90.7%)	1,540人(95.7%)	民俗芸能	3公演	7回	3日	2,918人(70.7%)	2,810人(68.0%)	特別企画	4公演	5回	5日	3,626人(69.2%)	3,480人(66.4%)	大衆芸能	67公演	313回	285日	54,653人(60.2%)	40,380人(44.5%)	能楽	50公演	52回	51日	30,870人(94.7%)	29,500人(90.5%)	小計	149公演	816回	603日	333,769人(65.8%)	309,950人(61.9%)	組踊等沖縄伝統芸能	30公演	39回	36日	14,625人(62.7%)	14,400人(60.5%)	小計	179公演	855回	639日	348,394人(65.6%)	324,350人(61.8%)	青少年等鑑賞教室	6公演	173回	88日	150,204人(73.1%)	163,500人(79.5%)	合計	185公演	1,028回	727日	498,598人(67.7%)	487,850人(66.8%)	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>伝統芸能のナショナルシアターとしての国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿った公演の制作実施が行われ、効果が上がっている。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体としての入場者数の減少傾向が見られるが、集客率の高い公演について公演回数を増やすなど、一層の集客努力が望まれる。なお、演目の選定に際しては、「通し狂言」等伝統芸能の保存・継承という観点からの公演と、普及及び法人経営という観点から観客動員を確保するための公演とのバランスを考慮することが必要である。また、一部公演で入場者数が目標値に達していないが、広報宣伝を含め、その達成に努めることが望まれる。 アンケート集計の「〇〇%が概ね満足と答えた」という表現では、回答者の真意が測りかねるので、一考を望む。
分野	公演数	回数	日数	入場者数(入場率)	目標																																																																																																						
歌舞伎	4公演	99回	94日	90,622人(60.2%)	89,500人(62.6%)																																																																																																						
文楽	8公演	321回	149日	140,162人(66.4%)	133,700人(63.0%)																																																																																																						
短期公演	20公演	31回	24日	17,462人(76.8%)	16,870人(74.2%)																																																																																																						
舞踊	5公演	9回	6日	4,719人(75.2%)	4,930人(78.5%)																																																																																																						
邦楽	5公演	7回	7日	3,645人(84.9%)	3,100人(72.2%)																																																																																																						
雅楽	2公演	2回	2日	1,094人(92.7%)	1,010人(85.6%)																																																																																																						
声明	1公演	1回	1日	1,460人(90.7%)	1,540人(95.7%)																																																																																																						
民俗芸能	3公演	7回	3日	2,918人(70.7%)	2,810人(68.0%)																																																																																																						
特別企画	4公演	5回	5日	3,626人(69.2%)	3,480人(66.4%)																																																																																																						
大衆芸能	67公演	313回	285日	54,653人(60.2%)	40,380人(44.5%)																																																																																																						
能楽	50公演	52回	51日	30,870人(94.7%)	29,500人(90.5%)																																																																																																						
小計	149公演	816回	603日	333,769人(65.8%)	309,950人(61.9%)																																																																																																						
組踊等沖縄伝統芸能	30公演	39回	36日	14,625人(62.7%)	14,400人(60.5%)																																																																																																						
小計	179公演	855回	639日	348,394人(65.6%)	324,350人(61.8%)																																																																																																						
青少年等鑑賞教室	6公演	173回	88日	150,204人(73.1%)	163,500人(79.5%)																																																																																																						
合計	185公演	1,028回	727日	498,598人(67.7%)	487,850人(66.8%)																																																																																																						

(タイ文化センター(バンコク)、11月18日、1回/シュリラムセンター(デリー)、11月21日、1回)

- (4) 外部専門家等の意見
稀にしか上演されない演目の上演をはじめ、国立劇場らしい企画性を評価したい。
- (5) アンケート調査

分野	実施回数	回答数	回収率	概ね満足との回答
歌舞伎(4公演)	4回	2,790人	77.6%(3,595人)	92.0%(2,568人)
文楽(5公演)	9回	1,766人	42.7%(4,131人)	89.0%(1,572人)
舞踊(1公演)	1回	674人	68.2%(988人)	90.7%(611人)
邦楽(2公演)	2回	602人	72.7%(828人)	94.0%(566人)
雅楽(1公演)	1回	443人	82.3%(538人)	88.9%(394人)
声明(1公演)	1回	1,049人	79.7%(1,316人)	74.8%(785人)
民俗芸能(1公演)	1回	253人	74.2%(341人)	80.2%(203人)
特別企画(2公演)	2回	1,172人	64.5%(1,817人)	90.2%(1,057人)
大衆芸能(19公演)	19回	2,060人	41.0%(5,026人)	92.3%(1,902人)
能楽(7公演)	7回	1,863人	50.0%(3,726人)	84.8%(1,580人)
組踊等(22公演)	22回	3,207人	65.4%(4,907人)	81.8%(2,622人)
鑑賞教室(1公演)	1回	926人	81.2%(1,141人)	92.4%(856人)
合計(66公演)	70回	16,805人	59.3%(28,354人)	87.6%(14,716人)

【特記事項】

字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした。
歌舞伎、文楽、鑑賞教室において社会人のための入門公演を実施した。

・歌舞伎

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

《実績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
10月公演「平家女護島」「昔語黄鳥墳」	10/3~10/27	26回	実績	22,686人(57.4%)
	本館大劇場	24日	計画	23,700人(65.0%)
11月公演「通し狂言 摂州合邦辻」	11/3~11/26	24回	実績	17,293人(47.4%)
	本館大劇場	23日	計画	22,800人(65.2%)
12月公演「堀部彌兵衛」「清水一角」 「秀山十種の内 松浦の太鼓」	12/3~12/26	25回	実績	24,695人(65.0%)
	本館大劇場	23日	計画	20,400人(58.4%)
1月公演「通し狂言 小町村芝居正月」	1/3~1/27	24回	実績	25,948人(71.1%)
	本館大劇場	24日	計画	22,600人(62.0%)
合計	4公演	99回	実績	90,622人(60.2%)
		94日	計画	89,500人(62.6%)

A

復活通し上演、義太夫狂言の取り上げなどの好企画が光り、全体としても、国立劇場の理念に沿って制作・実施されたものと認められる。

【より良い事業とするための意見】
通し狂言等が派手さを欠くために入場率が芳しくないのは止むを得ないものの、一部公演で入場者数が目標値に達していない。要因を把握した上で、広報宣伝を含めた効果的方策を検討し、その目標値の達成に努めることが望まれる。

(1) 10月歌舞伎公演「平家女護島」二幕、「昔語黄鳥墳」三幕六場

- 期間、回数、日数及び入場者数

期間	回数	日数	入場者数(入場率)	目標
10月3日(水)~27日(土)	26回	24日	22,686人(57.4%)	23,700人(65.0%)

※ 18日(木)を除く。計画時は24回を予定。

- 開演時間 11:30開演、19日16:00開演
○ 会場 本館大劇場
○ 入場料金 ※ ()内は学生料金
特別席12,000円(8,400円)、1等A席9,200円(6,400円)、1等B席6,100円(4,300円)、
2等席2,500円(1,800円)、3等席1,500円(1,100円)、障害者2割引

(2) 11月歌舞伎公演「通し狂言 摂州合邦辻」四幕七場

- 期間、回数、日数及び入場者数

期間	回数	日数	入場者数(入場率)	目標
11月3日(土・祝)~26日(月)	24回	23日	17,293人(47.4%)	22,800人(65.2%)

※ 15日(木)を除く。計画時は23回を予定。

- 開演時間 11:30開演、8日16:00開演
○ 会場 本館大劇場
○ 入場料金 ※ ()内は学生料金
特別席12,000円(8,400円)、1等A席9,200円(6,400円)、1等B席6,100円(4,300円)、
2等席2,500円(1,800円)、3等席1,500円(1,100円)、障害者2割引

(3) 12月歌舞伎公演「堀部彌兵衛」四幕、「清水一角」一幕二場、「秀山十種の内 松浦の太鼓」二幕三場

- 期間、回数、日数及び入場者数

期間	回数	日数	入場者数(入場率)	目標
12月3日(月)~26日(水)	25回	23日	24,695人(65.0%)	20,400人(58.4%)

※ 20日(木)を除く。計画時は23回を予定。

- 開演時間 12:00開演、14日16:00開演
○ 会場 本館大劇場
○ 入場料金 ※ ()内は学生料金
特別席12,000円(8,400円)、1等A席9,200円(6,400円)、1等B席6,100円(4,300円)、

2等席2,500円(1,800円)、3等席1,500円(1,100円)、障害者2割引

(4) 1月歌舞伎公演「通し狂言 小町村芝居正月」五幕七場

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
1月3日(木)～27日(日)	24回	24日	25,948人(71.1%)	22,600人(62.0%)

※ 17日(木)を除く。

○ 開演時間 12:00開演、11日・18日16:00開演

○ 会 場 本館大劇場

○ 入場料金 ※ () 内は学生料金

特別席12,000円(8,400円)、1等A席9,200円(6,400円)、1等B席6,100円(4,300円)、
2等席2,500円(1,800円)、3等席1,500円(1,100円)、障害者2割引

入場者数の達成状況

89,500人
以上

62,650人
以上
89,500人
未満

62,650人
未満

実績90,622人／目標89,500人(達成度101.3%)

A

・文 楽

振興会における自己点検評価の結果
をふまえつつ、委員の協議により、
評定を決定する

《実 績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
			実績	計画
5月公演「通し狂言 絵本太功記」 本館小劇場	5/11～5/27	34回 17日	実績	16,585人(87.1%)
			計画	17,800人(93.5%)
9月公演「夏祭浪花鑑」「菅原伝授手習鑑」 本館小劇場	9/8～9/24	34回 17日	実績	18,337人(96.3%)
			計画	18,300人(96.1%)
12月公演「信州川中島合戦」「新版歌祭文」 本館小劇場	12/4～12/16	13回 13日	実績	6,193人(85.1%)
			計画	5,500人(75.5%)
2月公演「冥途の飛脚」「鶴山姫捨松」「義経千本桜」ほか 本館小劇場	2/8～2/24	51回 17日	実績	24,710人(86.5%)
			計画	22,800人(79.8%)
小 計 4公演	4公演	132回 64日	実績	65,825人(89.0%)
			計画	64,400人(87.1%)
4月公演「玉藻前囃子」「加賀見山田錦絵」 ほか 文楽劇場	4/7～4/30	46回 23日	実績	14,550人(43.3%)
			計画	16,800人(50.0%)
夏休み公演「瓜子姫とあまんじゃく」「鎌倉三代記」「伊勢音頭恋寝刃」ほか 文楽劇場	7/21～8/9	57回 19日	実績	19,363人(47.8%)
			計画	18,200人(43.7%)
11月公演「近江源氏先陣館」「曾根崎心中」ほか 文楽劇場	11/3～11/25	44回 22日	実績	20,023人(62.3%)
			計画	15,600人(48.5%)
1月公演「祇園祭礼信仰記」「傾城恋飛脚」「国性爺合戦」ほか 文楽劇場	1/3～1/24	42回 21日	実績	20,401人(66.4%)
			計画	18,700人(60.9%)
小 計 4公演	4公演	189回 85日	実績	74,337人(54.3%)
			計画	69,300人(50.2%)
合 計 8公演	8公演	321回 149日	実績	140,162人(66.4%)
			計画	133,700人(63.0%)

(1) 5月文楽公演「通し狂言 絵本太功記」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
5月11日(金)～27日(日)	34回	17日	16,585人(87.1%)	17,800人(93.5%)

○ 開演時間 第1部11:00開演、第2部16:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 ※ () 内は学生料金

1等6,500円(4,600円)、2等5,200円(2,600円)、3等1,500円(1,100円)、障害者2割引

(2) 9月文楽公演 第1部「夏祭浪花鑑」/ 第2部 吉田玉男一周忌追善「菅原伝授手習鑑」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
9月8日(土)～24日(月・祝)	34回	17日	18,337人(96.3%)	18,300人(96.1%)

○ 開演時間 第1部11:00開演、第2部16:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 ※ () 内は学生料金

1等6,500円(4,600円)、2等5,200円(2,600円)、3等1,500円(1,100円)、障害者2割引

(3) 12月文楽公演「信州川中島合戦」「新版歌祭文」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
12月4日(火)～16日(日)	13回	13日	6,193人(85.1%)	5,500人(75.5%)

A

文楽劇場において、夜の部の公演の集客にも工夫をこらすなどして、活況であったことを評価する。また、次世代の技芸員の芸の継承を図ることを意図した公演やレパートリーの拡大に努めたことは、高く評価される。

【より良い事業とするための意見】
全体として目標値を超えた入場者を得たが、一部公演で入場者数が目標値に達していない点については、広報宣伝を含め、その達成に努めることが望まれる。

- 開演時間 月～木・土曜17:00開演、金曜・日曜14:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 ※（ ）内は学生料金
1等5,700円(4,000円)、2等4,700円(2,400円)、3等1,500円(1,100円)、障害者2割引

(4) 2月文楽公演 第1部「冥途の飛脚」/ 第2部「二人禿」「鷗山姫捨松」「壺坂観音靈験記」/ 第3部「義経千本桜」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
2月8日(火)～24日(日)	51回	17日	24,710人(86.5%)	22,800人(79.8%)

- 開演時間 第1部11:00開演、第2部14:30開演、第3部18:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 ※（ ）内は学生料金
1等5,700円(4,000円)、2等4,700円(2,400円)、3等1,500円(1,100円)、障害者2割引

(5) 4月文楽公演「玉藻前囃袂」「心中宵庚申」/「桑仙人吉野花王」「加賀見山田錦絵」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
4月7日(土)～30日(月・休)	46回	23日	14,550人(43.3%)	16,800人(50.0%)

※ 19日(木)を除く。

- 開演時間 第1部11:00開演、第2部16:30開演(社会人のための文楽入門18:30開演)
- 会 場 文楽劇場
- 入場料金 1等5,800円(学生4,100円)、2等2,300円、障害者2割引

(6) 7・8月文楽公演 夏休み文楽特別公演

第1部「金太郎の大ぐも退治」「解説」「瓜子姫とあまんじゃく」/ 第2部「鎌倉三代記」「釣女」/ 第3部「契情倭莊子」「伊勢音頭恋寝刃」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
7月21日(土)～8月9日(木)	57回	19日	19,363人(47.8%)	18,200人(43.7%)

※ 7月31日(火)を除く。

- 開演時間 第1部11:00開演、第2部14:30開演、第3部18:30開演(ういーくえんど文楽19:00開演)
- 会 場 文楽劇場
- 入場料金 一般4,600円、学生2,300円、子供 1,800円、障害者2割引

(7) 11月文楽公演 第1部「近江源氏先陣館」「艶容女舞衣」「面売り」/ 第2部「源平布引滝」「管根崎心中」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
11月3日(土・祝)～25日(日)	44回	22日	20,023人(62.3%)	15,600人(48.5%)

※ 14日(水)を除く。

- 開演時間 第1部11:00開演、第2部16:30開演
- 会 場 文楽劇場
- 入場料金 1等5,800円(学生4,100円)、2等2,300円、障害者2割引

(8) 1月公演「七福神宝の入船」「祇園祭礼信仰記」「傾城恋飛脚」/「国性爺合戦」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
1月3日(木)～24日(木)	42回	21日	20,401人(66.4%)	18,700人(60.9%)

※ 15日(火)を除く。

- 開演時間 第1部11:00開演、第2部16:00開演
- 会 場 文楽劇場
- 入場料金 1等5,800円(学生4,100円)、2等2,300円、障害者2割引

入場者数の達成状況	133,700人以上	93,590人以上 133,700人未満	93,590人未満
-----------	------------	-------------------------	-----------

実績140,162人/目標133,700人(達成度104.8%)

A

- ・舞 踊
- ・邦 楽
- ・雅 楽
- ・声 明
- ・民俗芸能
- ・特別企画

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

《総 表》

分 野	公演数	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
舞 踊	5公演	9回	6日	4,719人(75.2%)	4,930人(78.5%)
邦 楽	5公演	7回	7日	3,645人(84.9%)	3,100人(72.2%)
雅 楽	2公演	2回	2日	1,094人(92.7%)	1,010人(85.6%)
声 明	1公演	1回	1日	1,460人(90.7%)	1,540人(95.7%)
民俗芸能	3公演	7回	3日	2,918人(70.7%)	2,810人(68.0%)

A

全体として、国立劇場の理念に沿って制作・実施されたものと認められ、入場者数が目標値を超えて高く評価される。

【より良い事業とするための意見】
一部公演で入場者数が目標値に達していないが、広報宣伝を含め、その達成に努めることが望まれる。

特別企画	4公演	5回	5日	3,626人(69.2%)	3,480人(66.4%)
合計	20公演	31回	24日	17,462人(76.8%)	16,870人(74.2%)

舞 踊
《実績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
5月公演「笑いの舞踊ー日本舞踊は楽しいー」	5/26	1回	実績	1,031人(67.8%)
	本館大劇場	1日	計画	1,070人(70.4%)
8月公演「花形・名作舞踊鑑賞会」	8/18	2回	実績	973人(93.2%)
	本館小劇場	1日	計画	930人(89.1%)
11月公演「舞の会ー京阪の座敷舞ー」	11/23	2回	実績	1,072人(90.8%)
	本館小劇場	1日	計画	1,100人(93.2%)
3月公演「素踊りの会」	3/15~3/16	2回	実績	1,002人(84.9%)
	本館小劇場	2日	計画	950人(80.5%)
小 計	4公演	7回	実績	4,078人(82.8%)
			計画	4,050人(82.3%)
10月公演「東西名流舞踊鑑賞会」	10/13	2回	実績	641人(47.3%)
	文楽劇場	1日	計画	880人(65.0%)
合 計	5公演	9回	実績	4,719人(75.2%)
			計画	4,930人(78.5%)

(1) 5月舞踊公演「笑いの舞踊ー日本舞踊は楽しいー」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
5月26日(土)	1回	1日	1,031人(67.8%)	1,070人(70.4%)

○ 開演時間 14:00開演

○ 会 場 本館大劇場

○ 入場料金 ※ () 内は学生料金

1等7,000円(4,900円)、2等5,000円(3,500円)、3等3,000円(2,100円)、障害者2割引

(2) 8月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
8月18日(土)	2回	1日	973人(93.2%)	930人(89.1%)

○ 開演時間 昼の部15:00開演、夜の部18:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 全席5,000円(学生3,500円)、昼夜セット券9,400円、障害者2割引

(3) 11月舞踊公演「舞の会ー京阪の座敷舞ー」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
11月23日(金・祝)	2回	1日	1,072人(90.8%)	1,100人(93.2%)

○ 開演時間 昼の部13:00開演、夜の部16:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 全席6,000円(学生4,200円)、障害者2割引

(4) 3月舞踊公演「素踊りの会」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
3月15日(土)~16日(日)	2回	2日	1,002人(84.9%)	950人(80.5%)

○ 開演時間 14:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 全席6,000円(学生4,200円)、障害者2割引

(5) 10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
10月13日(土)	2回	1日	641人(47.3%)	880人(65.0%)

○ 開演時間 13:00/17:00開演

○ 会 場 文楽劇場

○ 入場料金 6,500円(学生4,600円)、障害者2割引

邦 楽
《実績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
7月公演「邦楽へのいざない Part1 三味線音楽の魅力ー長唄と常磐津ー」	7/21	1回	実績	484人(82.0%)
	本館小劇場	1日	計画	360人(61.0%)

10月公演「邦楽名曲鑑賞会—女流のいま—」	10/12～10/13 本館小劇場	2回	実績	854人(72.4%)
		2日	計画	720人(61.0%)
10月公演「文楽素浄瑠璃の会」	10/27 本館小劇場	1回	実績	566人(95.9%)
		1日	計画	570人(96.6%)
1月公演「邦楽鑑賞会—長唄・三曲の会—」	1/19～1/20 本館小劇場	2回	実績	995人(84.3%)
		2日	計画	1,040人(88.1%)
小計	4公演	6回	実績	2,899人(81.9%)
		6日	計画	2,690人(76.0%)
7月公演「文楽素浄瑠璃の会」	7/7 文楽劇場	1回	実績	746人(99.1%)
		1日	計画	410人(54.4%)
合計	5公演	7回	実績	3,645人(84.9%)
		7日	計画	3,100人(72.2%)

(1) 7月邦楽公演「邦楽へのいざない Part1 三味線音楽の魅力—長唄と常磐津—」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
7月21日(土)	1回	1日	484人(82.0%)	360人(61.0%)

○ 開演時間 15:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 全席3,600円(学生2,500円)、障害者2割引

(2) 10月邦楽公演「邦楽名曲鑑賞会—女流のいま—」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
10月12日(金)～13日(土)	2回	2日	854人(72.4%)	720人(61.0%)

○ 開演時間 12日15:00開演、13日14:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 全席4,000円(学生2,800円)、障害者2割引

(3) 10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
10月27日(土)	1回	1日	566人(95.9%)	570人(96.6%)

○ 開演時間 14:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 一般1等4,500円(学生3,200円)、障害者2割引

(4) 1月邦楽公演「邦楽鑑賞会—長唄の会・三曲の会—」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
1月19日(土)～20日(日)	2回	2日	995人(84.3%)	1,040人(88.1%)

○ 開演時間 19日14:00開演、20日15:00開演

○ 会 場 本館小劇場

○ 入場料金 全席4,000円(学生2,800円)、障害者2割引

(5) 7月邦楽公演「第10回文楽素浄瑠璃の会」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
7月7日(土)	1回	1日	746人(99.1%)	410人(54.4%)

○ 開演時間 14:00開演

○ 会 場 文楽劇場

○ 入場料金 3,500円(学生2,500円)、障害者2割引

雅 楽

《実 績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)
6月公演「雅楽—「楽家」の伝承をたずねて」	6/9	1回	実績 545人(92.4%)
	本館小劇場	1日	計画 470人(79.7%)
11月公演「管絃」	11/10	1回	実績 549人(93.1%)
	本館小劇場	1日	計画 540人(91.5%)
合計	2公演	2回	実績 1,094人(92.7%)
		2日	計画 1,010人(85.6%)

(1) 6月雅楽公演「雅楽—「楽家」の伝承をたずねて」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月9日(土)	1回	1日	545人(92.4%)	470人(79.7%)

- 開演時間 14:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 4,500円(学生3,200円)、障害者2割引

(2) 11月雅楽公演「管絃」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
11月10日(土)	1回	1日	549人(93.1%)	540人(91.5%)

- 開演時間 14:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 4,000円(学生2,800円)、障害者2割引

声 明

《実 績》

4月声明公演「法相宗の慈恩会－薬師寺・興福寺－」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
4月14日(土)	1回	1日	1,460人(90.7%)	1,540人(95.7%)

- 開演時間 14:00開演
- 会 場 本館大劇場
- 入場料金 1等4,000円(学生2,800円)、2等3,200円(学生2,200円)、障害者2割引

民俗芸能

《実 績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
6月公演「宮崎 祓川の夜神楽－霧島修験が伝えた荒舞－」	6/23	3回	実績	1,128人(63.7%)
	本館小劇場	1日	計画	1,340人(75.7%)
9月公演「ふるさとのうたを訪ねて－津軽三味線と青森・秋田の民謡－」	9/29	2回	実績	773人(65.5%)
	本館小劇場	1日	計画	700人(59.3%)
3月公演「山形 出羽の芸能」	3/1	2回	実績	1,017人(86.2%)
	本館小劇場	1日	計画	770人(65.3%)
合 計	3公演	7回	実績	2,918人(70.7%)
			計画	2,810人(68.0%)

(1) 6月民俗芸能公演「宮崎 祓川の夜神楽－霧島修験が伝えた荒舞－」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月23日(土)	3回	1日	1,128人(63.7%)	1,340人(75.7%)

- 開演時間 11:00/14:00/17:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 3,600円(学生2,500円)、3部通し割引9,900円、障害者2割引

(2) 9月民俗芸能公演「ふるさとのうたを訪ねて－津軽三味線と青森・秋田の民謡－」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
9月29日(土)	2回	1日	773人(65.5%)	700人(59.3%)

- 開演時間 昼の部13:00開演、夜の部16:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 3,600円(学生2,500円)、障害者2割引

(3) 3月民俗芸能公演「山形 出羽の芸能」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
3月1日(土)	2回	1日	1,017人(86.2%)	770人(65.3%)

- 開演時間 午前の部11:00開演、午後の部14:30開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 3,600円(学生2,500円)、障害者2割引

特別企画

《実 績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
9月公演「大地千響」	9/1～9/2	2回	実績	2,380人(73.9%)
	本館大劇場	2日	計画	2,180人(67.7%)
4月公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	4/28	1回	実績	508人(86.1%)
	本館小劇場	1日	計画	420人(71.2%)
小 計	2公演	3回	実績	2,888人(75.8%)
			計画	2,600人(68.2%)

5月公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	5/12 文楽劇場	1回 1日	実績 計画	269人(39.7%) 390人(57.6%)
9月公演「祈りのかたち」	9/15 文楽劇場	1回 1日	実績 計画	469人(62.3%) 490人(65.1%)
小計	2公演	2回 2日	実績 計画	738人(51.6%) 880人(61.5%)
合計	4公演	5回 5日	実績 計画	3,626人(69.2%) 3,480人(66.4%)

(1) 9月特別企画公演「大地千響」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
9月1日(土)～2日(日)	2回	2日	2,380人(73.9%)	2,180人(67.7%)

- 開演時間 14:00開演
- 会 場 本館大劇場
- 入場料金 1等4,500円(学生3,200円)、2等3,000円(学生2,100円)、障害者2割引

(2) 4月特別企画公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
4月28日(土)	1回	1日	508人(86.1%)	420人(71.2%)

- 開演時間 14:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 3,000円(学生2,100円)、障害者2割引

(3) 5月特別企画公演「第23回舞踊・邦楽公演 新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
5月12日(土)	1回	1日	269人(39.7%)	390人(57.6%)

- 開演時間 13:00開演
- 会 場 文楽劇場
- 入場料金 4,500円(学生3,200円)、障害者2割引

(4) 9月特別企画公演「祈りのかたち」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
9月15日(土)	1回	1日	469人(62.3%)	490人(65.1%)

- 開演時間 13:00開演
- 会 場 文楽劇場
- 入場料金 5,000円(学生3,500円)、障害者2割引

入場者数の達成状況	16,658人以上	11,660人以上 16,870人未満	11,660人未満
-----------	-----------	------------------------	-----------

実績17,462人／目標16,870人(達成度103.5%)

A

・大衆芸能

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

《総 表》

分 野	公演数	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
定席公演	22公演	242回	217日	38,668人(53.3%)	25,800人(35.7%)
若手新人公演	12公演	12回	12日	2,942人(81.7%)	3,000人(83.3%)
企画公演	13公演	14回	14日	3,833人(91.3%)	3,600人(80.0%)
国立名人会	11公演	11回	11日	3,150人(95.5%)	3,100人(93.9%)
新春名人会	1公演	8回	6日	2,444人(101.8%)	2,300人(95.8%)
小 計	59公演	287回	260日	51,037人(59.3%)	37,800人(43.9%)
師走浪曲名人会	1公演	1回	1日	747人(99.2%)	680人(90.3%)
浪曲練声会	1公演	2回	1日	342人(107.5%)	250人(78.6%)
上方演芸特選会	6公演	23回	23日	2,527人(69.1%)	1,650人(45.1%)
小 計	8公演	26回	25日	3,616人(76.5%)	2,580人(54.6%)
合 計	67公演	313回	285日	54,653人(60.2%)	40,380人(44.5%)

《実 績》

(1) 定席公演(上席・下席)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
-----	----	----	----	-----------

A

全体として、国立劇場の理念に沿って制作・実施されたものと認められる。また、昨今の
大衆芸能ブームの後押しのもと、定席公演、
若手新人公演、企画公演、国立名人会、新春
名人会の演芸場(東京)での公演のみならず、
文楽劇場(大阪)での師走浪曲名人会、浪曲練
声会、上方演芸特選会のいずれの公演とも目
標入場者数を超えていた点は評価される。

【より良い事業とするための意見】
定席公演(演芸場)中入場率が目標値(35.
7%)を下回ったものが4公演あり、この点
は顔付けや販売戦略に一層の工夫が望まれる。

4月上席		11回	10日	1,458人(44.2%)
4月中席(桂歌丸「心のともしび」)		11回	10日	1,752人(53.1%)
5月上席(真打昇進襲名披露)		11回	10日	1,837人(55.7%)
6月上席		11回	10日	1,286人(39.0%)
6月中席		11回	10日	1,325人(40.2%)
7月上席(真打昇進披露)		10回	9日	1,615人(53.8%)
7月中席(林家正雀日替り口演)		11回	10日	1,215人(36.8%)
8月上席		11回	10日	1,050人(31.8%)
8月中席(桂歌丸「怪談乳房覆」)		11回	10日	3,472人(105.2%)
9月上席		11回	10日	718人(21.8%)
9月中席		11回	10日	1,350人(40.9%)
10月上席		11回	10日	837人(25.4%)
10月中席		11回	10日	1,358人(41.2%)
11月上席		12回	10日	1,424人(39.6%)
11月中席		11回	10日	1,427人(43.2%)
12月上席		11回	10日	1,044人(31.6%)
12月中席(木久扇親子ダブル襲名)		9回	8日	2,719人(100.7%)
1月中席		11回	10日	2,534人(76.8%)
2月上席		11回	10日	1,828人(55.4%)
2月中席(鹿芝居)		11回	10日	3,148人(95.4%)
3月上席		13回	10日	3,248人(83.3%)
3月中席(夢丸新江戸噺)		11回	10日	2,023人(61.3%)
合 計	22公演	242回	217日	38,668人(53.3%)
目標・計画	22公演	241回	219日	25,800人(35.7%)

※ 目標入場者数は1回当たり107人、1公演当たり1,177人(7月上席は1,070人)。

※ 追加貸切公演を計3回実施(11月上席1回、3月上席2回)

※ 12月中席は、出演者の都合により15日・16日を除く8日間公演として実施。

- 開演時間 13:00開演(各席金曜日のみ13:00/18:00開演)
- 会 場 演芸場
- 入場料金 一般2,000円(前売1,800円)、学生1,400円、シルバー(65歳以上)1,100円、障害者1,100円

(2) 若手新人公演(花形演芸会)

- 期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
4月公演(第335回花形演芸会)	4/21	1回	1日	226人(75.3%)
5月公演(第336回花形演芸会)	5/19	1回	1日	127人(42.3%)
6月公演(第337回花形演芸会)	6/30	1回	1日	281人(93.7%)
7月公演(第338回花形演芸会)	7/29	1回	1日	217人(72.3%)
8月公演(第339回花形演芸会)	8/11	1回	1日	292人(97.3%)
9月公演(第340回花形演芸会)	9/30	1回	1日	255人(85.0%)
10月公演(第341回花形演芸会)	10/12	1回	1日	196人(65.3%)
11月公演(第342回花形演芸会)	11/24	1回	1日	203人(67.7%)
12月公演(第343回花形演芸会)	12/22	1回	1日	288人(96.0%)
1月公演(第344回花形演芸会)	1/27	1回	1日	305人(101.7%)
2月公演(第345回花形演芸会)	2/2	1回	1日	305人(101.7%)
3月公演(第346回花形演芸会)	3/1	1回	1日	247人(82.3%)
合 計	12公演	12回	12日	2,942人(81.7%)
目標・計画	12公演	12回	12日	3,000人(83.3%)

※ 目標入場者数は1回当たり250人。

- 開演時間 13:00開演、5/19・8/11・10/12・2/2・3/1は18:00開演
- 会 場 演芸場
- 入場料金 1,800円(学生1,300円)、シルバー(65歳以上)1,100円、障害者1,400円

(3) 企画公演(特別企画公演)

- 期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
4月公演(馬風を囲む仲間たち)	4/28	1回	1日	275人(91.7%)
5月公演(国本武春・神田山陽二人会)	5/26	1回	1日	297人(99.0%)
6月公演(花形演芸会スペシャル・受賞者の会)	6/23	1回	1日	294人(98.0%)
7月公演(親子で楽しむ演芸会)	7/28	1回	1日	244人(81.3%)
8月公演(「怪談」～納涼ほら～演芸会～)	8/24	1回	1日	305人(101.7%)
9月公演(寄席囃子江戸の彩り)	9/22	1回	1日	301人(100.3%)
9月公演(女が語る一残照の江戸・明治)	9/29	1回	1日	297人(99.0%)
10月公演(第8回大衆芸能脚本募集一講談)	10/21	1回	1日	46人(15.3%)
10月公演(鹿芝居「芝浜草財布」)	10/26～10/27	2回	2日	558人(93.0%)
11月公演(志の輔らくごのごらく)	11/23	1回	1日	310人(103.3%)
12月公演(円丈の「らくだ」をやる会)	12/23	1回	1日	315人(105.0%)

2月公演 (円楽一門会)	2/23	1回	1日	295人 (98.3%)
3月公演 (桂歌丸独演会)	3/22	1回	1日	296人 (98.7%)
合 計	13公演	14回	14日	3,833人 (91.3%)
目標・計画	13公演	15回	13日	3,600人 (80.0%)

※ 目標入場者数は1回当たり240人。

- 開演時間 13:00開演 (5/26・6/23・7/28・10/21・12/23・3/22)、14:00開演 (8/24・9/29・10/26～10/27・11/23)、17:00開演 (2/23)、18:00開演 (4/28・9/22)

- 会 場 演芸場

- 入場料金 3,000円 (学生2,100円)、障害者2,400円

親子で楽しむ演芸会 (7/28) : 一般2,500円、高校生・大学生1,800円、小・中学生1,300円、障害者2,000円

(4) 国立名人会・新春名人会

- 期間、回数、日数及び入場者数

(国立名人会)

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
4月公演 (第299回)	4/27	1回	1日	286人 (95.3%)
5月公演 (第300回)	5/27	1回	1日	297人 (99.0%)
6月公演 (第301回)	6/16	1回	1日	288人 (96.0%)
7月公演 (第302回)	7/22	1回	1日	286人 (95.3%)
8月公演 (第303回)	8/26	1回	1日	295人 (98.3%)
9月公演 (第304回)	9/24	1回	1日	300人 (100.0%)
10月公演 (第305回)	10/28	1回	1日	217人 (72.3%)
11月公演 (第306回)	11/25	1回	1日	298人 (99.3%)
12月公演 (第307回)	12/24	1回	1日	300人 (100.0%)
2月公演 (第308回)	2/24	1回	1日	295人 (98.3%)
3月公演 (第309回)	3/23	1回	1日	288人 (96.0%)
合 計	11公演	11回	11日	3,150人 (95.5%)
目標・計画	11公演	11回	11日	3,100人 (93.9%)

※ 目標入場者数は1回当たり282人。

(新春名人会)

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
1月2日(水)～7日(月)	8回	6日	2,444人(101.8%)	2,300人(95.8%)

- 開演時間 国立名人会 : 13:00開演、6/16は18:00開演

新春名人会 : 2日・3日11:30/15:30開演、4日～7日13:00開演

- 会 場 演芸場

- 入場料金 3,000円 (学生2,100円)、障害者2,400円

新春名人会 : 3,500円 (学生2,500円)、障害者2,800円

(5) 師走浪曲名人会・浪曲錬声会・上方演芸特選会

- 期間、回数、日数及び入場者数

(師走浪曲名人会)

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
12月8日(土)	1回	1日	747人(99.2%)	680人(90.3%)

(浪曲錬声会)

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
5月19日(土)	2回	1日	342人(107.5%)	250人(78.6%)

(上方演芸特選会)

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
5月上方演芸特選会	5/21～23	3回	3日	337人(70.6%)
7月上方演芸特選会	7/7～10	4回	4日	376人(59.1%)
9月上方演芸特選会	9/1～4	4回	4日	333人(52.4%)
11月上方演芸特選会	11/27～30	4回	4日	626人(98.4%)
1月上方演芸特選会	1/5～8	4回	4日	422人(66.4%)
3月上方演芸特選会	3/1～4	4回	4日	433人(68.1%)
合 計	6公演	23回	23日	2,527人(69.1%)
目標・計画	6公演	23回	23日	1,650人(45.1%)

※ 目標入場者数は1回当たり288人 (5月のみ216人)。

- 開演時間 師走浪曲名人会 : 13:00開演、浪曲錬声会 : 第1部12:00開演、第2部15:00開演

上方演芸特選会 : 13:00開演

- 会 場 師走浪曲名人会 : 文楽劇場

浪曲錬声会・上方演芸特選会 : 文楽劇場小ホール

入場者数の達成状況

40,380人
以上

28,266人
以上
40,380人
未満

28,266人
未満

実績54,653人／目標40,380人（達成度135.3%）

A

・能 楽

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する。

(1) 定例公演

○ 期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
4月公演（八句連歌、花月）	4/11(水)	1回	1日	594人(94.7%)
4月公演（花盗人、隅田川）	4/20(金)	1回	1日	616人(98.2%)
5月公演（飛越、兼平）	5/9(水)	1回	1日	550人(87.7%)
5月公演（飛越、須磨源氏 <small>（寛）</small> ）	5/16(水)	1回	1日	562人(89.6%)
6月公演（連歌盗人、飛鳥川）	6/6(金)	1回	1日	408人(65.1%)
6月公演（水掛聲、車僧 <small>（白頭）</small> ）	6/15(金)	1回	1日	605人(96.5%)
7月公演（文荷、氷室 <small>（白頭）</small> ）	7/4(水)	1回	1日	606人(96.7%)
7月公演（瓜盗人、杜若 <small>（日蔭之系 増減拍子 盤渉）</small> ）	7/18(水)	1回	1日	596人(95.1%)
8月公演（鐘の音、雨月）	8/1(水)	1回	1日	575人(91.7%)
8月公演（八尾、夕顔 <small>（山端之出 合掌留）</small> ）	8/17(金)	1回	1日	614人(97.9%)
9月公演（墨塗、俊寛）	9/5(水)	1回	1日	611人(97.4%)
9月公演（狐塚、阿漕）	9/21(金)	1回	1日	565人(90.1%)
10月公演（魚説法、野宮）	10/3(水)	1回	1日	616人(98.2%)
10月公演（若和布、玄象 <small>（替之型 早装束 寛）</small> ）	10/19(金)	1回	1日	608人(97.0%)
11月公演（禰宜山伏、松虫）	11/7(水)	1回	1日	614人(97.9%)
11月公演（因幡堂、実盛）	11/16(金)	1回	1日	611人(97.4%)
12月公演（抜殻、六浦）	12/5(水)	1回	1日	558人(89.0%)
12月公演（米市、和布刈）	12/21(金)	1回	1日	530人(84.5%)
1月公演（磁石、梅枝 <small>（越天楽）</small> ）	1/18(金)	1回	1日	612人(97.6%)
1月公演（惣八、難波）	1/30(水)	1回	1日	558人(89.0%)
2月公演（末広かり、屋島 <small>（弓流 那須語）</small> ）	2/6(水)	1回	1日	616人(98.2%)
2月公演（瘦松、小塩）	2/15(金)	1回	1日	613人(97.8%)
3月公演（雁大名、海人）	3/5(水)	1回	1日	552人(88.0%)
3月公演（樋の酒、百万）	3/21(金)	1回	1日	615人(98.1%)
合 計	24公演	24回	24日	14,005人(93.1%)
目標・計画	24公演	24回	24日	13,600人(90.4%)

※ 目標入場者数：1回あたり567人。

○ 開演時間 水曜13:00開演（5/16-7/18は18:30開演）、金曜18:30開演

○ 会 場 能楽堂

○ 入場料金 ※（ ）内は学生料金
正面4,800円、脇正面3,100円(2,200円)、中正面2,600円(1,800円)、障害者2割引

(2) 普及公演

○ 期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
4月公演（解説、嵐山 <small>（白頭、猿聲）</small> ）	4/14(土)	1回	1日	616人(98.2%)
5月公演（解説、咲嘩、干手 <small>（野曲）</small> ）	5/12(土)	1回	1日	618人(98.6%)
6月公演（解説、蝸牛、山姥 <small>（白頭）</small> ）	6/9(土)	1回	1日	613人(97.8%)
7月公演（解説、船渡聲、経政）	7/14(土)	1回	1日	618人(98.6%)
8月公演（夏休み親子のための能楽公演： おはなし、蚊相撲、雷電）	8/10(金)	1回	1日	612人(97.6%)
8月公演（夏休み親子のための能楽公演： おはなし、蚊相撲、雷電）	8/11(土)	1回	1日	610人(97.3%)
9月公演（解説、鯨屑、三井寺）	9/8(土)	1回	1日	616人(98.2%)
10月公演（解説、鶏聲、半節）	10/13(土)	1回	1日	590人(94.1%)
11月公演（解説、口真似、龍田）	11/10(土)	1回	1日	617人(98.4%)
12月公演（解説、清水座頭、邯鄲 <small>（夢中酔舞）</small> ）	12/8(土)	1回	1日	615人(98.1%)
1月公演（解説、釣針、羽衣 <small>（舞込）</small> ）	1/12(土)	1回	1日	618人(98.6%)
2月公演（解説、伊文字、藤戸）	2/9(土)	1回	1日	615人(98.1%)
3月公演（解説、仁王、雲林院）	3/8(土)	1回	1日	611人(97.4%)
合 計	13公演	13回	13日	7,969人(97.8%)
目標・計画	13公演	13回	13日	7,400人(90.8%)

※ 目標入場者数：1回あたり567人。

A

定例公演、普及公演、企画公演のいずれも、目標入場率以上の90%を超えていたことは特筆に値する。

【より良い事業とするための意見】
定例公演中三分の一の会が目標入場者数を下回った点については、なお一層公演の充実への努力が望まれる。

- 開演時間 13:00開演
- 会 場 能楽堂
- 入場料金 ※ () 内は学生料金
 正面4,800円、脇正面3,100円(2,200円)、中正面2,600円(1,800円)、障害者2割引
 8月公演(夏休み親子のための能楽公演): 正面4,800円、脇正面3,100円、中正面2,600円、
 小中学生1,300円、高大学生1,700円、障害者2割引

(3) 企画公演

- 期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
4月企画公演(蠟燭の灯りによる:真奪、西行桜)	4/26(木)	1回	1日	612人(97.6%)
5月狂言の会(佐渡狐、鶏流、鬼丸)	5/25(金)	1回	1日	604人(96.3%)
6月特別公演(楊貴妃、蟹山伏、殺生石 白頭)	6/30(土)	1回	1日	617人(98.4%)
7月狂言の会(夏休み親子のための狂言の会:二人袴、附子、菌)	7/27(金)	2回	1日	1,060人(84.5%)
9月特別公演(安宅 勸進帳 酌掛、茫々頭、一角仙人)	9/29(土)	1回	1日	614人(97.9%)
10月狂言特別公演(特集・美しき老い:腰祈、居杭、比丘貞)	10/25(木)	1回	1日	615人(98.1%)
10月狂言特別公演(特集・美しき老い:孫聳、居杭、庵梅)	10/26(金)	1回	1日	609人(97.1%)
11月企画公演(箏と能の夕べ:楽箏、栗焼、小督)	11/22(木)	1回	1日	608人(97.0%)
12月特別企画公演(新作狂言と復曲(再演)能:夢てふものは、実方)	12/12(水) ~12/13(木)	2回	2日	1,101人(87.8%)
1月特別公演(岩船、靱猿、求塚)	1/26(土)	1回	1日	613人(97.8%)
2月企画公演(女性能楽師による:巻絹 五段神楽、夕顔 山端之出 法味之伝)	2/28(木)	1回	1日	616人(98.2%)
3月特別企画公演(特集・祈り:声明、柿山伏、鶺鴒 空之鶴)	3/28(金)	1回	1日	612人(97.6%)
3月特別企画公演(特集・祈り:声明、鼻、殺生石 女体)	3/29(土)	1回	1日	615人(98.1%)
合 計	13公演	15回	14日	8,896人(94.6%)
目標・計画	13公演	15回	14日	8,500人(90.4%)

※ 目標入場者数:1回あたり567人。

- 開演時間 平日18:30開演(2/28は13:00開演)、土曜日13:00開演、7月狂言の会13:00/16:00開演
- 会 場 能楽堂
- 入場料金 全公演障害者2割引、() 内は学生料金
 - ・ 企画公演・特別公演・狂言特別公演
 正面6,100円、脇正面4,700円(3,300円)、中正面3,100円(2,200円)
 - ・ 狂言の会: 正面4,500円、脇正面3,100円(2,200円)、中正面2,600円(1,800円)
 - ・ 7月夏休み親子のための狂言の会
 正面4,500円、脇正面3,100円、中正面2,600円、小中学生1,300円、高大学生1,700円
 - ・ 特別企画公演: 正面6,500円、脇正面5,400円(3,800円)、中正面4,300円(3,000円)
 - ・ 2月企画公演: 正面4,800円、脇正面3,100円(2,200円)、中正面2,600円(1,800円)

入場者数の達成状況	29,500人以上	20,650人以上 29,500人未満	20,650人未満
-----------	-----------	------------------------	-----------

実績30,870人/目標29,500人(達成度104.6%)

A

・組踊等沖縄伝統芸能

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

《実績》

公演名	期間	回数	日数	入場者数(入場率)
4月定期公演(組踊:手水の縁)	4/14(土)	1回	1日	292人(50.5%)
5月定期公演(琉球舞踊:花形舞踊家の会)	5/26(土)	1回	1日	429人(67.9%)
6月定期公演(琉球舞踊:女形の会)	6/16(土)	1回	1日	251人(43.4%)
6月定期公演(組踊:二童敵討)	6/23(土) ~6/24(日)	2回	2日	928人(80.3%)
7月定期公演(琉球舞踊:創作舞踊~たなばた~)	7/7(土)	1回	1日	364人(57.6%)
7月定期公演(三線音楽:民謡)	7/14(土)	1回	1日	177人(28.0%)
7月定期公演(組踊:孝行竹壽之巻)	7/28(土)	1回	1日	201人(34.8%)
8月定期公演(琉球舞踊:夏模様)	8/11(土)	1回	1日	153人(24.2%)
9月定期公演(民俗芸能:南城市の民俗芸能)	9/8(土)	1回	1日	507人(87.6%)
9月定期公演(組踊:義臣物語)	9/15(土)	1回	1日	273人(47.2%)

A

定期公演、企画公演、研究公演とも国立劇場おきなわの特性を生かした企画意図で実施されていると認められる。また、総入場者数が目標入場率を超えたことは評価される。なお、インドの芸能公演、「歌舞伎鑑賞教室」などは、本土からアジア域へ連なる地点に位置した芸能環境のおきなわにふさわしいものであり、この種公演の今後の一層の継続発表が望まれる。

【より良い事業とするための意見】
 全公演中の半数が目標入場率を下回っていた点は、自治体・交通機関との連携を図り、広

9月定期公演（沖縄芝居：新説・黒金座主）	9/29(土) ～9/30(日)	2回	2日	786人(67.9%)
11月定期（琉球舞踊：インド・タイ派遣壮行）	11/10(土)	1回	1日	299人(47.3%)
12月定期公演（琉球舞踊：創作舞踊～手振り美しや～）	12/8(土)	1回	1日	296人(46.8%)
12月定期公演（三線音楽：至芸の響宴）	12/15(土)	1回	1日	499人(86.3%)
12月定期公演（組踊：雪払い）	12/22(土)	1回	1日	173人(29.9%)
1月定期公演（琉球舞踊：新春琉舞名人選）	1/12(土)	1回	1日	417人(66.0%)
1月定期公演（琉球舞踊：新春琉舞名人選）	1/13(日)	1回	1日	542人(85.8%)
1月定期公演（組踊：久志の若按司）	1/26(土)	1回	1日	437人(75.6%)
2月定期公演（琉球舞踊：新進舞踊家の会）	2/2(土)	1回	1日	346人(54.7%)
2月定期公演（民俗芸能：那覇・浦添民俗芸能歳時記）	2/9(土)	1回	1日	541人(93.4%)
2月定期公演（組踊：屋慶名大主敵討）	2/23(土)	1回	1日	324人(56.1%)
3月定期公演（沖縄芝居：今帰仁祝女殿内）	3/22(土) ～3/23(日)	2回	2日	415人(35.8%)
小計	22公演	25回	25日	8,650人(57.9%)
目標・計画	22公演	25回	25日	9,311人(60.6%)
4月企画公演（太鼓の競演～女たちの太鼓～）	4/28(土)	1回	1日	425人(67.2%)
5月企画公演（話芸 無声映画「護佐丸誠忠録」）	5/19(土)	1回	1日	277人(43.8%)
6月企画公演（地唄舞と琉球舞踊）	6/9(土)	1回	1日	407人(64.4%)
8月企画公演（アジア太平洋：インドの芸能）	8/4(土)	1回	1日	397人(62.8%)
10月企画公演（江戸上りの芸能）	10/13(土)	1回	1日	262人(45.3%)
11月企画公演（本土の芸能：国立劇場寄席）	11/24(土)	1回	1日	485人(76.7%)
3月企画公演（本土の芸能：歌舞伎鑑賞教室）	3/14(月)～ 3/17(金)	7回	4日	3,329人(82.1%)
小計	7公演	13回	10日	5,582人(71.6%)
目標・計画	7公演	13回	10日	4,748人(60.5%)
10月研究公演（組踊：執心鐘入・新垣松含型）	10/27(土)	1回	1日	393人(68.0%)
目標・計画	1公演	1回	1日	350人(60.6%)
合計	30公演	39回	36日	14,625人(62.7%)
目標・計画	30公演	39回	36日	14,400人(60.6%)

※ 目標入場者数は、組踊1回当たり350人、その他1回当たり383人、花道使用時1回当たり351人。

- 開演時間 14:00開演、6月定期公演(組踊)17:30開演、11月企画公演(国立劇場寄席)18:30開演、3月企画公演(歌舞伎鑑賞教室)10:30/14:00開演
- 会場 国立劇場おきなわ大劇場
- 入場料金 全席：障害者2割引、発売日500円割引、親子(親正価・子500円)割引、()内は学生料金
定期公演：3,000円(2,000円)
但し、9月・3月沖縄芝居公演は3,500円(2,000円)、1月新春琉舞名人選は4,000円(2,000円)
企画公演：3,500円(2,000円)、但し3月歌舞伎鑑賞教室は3,000円(2,000円)
研究公演：3,000円(2,000円)

入場者数の達成状況	14,409人以上	10,086人以上 14,400人未満	10,086人未満	実績14,625人／目標14,400人（達成度101.6%）	A
-----------	-----------	------------------------	-----------	--------------------------------	---

演目の拡充	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	(1) 上演候補台本準備稿の作成作業 復活上演候補作品調査検討委員会（3月27日）において、各委員から、上演候補台本準備稿の作成について、最初に取り上げる作品及び作業の進捗状況に関し以下のような報告と成果の提出を受けた。 ・ 古井戸委員からは、前回序幕の第一稿が提示された「誦競艶仲町(いきじくらべはでななちょう)」について、第二幕、第三幕（大詰）の構想（シノプシス）の報告があった。 ・ 児玉委員からは、「大塔宮曦鎧(おおうのみやあさひのよろい)」の二幕目「斎藤太郎左衛門屋敷（陣太鼓）の場」の3分の2ほどが第1稿として提示され、序幕及び三幕目以下の構想、補綴方針について報告があった。 ・ 鈴木委員からは、変化舞踊「月雪花鈍画掛額(つきゆきはなごんがのかけがく)」について、補綴の元になる作業として、初演台本の翻刻を行ったものが提示され、併せてこれからの補綴方針について報告があった。 ・ 神山委員からは「塩原太助一代記」について、また今岡委員からは「夢結蝶鳥追(ゆめむすぶちょうにとりおい)」について、シノプシスの提示があった。 以上について、他の委員の意見も聴取した上で、来年度を目前に、具体的な台本の形にする作業を進めることを依頼した。なお、鈴木委員には前回話題にのぼった「春陽三獅頭(いまようみつのししがしら)」、今岡委員には同じく「宇都宮錦釣衾(うつのみやにしきのつりよぎ)」について、併せて検討を依頼した。 (2) 歌舞伎新作脚本の募集 歌舞伎新作脚本については、前回の成果を踏まえ、ほぼ同一の募集要項（一部文章表現を修正）により、19年10月より募集を開始し、20年3月末日をもって締め切った。（選考、発表は20年度に行う） （選考委員）大笹吉雄・神山彰・栗山民也・竹田真砂子	A
-------	-----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---

告宣伝に工夫を凝らすなどに解消することが望まれる。

国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿った成果があがっていると認められる。特に復活上演作品の調査研究や歌舞伎新作脚本の募集、大衆芸能新作脚本募集は、工夫と広報が行き届き、活況を呈しており、徐々に成果をあげてきていると認められる。

周知法についても、ポスターの掲出、及び演劇雑誌への広告掲載という前回の方式を踏襲した。結果として今回は146篇の応募があった。

(3) 大衆芸能新作脚本の募集
 8月1日より落語の脚本募集を行い、8月31日をもって締め切った。応募総数は156篇であった。
 予備選考（委員：三笑亭夢太郎、昔昔亭桃太郎、柳家小ゑん、古今亭菊千代）を経た27篇について、1月28日に選考会を開催し、優秀作1篇・佳作2篇が選ばれた。

- 表彰 優秀作「並(なみ)」三浦健一
 佳作「蠅寄せ(はえよせ)」栗原昇、「赤心の老松(せきしんのおいまつ)」涼山尚行
- 選考委員 太田博、大野桂、熊谷富雄、神津友好、三遊亭円窓、三遊亭遊三、保田武宏
- 特記事項
 受賞作品は、20年8月特別企画公演（8月23日）で上演する予定。
 将来を期待・囑望される作品として鳥居遊「わんぱくキャンプ」に対し、財団法人清栄会より奨励賞が贈られた。

(2) 現代舞台芸術の公演

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

(1) 公演実績

分野	公演数	回数	日数	入場者数(入場率)	目標
オペラ	10公演	50回	50日	74,562人(83.2%)	67,700人(75.6%)
バレエ	5公演	26回	26日	36,517人(84.8%)	30,500人(70.9%)
現代舞踊	5公演	21回	21日	5,201人(79.2%)	4,500人(70.5%)
演劇	8公演	121回	115日	40,312人(63.6%)	43,900人(70.4%)
その他	2公演	4回	4日	5,519人(77.0%)	3,800人(70.7%)
小計	30公演	222回	216日	162,111人(77.3%)	150,400人(72.8%)
青少年等鑑賞教室	2公演	12回	9日	14,778人(92.0%)	12,200人(75.4%)
合計	32公演	234回	225日	176,889人(78.3%)	162,600人(72.9%)

※ オペラには、「はじめてのオペラ カルメン」を含む。

(2) 外部団体との連携・協力、地方における上演、海外における上演

- 平成19年度（第62回）文化庁芸術祭主催3公演、協賛6公演を実施した。
- 地域団体との連携公演（オペラ1公演、演劇1公演、新国立劇場合唱団出演5公演）を実施した。
- 全国で4公演（オペラコンサート2公演、演劇2公演）を実施した。
- 海外においてバレエ、演劇を2公演（バレエ・アメリカ公演1、演劇・中国公演1）実施した。

(3) アンケート調査

分野	回答数	概ね満足との回答
オペラ（10公演で実施）	1,681人	83.5%（1,403人）
バレエ（5公演で実施）	884人	88.5%（782人）
現代舞踊（5公演で実施）	315人	94.6%（298人）
演劇（8公演で実施）	797人	82.9%（661人）
その他（2公演で実施）	267人	91.0%（243人）
鑑賞教室（2公演で実施）	4,486人	67.2%（3,016人）
合計（32公演）	8,430人	76.0%（6,403人）

【特記事項】

新国立劇場開場10周年記念フェスティバル公演7公演、特別公演1公演を実施した。
 オペラ初心者への入門公演として「はじめてのオペラ カルメン」を実施した。
 新春の公演として新たに「ニューイヤー オペラパレス ガラ」を実施した。

・オペラ

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

《実績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
			実績	計画
「西部の娘」(新制作)	4/15~4/27 オペラ劇場	5回	実績	6,137人(68.5%)
			計画	6,800人(75.9%)
「ばらの騎士」(新制作)	6/6~6/20 オペラ劇場	6回	実績	9,113人(84.8%)
			計画	8,100人(75.3%)
「ファルスタッフ」	6/13~6/21 オペラ劇場	4回	実績	4,654人(64.9%)
			計画	5,400人(75.3%)
「タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦」(新制作)	10/8~10/24 オペラ劇場	6回	実績	8,926人(83.0%)
			計画	8,100人(75.3%)
「フィガロの結婚」	10/18~10/27 オペラ劇場	4回	実績	6,064人(84.6%)
			計画	5,400人(75.3%)
「カルメン」(新制作)	11/25~12/9 オペラ劇場	7回	実績	11,097人(88.5%)
			計画	9,500人(75.7%)
「ラ・ボエーム」	1/20~1/26 オペラ劇場	4回	実績	6,283人(87.7%)
			計画	5,400人(75.3%)
「サロメ」	2/3~2/11 オペラ劇場	4回	実績	6,268人(87.4%)
			計画	5,400人(75.3%)
「黒船一夜明け」(新制作)	2/22~2/24 オペラ劇場	3回	実績	4,533人(84.3%)
			計画	4,100人(76.3%)

B

新国立劇場の役割を踏まえた公演が制作・実施されたが、企画・集客等について一層の努力が望まれる。

A

おおむねレベルの高い公演が制作・実施されたものと認められる。また、時として、歌唱力・演技力のある日本人歌手が育っているのは瞠目に値する。日本人作曲家作品（「黒船」）が成功したことは、積極的に今後も取り上げられる先鞭となったと認められる。

【より良い事業とするための意見】
 ・優れたプロダクションの制作は望ましいが、マーケティングを工夫し、目標値の達成に努めることが望まれる。

・キャストの降板が多かったことは、劇場への信頼に関わることであり、その対策を望む。

・再演(同じ演出版)の際の質的向上にバラつきがあることについて改善を望む。

「アイーダ」	3/10～3/29 オペラ劇場	7回	実績	11,487人(91.6%)
		7日	計画	9,500人(75.7%)
合 計	10公演	50回	実績	74,562人(83.2%)
		50日	計画	67,700人(75.6%)

(1) 「西部の娘」(全3幕・イタリア語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
4月15日(日)～27日(金)	5回	5日	6,137人(68.5%)	6,800人(75.9%)

○ 開演時間 15日(日)・21日(土)・24日(火)14:00開演、18日(水)・27日(金)18:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席21,000円、A席15,750円、B席10,500円、C席6,300円、D席3,150円、Z席1,500円

(2) 「ばらの騎士」(全3幕・ドイツ語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月6日(水)～20日(水)	6回	6日	9,113人(84.8%)	8,100人(75.3%)

○ 開演時間 9日(土)・17日(日)・20日(水)14:00開演、6日(水)17:00開演、12日(火)・15日(金)18:00開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席23,100円、A席18,900円、B席12,600円、C席7,350円、D席4,200円、Z席1,500円

(3) 「ファルスタッフ」(全3幕・イタリア語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月13日(水)～21日(木)	4回	4日	4,654人(64.9%)	5,400人(75.3%)

○ 開演時間 16日(土)・21日(木)14:00開演、13日(水)18:30開演、19日(火)19:00開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席21,000円、A席15,750円、B席10,500円、C席6,300円、D席3,150円、Z席1,500円

(4) 「タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦」(全3幕・ドイツ語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
10月8日(月・祝)～24日(水)	6回	6日	8,926人(83.0%)	8,100人(75.3%)

○ 開演時間 8日(月・祝)・14日(日)・17日(水)・21日(日)14:00開演、11日(木)・24日(水)17:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席26,250円、A席21,000円、B席14,700円、C席8,400円、D席5,250円、Z席1500円

(5) 「フィガロの結婚」(全4幕・イタリア語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
10月18日(木)～27日(土)	4回	4日	6,064人(84.6%)	5,400人(75.3%)

○ 開演時間 20日(土)・27日(土)14:00開演、18日(木)・23日(火)18:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席21,000円、A席15,750円、B席10,500円、C席6,300円、D席3,150円、Z席1500円

(6) 「カルメン」(全3幕・フランス語上演)

(本公演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
11月25日(日)～12月9日(日)	6回	6日	11,097人(88.5%)	9,500人(75.7%)

○ 開演時間 25日(日)・1日(土)・4日(火)・9日(日)14:00開演、28日(水)・6日(木)18:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席23,100円、A席18,900円、B席12,600円、C席7,350円、D席4,200円、Z席1500円

(はじめてのオペラ「カルメン」)

○ 期間、回数、日数及び入場者数(実績値は上記の内数である)

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
12月2日(日)	1回	1日	1,434人(80.0%)	1,400人(78.0%)

○ 開演時間 14:00開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席10,500円、A席8,400円、B席6,300円、C席4,200円、D席3,150円、Z席1,500円

(7) 「ラ・ボエーム」(全4幕・イタリア語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
1月20日(日)～26日(土)	4回	4日	6,283人(87.7%)	5,400人(75.3%)

○ 開演時間 20日(日)・22日(火)・26日(土)14:00開演、24日(木)19:00開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席21,000円、A席15,750円、B席10,500円、C席6,300円、D席3,150円、Z席1,500円

(8) 「サロメ」(全1幕・ドイツ語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
2月3日(日)～11日(月・祝)	4回	4日	6,268人(87.4%)	5,400人(75.3%)

○ 開演時間 3日(日)・9日(土)・11日(月・祝)14:00開演、6日(水)19:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席21,000円、A席15,750円、B席10,500円、C席6,300円、D席3,150円、Z席1,500円

(9) 「黒船一夜明け」(序景付全3幕・日本語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
2月22日(金)～24日(日)	3回	3日	4,533人(84.3%)	4,100人(76.3%)

○ 開演時間 23日(土)・24日(日)14:00開演、22日(金)18:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席15,750円、A席12,600円、B席8,400円、C席6,300円、D席3,150円、Z席1,500円

(10) 「アイーダ」(全4幕・イタリア語上演)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
3月10日(月)～29日(土)	7回	7日	11,487人(91.6%)	9,500人(75.7%)

○ 開演時間 16日(日)・20日(木・祝)・23日(日)・29日(土)14:00開演、13日(木)17:30開演、10日(月)・26日(水)18:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席28,350円、A席23,100円、B席15,750円、C席10,500円、D席5,250円、Z席1,500円

入場者数の達成状況

67,700人
以上

47,390人
以上
67,700人
未満

47,390人
未満

実績74,562人／目標67,700人(達成度110.1%)

A

・バレエ

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

《実 績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
			実績	計画
「ローラン・プティのコッペリア」 (新制作)	5/13～5/20 オペラ劇場	6回	8,800人(81.8%)	7,600人(70.7%)
		6日		
「ドン・キホーテ」	6/28～7/1 オペラ劇場	4回	6,206人(86.6%)	5,100人(71.1%)
		4日		
「牧阿佐美の椿姫」(新制作)	11/4～11/11 オペラ劇場	5回	6,836人(76.3%)	6,300人(70.3%)
		5日		
「くるみ割り人形」	12/19～12/25 オペラ劇場	7回	11,532人(91.9%)	8,900人(71.0%)
		7日		
「カルメン by 石井潤」	3/27～3/30 中劇場	4回	3,143人(86.7%)	2,600人(71.7%)
		4日		
合 計	5公演	26回	36,517人(84.8%)	30,500人(70.9%)
		26日		

(1) 「ローラン・プティのコッペリア」(全2幕)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
5月13日(日)～20日(日)	6回	6日	8,800人(81.8%)	7,600人(70.7%)

○ 開演時間 13日(日)・17日(木)・20日(日)14:00開演、19日(土)15:00開演、15日(火)・18日(金)19:00開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席10,500円、A席8,400円、B席6,300円、C席04,200円、D席3,150円、Z席1,500円

(2) 「ドン・キホーテ」(全3幕・プロローグ付)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月28日(木)～7月1日(日)	4回	4日	6,206人(86.6%)	5,100人(71.1%)

○ 開演時間 1日(日)14:00開演、30日(土)15:00開演、28日(木)・29日(金)18:30開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席 9,450円、A席 7,350円 B席 5,250円、C席 4,200円、D席 3,150円、Z席1,500円

A

おおむねレベルの高い公演が制作・実施されたものと認められる。また、全公演とも入場者数が目標値を超えており、効果があがったものと認められる。

(3) 「牧阿佐美の椿姫」(全3幕・プロローグ付)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
11月4日(日)～11日(日)	5回	5日	6,836人(76.3%)	6,300人(70.3%)

○ 開演時間 4日(日)・10日(土)・11日(日)14:00開演、6日(火)・7日(水)19:00開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席 12,600円、A席 10,500円 B席 7,350円、C席 4,200円、D席 3,150円、Z席1,500円

(4) 「くるみ割り人形」(全2幕・プロローグ付)

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
12月19日(水)～25日(火)	7回	7日	11,532人(91.9%)	8,900人(71.0%)

○ 開演時間 22日(土)・23日(日)・24日(月・祝)・25日(火)14:00開演、23日(日)18:30開演、19日(水)・21日(金)19:00開演

○ 会 場 オペラ劇場

○ 入場料金 S席 10,500円、A席 8,400円 B席 6,300円、C席 4,200円、D席 3,150円、Z席1,500円

(5) 「カルメンby石井潤」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
3月27日(木)～30日(日)	4回	4日	3,143人(86.7%)	2,600人(71.7%)

○ 開演時間 29日(土)・30日(日)14:00開演、27日(木)・28日(金)19:00開演

○ 会 場 中劇場

○ 入場料金 S席8,400円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

入場者数の達成状況

30,500人
以上

21,350人
以上
30,500人
未満

21,350人
未満

実績36,517人／目標30,500人(達成度119.7%)

A

・現代舞踊

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

《実 績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
			実績	計画
ダンスプラネットNo.22「Life Casting—型取られる生命—」	6/1～6/3 小劇場	3回	789人(77.4%)	700人(72.9%)
			789人(77.4%)	700人(72.9%)
ダンスプラネットNo.23「消息 Substance」	9/29～10/7 小劇場	6回	1,381人(78.8%)	1,200人(68.5%)
			1,381人(78.8%)	1,200人(68.5%)
ダンスプラネットNo.24「ミロク MIROKU」	12/8～12/16 小劇場	6回	1,344人(76.7%)	1,200人(68.5%)
			1,344人(76.7%)	1,200人(68.5%)
ダンスプラネットNo.25「ダンス名作展～10年を振り返って未来への展望」	1/18～1/20 小劇場	3回	851人(83.4%)	700人(72.9%)
			851人(83.4%)	700人(72.9%)
ダンスプラネットNo.26「未来へ繋ぐトリプル・ビル」	2/15～2/17 小劇場	3回	836人(82.0%)	700人(72.9%)
			836人(82.0%)	700人(72.9%)
合 計	5公演	21回	5,201人(79.2%)	4,500人(70.5%)
			5,201人(79.2%)	4,500人(70.5%)

(1) ダンスプラネットNo.22「Life Casting—型取られる生命—」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月1日(金)～3日(日)	3回	3日	789人(77.4%)	700人(72.9%)

○ 開演時間 1日(金)19:00開演、2日(土)18:00開演、3日(日)15:00開演

○ 会 場 小劇場

○ 入場料金 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

(2) ダンスプラネットNo.23「消息Substance」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
9月29日(土)～10月7日(日)	6回	6日	1,381人(78.8%)	1,200人(68.5%)

○ 開演時間 30日(日)・7日(日)15:00開演、29日(土)・6日(土)18:00開演、4日(木)・5日(金)19:00開演

○ 会 場 小劇場

○ 入場料金 A席6,300円、B席4,200円、Z席1,500円

(3) ダンスプラネットNo.24 勅使川原三郎ソロ「ミロク MIROKU」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標

B

ブレルジョカージュ、勅使川原三郎、平山素子らを中心に公演活動を展開し、明確な方向性を打ち出したことは評価できるが、これらの人選については、やや偏りがあるという印象をも与えた。

【より良い事業とするための意見】
国際的評価を厳密に検証したうえで、さらに今後の現代舞踊の展開の方向性を的確に見きわめる必要がある。なお、国際的評価もまた国内的評価と同じように偏向性を持つことから、それらを十分に勘案したうえで、積極的な活動を展開することが望ましい。

- 12月8日(金)～16日(日) 6回 6日 1,344人(76.7%) 1,200人(68.5%)
- 開演時間 9日(日)・16日(日)15:00開演、8日(土)・15日(土)18:00開演、13日(木)・14日(金)19:00開演
 - 会 場 小劇場
 - 入場料金 A席6,300円、B席4,200円、Z席1,500円
- (4) ダンスプラネットNo.25「ダンス名作展～10年を振り返って未来への展望」
- 期間、回数、日数及び入場者数
- | 期 間 | 回数 | 日数 | 入場者数(入場率) | 目 標 |
|-----------------|----|----|-------------|-------------|
| 1月18日(金)～20日(日) | 3回 | 3日 | 851人(83.4%) | 700人(72.9%) |
- 開演時間 20日(日)15:00開演、19日(土)18:00開演、18日(金)19:00開演
 - 会 場 小劇場
 - 入場料金 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円
- (5) ダンスプラネットNo.26「未来へ繋ぐトリプル・ビル」
- 期間、回数、日数及び入場者数
- | 期 間 | 回数 | 日数 | 入場者数(入場率) | 目 標 |
|-----------------|----|----|-------------|-------------|
| 2月15日(金)～17日(日) | 3回 | 3日 | 836人(82.0%) | 700人(72.9%) |
- 開演時間 17日(日)15:00開演、16日(土)18:00開演、15日(金)19:00開演
 - 会 場 小劇場
 - 入場料金 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

入場者数の達成状況	4,500人以上	3,150人以上 4,500人未満	3,150人未満
-----------	----------	----------------------	----------

実績5,201人/目標4,500人(達成度115.6%)

A

・演劇

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

《実 績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
			実績	計画
「CLEANSKINS/きれいな肌」	4/18～4/28 小劇場	13回 11日	実績	2,561人(59.9%)
			計画	2,900人(69.7%)
「下周村 一花に嵐のたとえもあるさー」	5/15～5/20 小劇場	7回 6日	実績	1,632人(71.5%)
			計画	1,600人(71.4%)
「夏の夜の夢」	5/31～6/17 中劇場	18回 16日	実績	15,471人(90.3%)
			計画	11,500人(70.5%)
「氷屋来たる」	6/18～7/8 小劇場	20回 20日	実績	5,868人(90.0%)
			計画	4,500人(70.3%)
「三つの悲劇」ーギリシヤからvol.1 「アルゴス坂の白い家」ークリュタイメストラー	9/20～10/7 中劇場	17回 16日	実績	4,342人(42.8%)
			計画	7,200人(70.5%)
「三つの悲劇」ーギリシヤからvol.2 「たとえば野に咲く花のように」ーアンドロマケー	10/17～11/4 中劇場	17回 17日	実績	4,091人(40.4%)
			計画	7,200人(70.5%)
「三つの悲劇」ーギリシヤからvol.3 「異人の歌」ーアンティゴネー	11/14～12/2 中劇場	17回 17日	実績	4,257人(41.7%)
			計画	7,200人(70.5%)
「屋上庭園/動員挿話」	2/26～3/9 小劇場	12回 12日	実績	2,090人(76.8%)
			計画	1,800人(70.3%)
合 計	8公演	121回 115日	実績	40,312人(63.6%)
			計画	43,900人(70.4%)

B

(1) 「CLEANSKINS/きれいな肌」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
4月18日(水)～28日(土)	13回	11日	2,561人(59.9%)	2,900人(69.7%)

- 開演時間 18日(水)～20日(金)・23日(月)・26日(木)～27日(金)19:00開演、21日(土)13:00/18:00開演、22日(日)・28日(土)13:00開演、24日(火)14:00開演、25日(水)14:00/19:00開演
- 会 場 小劇場
- 入場料金 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

(2) 「下周村一花に嵐のたとえもあるさー」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
5月15日(火)～20日(日)	7回	6日	1,632人(71.5%)	1,600人(71.4%)

- 開演時間 15日(火)・16日(水)・18日(金)19:00開演、17日(木)14:00開演、19日(土)13:00/18:00開演、20日(日)13:00開演
- 会 場 小劇場
- 入場料金 A席4,200円、B席3,150円、Z席1,500円

おおむねレベルの高い公演が制作・実施されたものと認められ、特に上半期の公演は高い評価を得たものであった。しかし、「三つの悲劇」は劇作家の起用面等で問題があったと思われる。

【より良い事業とするための意見】
「三つの悲劇」の三公演は、入場者数が目標値を大幅に下回っており、今後は、企画内容の慎重な検討をほどこし、マーケティングを工夫し、その達成に努めることが望まれる。

(3) 「夏の夜の夢」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
5月31日(木)～6月17日(日)	18回	16日	15,471人(90.3%)	11,500人(70.5%)

○ 開演時間 31日(木)・1日(金)19:00開演、6日(水)・7日(木)・12日(火)・13日(水) 14:00開演、
2日(土)・3日(日)・5日(火)・9日(土)・10日(日)・14日(木)・15(金)・17日(日)13:00開演、
8日(金)14:00/19:00開演、16日(土) 13:00/18:00開演

○ 会 場 中劇場

○ 入場料金 S席6,300円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

(4) 「氷屋来たる」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月18日(月)～7月8日(日)	20回	20日	5,868人(90.0%)	4,500人(70.3%)

○ 開演時間 18日(月)・19日(火)・21日(木)・22日(金)・28日(木)・29日(金)・3日(火)・5日(木)・6日(金)18:30開演、
20日(水)・26日(火)・27日(水)・2日(月)・4日(水)14:00開演、
23日(土)・24日(日)・30日(土)・1日(日)・7日(土)・8日(日)13:00開演

○ 会 場 小劇場

○ 入場料金 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

(5) 「三つの悲劇」 - ギリシャからvol.1 「アルゴス坂の白い家」 - クリュタイムストラ

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
9月20日(木)～10月7日(日)	17回	16日	4,342人(42.8%)	7,200人(70.5%)

○ 開演時間 20日(木)・21日(金)・4日(木)・5日(金)19:00開演、26日(水)・27日(木)・2日(火)・3日(水)14:00開演、
22日(土)～24日(月)・29日(土)・30日(日)・6日(土)・7日(日)13:00開演、28日(金)14:00/19:00開演

○ 会 場 中劇場

○ 入場料金 S席7,350円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

(6) 「三つの悲劇」 - ギリシャからvol.2 「たとえば野に咲く花のように」 - アンドロマケ

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
10月17日(水)～11月4日(日)	17回	17日	4,091人(40.4%)	7,200人(70.5%)

○ 開演時間 17日(水)～19日(金)・24日(水)・26日(金)・31日(水)・2日(金)19:00開演、
20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日)・3日(土)・4日(日)13:00開演、
23日(火)・25日(木)・30日(火)・1日(木)14:00開演

○ 会 場 中劇場

○ 入場料金 S席7,350円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

(7) 「三つの悲劇」 - ギリシャからvol.3 「異人の唄」 - アンティゴネ

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
11月14日(水)～12月2日(日)	17回	17日	4,257人(41.7%)	7,200人(70.5%)

○ 開演時間 14日(水)～16日(金)・21日(水)・29日(木)・30日(金)19:00開演、
17日(土)・18日(日)・22日(木)～25日(日)・1日(土)・2日(日)13:00開演、
20日(火)・27日(火)・28日(水)14:00開演

○ 会 場 中劇場

○ 入場料金 S席7,350円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

(8) 「屋上庭園／動員挿話」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
2月26日(火)～3月9日(日)	12回	12日	2,090人(76.8%)	1,800人(70.3%)

※ 計画時は8回を予定。

○ 開演時間 26日(火)～29日(金)・6日(木)・7日(金)19:00開演、
1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)13:00開演、4日(火)・5日(水)14:00開演

○ 会 場 小劇場

○ 入場料金 全席指定4,200円、Z席1,500円

入場者数の達成状況	43,900人 以上	30,730人 以上 43,900人 未満	30,730人 未満	実績40,312人／目標43,900人(達成度91.8%)	B
-----------	---------------	--------------------------------	---------------	-------------------------------	---

・その他

【参考指標】

《実績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
文化庁芸術祭祝典・国際音楽の日記念「新国立劇場開場10周年記念 オペラ・バレエ ガラ公演」	10/1～10/2 オペラ劇場	2回 2日	実績	2,429人(67.8%)
新国立劇場オペラ・バレエ「ニューイヤー オペラパレスガラ」	1/5～1/6 オペラ劇場	2回 2日	実績	3,090人(86.2%)
			計画	2,500人(69.8%)
合計	2公演	4回 4日	実績	5,519人(77.0%)
			計画	3,800人(70.7%)

(1) 平成19年度(第62回)文化庁芸術祭祝典・国際音楽の日記念「新国立劇場開場10周年記念 オペラ・バレエ ガラ公演」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
10月1日(月)～2日(火)	2回	2日	2,429人(67.8%)	1,300人(72.5%)

※ 「新国立劇場開場10周年記念オペラ・バレエガラ公演」は、公演回数は2回であるが、式典等が中心であるため、目標設定の対象を1回のみとした(総席数1,792人)。総席数のうち、招待者席を除く販売席数は2,691席であり、実質的な入場率は90.3%になる。

- 開演時間 1日(月)14:00開演、2日(火)19:00開演
- 会 場 オペラ劇場
- 入場料金 S席5,000円、A席3,000円、B席2,000円、Z席1,500円

(2) 「ニューイヤー オペラパレスガラ」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
1月5日(土)～6日(日)	2回	2日	3,090人(86.2%)	2,500人(69.8%)

- 開演時間 14:00開演
- 会 場 オペラ劇場
- 入場料金 S席12,600円、A席10,500円、B席7,350円、C席4,200円、D席3,150円、Z席1,500円
高齢者(65歳以上)・学生・生徒=5%引、ジュニア(中学生以下)=20%引、障害者=20%引、当日学生割引=50%引 ※各種割引はD席・Z席を除いた全席が対象

(3) 青少年等を対象とした伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

B

・伝統芸能の公開

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

B

《実績》

公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	
6月歌舞伎鑑賞教室(解説 歌舞伎のみかた、双蝶々曲輪日記-引窓-)	6/1～6/24 本館大劇場	46回 23日	実績	47,992人(68.6%)
7月歌舞伎鑑賞教室(解説 歌舞伎のみかた、新版歌祭文-野崎村-)	7/3～7/24 本館大劇場	42回 21日	実績	49,916人(78.2%)
			計画	56,500人(88.5%)
3月歌舞伎鑑賞教室(解説 ようこそ歌舞伎へ、芦屋道満大内鑑-葛の葉-)	3/2～3/11 本館大劇場	19回 10日	実績	14,135人(48.9%)
			計画	13,400人(46.4%)
12月文楽鑑賞教室(寿柱立万歳、解説 文楽のたのしみ、伊賀越道中双六)	12/4～12/16 本館小劇場	24回 13日	実績	12,366人(93.2%)
			計画	11,900人(89.7%)
6月文楽鑑賞教室(寿柱立万歳、解説 文楽へようこそ、仮名手本忠臣蔵)	6/6～6/21 文楽劇場	32回 16日	実績	19,581人(83.7%)
			計画	20,000人(85.5%)
6月能楽鑑賞教室(解説 能楽のたのしみ、仏師、葵上)	6/18～6/22 能楽堂	10回 5日	実績	6,214人(99.1%)
			計画	5,700人(90.9%)
合計	6公演	173回 88日	実績	150,204人(73.1%)
			計画	163,500人(79.5%)

(1) 6月歌舞伎鑑賞教室公演「解説 歌舞伎のみかた」「双蝶々曲輪日記-引窓-」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月1日(金)～24日(日)	46回	23日	47,992人(68.6%)	56,000人(80.1%)

※ 14日(木)を除く。

- 開演時間 11:00/14:30開演、15日・22日(金)は14:30/19:00開演
- 会 場 本館大劇場
- 入場料金 学生1,300円、一般:1等3,800円、2等1,500円、障害者2割引

(2) 7月歌舞伎鑑賞教室公演「解説 歌舞伎のみかた」「新版歌祭文-野崎村-」

○ 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
7月3日(火)～24日(火)	42回	21日	49,916人(78.2%)	56,500人(88.5%)

歌舞伎鑑賞教室の入場者数が目標値に達しなかった。少子化、鑑賞事業の多様化などの影響とも見られるが、その要因を分析究明して対応策を検討し、広報宣伝にも工夫をこらすなどして、その達成に努めることが望まれる。

【より良い事業とするための意見】
「社会人のための歌舞伎入門」は格好の企画であるだけに、入場者数の改善の努力が望まれる。なお、解説のあとの休憩が長すぎると思われるので一考を望む。

- ※ 20日(金)を除く。
- 開演時間 11:00/14:30開演、13日・19日(金)は14:30/19:00開演
- 会 場 本館大劇場
- 入場料金 学生1,300円、一般：1等3,800円、2等1,500円、障害者2割引

(3) 3月歌舞伎鑑賞教室公演「解説 ようこそ歌舞伎へ」「芦屋道満大内鑑―葛の葉―」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
3月2日(日)～11日(火)	19回	10日	14,135人(48.9%)	13,400人(46.4%)

- 開演時間 12:00/15:00開演、7日・8日は15:00/19:00開演、11日は12:00開演のみ
- 会 場 本館大劇場
- 入場料金 学生1,300円、一般：1等3,800円、2等1,500円、障害者2割引

(4) 12月文楽鑑賞教室「寿柱立万歳」、解説「文楽のたのしみ」、「伊賀越道中双六」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
12月4日(火)～16日(日)	24回	13日	12,366人(93.2%)	11,900人(89.7%)

- 開演時間 月～木・土11:00/14:00開演、金曜11:00/19:00開演、日曜11:00開演
- 会 場 本館小劇場
- 入場料金 学生1,300円、一般3,600円、障害者2割引

(5) 6月文楽鑑賞教室「寿柱立万歳」「解説 文楽へようこそ」「仮名手本忠臣蔵」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月6日(水)～21日(木)	32回	16日	19,581人(83.7%)	20,000人(85.5%)

- ※ 9日(土)・17日(日)の午前・午後の部は貸切。
- 開演時間 10:30/14:00開演
- 会 場 文楽劇場
- 入場料金 学生1,300円、一般3,600円、障害者2割引

(6) 6月能楽鑑賞教室 「解説・能楽のたのしみ」、狂言「仏師」、能「葵上」

- 期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標
6月18日(月)～22日(金)	10回	5日	6,214人(99.1%)	5,700人(90.9%)

- 開演時間 11:00/14:00開演
- 会 場 能楽堂
- 入場料金 学生1,300円(全席)、一般：正面3,000円、脇正面2,500円、中正面2,000円、障害者2割引

入場者数の達成状況	163,500人以上	114,450人以上 163,500人未満	114,450人未満	実績150,204人／目標163,500人(達成度91.9%)	B
-----------	------------	--------------------------	------------	---------------------------------	---

現代舞台芸術の公演	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	《実 績》	A	オペラ公演については、一定の効果が上がったものと認められる。 【より良い事業とするための意見】 オペラ部門以外の他の部門についても同様の取り組みが望まれる。 ゲネプロ見学会が低調であることについて、音楽大学への広報等その解決に向けた対応策を望む。																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>公演名</th> <th>期間/会場</th> <th>回数/日数</th> <th>入場者数(入場率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」</td> <td>7/9～7/14 オペラ劇場</td> <td>6回</td> <td>9,768人(91.9%) 8,100人(75.3%)</td> </tr> <tr> <td>こどものためのオペラ劇場「スペース・トゥーランドット」</td> <td>7/28～7/30 中劇場</td> <td>6回 3日</td> <td>5,010人(92.2%) 4,100人(75.4%)</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2公演</td> <td>12回 9日</td> <td>14,778人(92.0%) 12,200人(75.4%)</td> </tr> </tbody> </table>	公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)	高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	7/9～7/14 オペラ劇場	6回	9,768人(91.9%) 8,100人(75.3%)	こどものためのオペラ劇場「スペース・トゥーランドット」	7/28～7/30 中劇場	6回 3日	5,010人(92.2%) 4,100人(75.4%)	合 計	2公演	12回 9日	14,778人(92.0%) 12,200人(75.4%)					
公演名	期間/会場	回数/日数	入場者数(入場率)																				
高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	7/9～7/14 オペラ劇場	6回	9,768人(91.9%) 8,100人(75.3%)																				
こどものためのオペラ劇場「スペース・トゥーランドット」	7/28～7/30 中劇場	6回 3日	5,010人(92.2%) 4,100人(75.4%)																				
合 計	2公演	12回 9日	14,778人(92.0%) 12,200人(75.4%)																				
		<p>(1) 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」(全3幕・イタリア語上演)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 期間、回数、日数及び入場者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>回数</th> <th>日数</th> <th>入場者数(入場率)</th> <th>目 標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月9日(月)～14日(土)</td> <td>6回</td> <td>6日</td> <td>9,768人(91.9%)</td> <td>8,100人(75.3%)</td> </tr> </tbody> </table> ○ 開演時間 9日(月)～13日(金)13:00開演、14日(土)14:00開演 ○ 会 場 オペラ劇場 ○ 入場料金 全席指定2,100円、一般4,200円(当日券のみ) <p>(2) こどものためのオペラ劇場「スペース・トゥーランドット」(ブッチーニ作曲「トゥーランドット」による全1幕、日本語上演)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 期間、回数、日数及び入場者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th> <th>回数</th> <th>日数</th> <th>入場者数(入場率)</th> <th>目 標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月28日(土)～30日(月)</td> <td>6回</td> <td>3日</td> <td>5,010人(92.2%)</td> <td>4,100人(75.4%)</td> </tr> </tbody> </table> 	期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標	7月9日(月)～14日(土)	6回	6日	9,768人(91.9%)	8,100人(75.3%)	期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標	7月28日(土)～30日(月)	6回	3日	5,010人(92.2%)	4,100人(75.4%)	
期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標																			
7月9日(月)～14日(土)	6回	6日	9,768人(91.9%)	8,100人(75.3%)																			
期 間	回数	日数	入場者数(入場率)	目 標																			
7月28日(土)～30日(月)	6回	3日	5,010人(92.2%)	4,100人(75.4%)																			

<p>入場者数の達成状況</p>	<table border="1"> <tr> <td>12,200人以上</td> <td>8,540人以上 12,200人未満</td> <td>8,540人未満</td> </tr> </table>	12,200人以上	8,540人以上 12,200人未満	8,540人未満	<p>○ 開演時間 11:30/15:00開演 ○ 会場 中劇場 ○ 入場料金 全席2,100円</p> <p>実績14,778人／目標12,200人（達成度121.1%）</p>	<p>A</p>			
12,200人以上	8,540人以上 12,200人未満	8,540人未満							
<p>(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公開の実施に際しての連携協力 ・地方における上演等</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>実績14,778人／目標12,200人（達成度121.1%）</p>	<p>B</p> <p>国立劇場、新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、年ごとに成果が上がってきているものと認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 ・伝統芸能、現代舞台芸術ともに地方からの要望が多く、また現代舞台芸術は外部団体の要望が強いことに鑑み、さらなる工夫と一層の充実が期待される。</p> <p>・地方の公共劇場と提携するなど、東京の舞台成果をもっと全国の観客に定期的に楽しんでもらう機会を作るための、さらなる工夫と充実が期待される。</p>						
<p>・伝統芸能の公開</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) 外部団体との連携協力</p> <p>① 平成19年度（第62回）文化庁芸術祭</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>公演名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主催公演</td> <td>本館大劇場：10月歌舞伎公演「平家女護島」「昔語黄鳥墳」 能楽堂：11月能楽公演 企画公演「箏と能の夕べ：楽箏、栗焼、小督」 文楽劇場：11月文楽公演「近江源氏先陣館」ほか 国立劇場おきなわ：10月研究公演「執心鐘入～新垣松含型～」</td> </tr> <tr> <td>協賛公演</td> <td>本館大劇場：11月歌舞伎公演 本館小劇場：11月舞踊公演、10月邦楽公演（2公演）、11月雅楽公演 演芸場：10月・11月定席公演、特別企画公演、国立名人会（9公演） 能楽堂：10月・11月定例公演、普及公演、10月企画公演（8公演） 文楽劇場：11月上方演芸特選会</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 国・地方自治体等との後援・協力</p> <p>ア 歌舞伎鑑賞教室・能楽鑑賞教室における後援・協力等 後援＝文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、財団法人日本修学旅行協会 協力＝社団法人東京都専修学校各種学校協会、社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社ジェイティービー、近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社日本旅行</p> <p>イ 地方公演における共催・後援等</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎鑑賞教室山梨公演 共催＝財団法人やまなし文化学習協会 後援＝文化庁、山梨県、山梨県教育委員会、山梨県公立小中学校校長会、山梨県高等学校校長協会、山梨県高等学校文化連盟、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社、山梨放送、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム甲府 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演 共催＝かながわ伝統芸能祭実行委員会（神奈川県立青少年センター内） 後援＝文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会 歌舞伎鑑賞教室沖縄公演 共催＝財団法人国立劇場おきなわ運営財団 後援＝文化庁、沖縄県、沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校PTA協議会、全国都道府県教育委員会連合会、財団法人日本修学旅行協会、株式会社沖縄タイムス、株式会社琉球新報 協力＝株式会社ジェイティービー、株式会社日本旅行、近畿日本ツーリスト株式会社 歌舞伎鑑賞教室石垣公演（平成19年度文化庁「舞台芸術魅力発見事業」） 共催＝文化庁、石垣市、石垣市教育委員会 後援＝沖縄県、沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校PTA協議会、全国都道府県教育委員会連合会、財団法人日本修学旅行協会、株式会社沖縄タイムス、株式会社琉球新報 協力＝財団法人国立劇場おきなわ運営財団、株式会社ジェイティービー、株式会社日本旅行、近畿日本ツーリスト株式会社 <p>ウ 社会人のための入門公演における後援・協力等 後援＝社団法人日本経済団体連合会、社団法人経済同友会、東京商工会議所、社団法人東京青年会議所</p> <p>エ 関西元気文化圏共催事業</p>	区分	公演名	主催公演	本館大劇場：10月歌舞伎公演「平家女護島」「昔語黄鳥墳」 能楽堂：11月能楽公演 企画公演「箏と能の夕べ：楽箏、栗焼、小督」 文楽劇場：11月文楽公演「近江源氏先陣館」ほか 国立劇場おきなわ：10月研究公演「執心鐘入～新垣松含型～」	協賛公演	本館大劇場：11月歌舞伎公演 本館小劇場：11月舞踊公演、10月邦楽公演（2公演）、11月雅楽公演 演芸場：10月・11月定席公演、特別企画公演、国立名人会（9公演） 能楽堂：10月・11月定例公演、普及公演、10月企画公演（8公演） 文楽劇場：11月上方演芸特選会	<p>A</p> <p>地方上演の歌舞伎教室石垣公演、海外における上演の、日本伝統芸能（舞踊、邦楽）中国公演、国立劇場おきなわのインド・タイ派遣公演は時宜を得たものとして評価される。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 地方からの要望が多いことに鑑み、一層の充実が期待される。</p>
区分	公演名								
主催公演	本館大劇場：10月歌舞伎公演「平家女護島」「昔語黄鳥墳」 能楽堂：11月能楽公演 企画公演「箏と能の夕べ：楽箏、栗焼、小督」 文楽劇場：11月文楽公演「近江源氏先陣館」ほか 国立劇場おきなわ：10月研究公演「執心鐘入～新垣松含型～」								
協賛公演	本館大劇場：11月歌舞伎公演 本館小劇場：11月舞踊公演、10月邦楽公演（2公演）、11月雅楽公演 演芸場：10月・11月定席公演、特別企画公演、国立名人会（9公演） 能楽堂：10月・11月定例公演、普及公演、10月企画公演（8公演） 文楽劇場：11月上方演芸特選会								

- 文楽劇場の全公演
 オ 九州・沖縄から文化カプロジェクト参加
 国立劇場おきなわの全公演
 カ その他自主公演における後援・協力等
- ・ 3月民俗芸能公演「山形 出羽の芸能」(本館小劇場)
 後援＝山形県、財団法人山形県生涯学習文化財団、公益法人荘内銀行ふるさと創造基金、山形伝統芸能公演実行委員会
 - ・ 国立劇場おきなわ8月企画公演「インドの芸能 舞踊劇カタカリ」
 共催＝インド大使館、ICCR(インド文化交流評議会)
 後援＝沖印友好協会、沖縄県、沖縄県教育委員会
- ③ 受託による伝統芸能の公開
- ・ 能楽鑑賞移動教室 解説、狂言「仏師」、能「葵上」
 聖徳学園川並記念講堂(千葉県松戸市)、6月28日、1回
- ④ 国立能楽堂において制作・初演された新作品「紅天女」(18年2月)の以下の上演に協力した。
- ・ 山形県能楽協会主催、山形市民会館、5月6日
 - ・ 一隅を照らす運動総本部主催、滋賀県立劇場びわ湖ホール、7月6日
 - ・ 財団法人南相馬市文化振興事業団主催、南相馬市民会館、9月1日
 - ・ 財団法人北上市文化創造主催、北上市文化交流センターさくらホール、9月2日
 - ・ 福岡市博物館水上薪能実行委員会主催、福岡市博物館前特設水上舞台、10月12日
 - ・ 長泉町・長泉町教育委員会主催、長泉町文化センターペルフォーレ、3月26日
- (2) 地方における上演
- ・ 歌舞伎鑑賞教室山梨公演「解説 歌舞伎のみかた」「双蝶々曲輪日記一引窓」
 山梨県立県民文化ホール(山梨県甲府市)、6月26日、2回
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演「解説 歌舞伎のみかた」「新版歌祭文一野崎村」
 神奈川県立青少年センター(神奈川県横浜市)、7月26日～27日、4回
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室石垣公演「解説 ようこそ歌舞伎へ」「蘆屋道満大内鑑一葛の葉一」
 石垣市民会館(沖縄県石垣市)、3月20日～21日、3回
 - ・ 能楽鑑賞移動教室 解説、狂言「仏師」、能「葵上」
 聖徳学園川並記念講堂(千葉県松戸市)、6月28日、1回
- (3) 海外における上演
- ・ 日本伝統芸能(舞踊と邦楽)中国公演(文化庁共催国際文化交流・協力推進事業)
 海淀劇院(北京)、12月12日、1回
 同日昼に中国人民大学で日本語専攻の学生を対象とした邦楽・舞踊のレクチャーデモンストレーションを実施
 - ・ 国立劇場おきなわインド・タイ派遣公演「琉球舞踊～美ら島の息吹～」(外務省主催在外公館文化事業)
 タイ文化センター(バンコク)、11月18日、1回
 シュリラムセンター(デリー)、11月21日、1回

・現代舞台芸術の公演

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

- (1) 外部団体との連携協力
 ① 平成19年度(第62回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	オペラ劇場：「新国立劇場開場10周年記念オペラ・バレエ ガラ公演」 オペラ「タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦」 バレエ「牧阿佐美の椿姫」
協賛公演	オペラ劇場：オペラ「フィガロの結婚」、オペラ「カルメン」 中劇場：演劇「アルゴス坂の白い家ークリュタイメストラ」 演劇「たとえば野に咲く花のようにーアンドロマケ」 演劇「異人の唄ーアンティゴネー」 小劇場：現代舞踊「ダンスプラネットNo. 23 消息 Substance」

- (2) 外部団体との連携協力
 (オペラ)
- ・ 「ナクソス島のアリアドネ」(序幕付1幕・ドイツ語上演)
 新国立劇場中劇場、1月25日・27日、2回、共催：関西二期会
- (演劇)
- ・ 「下周村一花に嵐のたとももあるさー」
 新国立劇場小劇場、5月15日～20日、7回、共同制作：中国国家話劇院・香港アーツフェスティバル
- (新国立劇場合唱団外部出演)
- ① 「読売日本交響楽団 第461回 定期演奏会」
 東京芸術劇場大ホール、6月28日、1回、主催：財団法人読売日本交響楽団
 - ② 「NTTドコモ/クリエイティブキッズコンサート」
 新国立劇場オペラ劇場、8月2日、1回、主催：株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
 - ③ 「NTTドコモ/クリエイティブキッズコンサート 第2回」
 東京文化会館大ホール、10月31日、1回、主催：株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
 - ④ 「NHK音楽祭2007 NHK交響楽団」
 NHKホール、11月26日、1回、主催：NHK、NHKプロモーション
 - ⑤ 「読売日本交響楽団 ベートーヴェン作曲交響曲第九番演奏会」

B

ジャンル、回数ともに一定の進展が見られるが、オペラの提携公演が中劇場の一回に留まったのは惜まれる。

【より良い事業とするための意見】
 ・地方からの要望が強いことに鑑み、さらなる工夫と充実が期待される。

・オペラの提携が地方公演として実現されるためのネットワークの構築を望みたい。

サントリーホール大ホール（12月20日・25日）、東京芸術劇場大ホール（21日・22日・26日）、横浜みなとみらい（23日）、かつしかシンフォニーヒルズ（27日）、計7回
 主催：財団法人読売日本交響楽団、ほか

(3) 全国における上演
 (オペラ)
 ① 「三重大学レクチャーコンサート オペラ400年の歴史をたどる～彩りゆたかな花園から香り高い名歌を摘む～」
 三重大学講堂(三翠ホール・三重県津市)、10月6日、1回、主催：三重大学附属図書館
 ② 「新国立劇場の若手歌手によるスプリング・オペラコンサート」
 京都国立博物館特別展示館中央ホール（京都府京都市）、3月21日・22日、2回
 主催：京都国立博物館

(演劇)
 ① 「屋上庭園／動員挿話」兵庫県西宮市・岐阜県可児市公演
 ・ 兵庫県芸術文化センター中ホール（兵庫県西宮市）、3月15日・16日、2回、
 主催：兵庫県・財団法人兵庫県立芸術文化センター
 ・ 可児市文化創造センター主劇場（岐阜県可児市）、3月20日、1回、
 主催：財団法人可児市文化芸術振興財団
 ② 演劇研究所第1期生修了公演「リハーサルルーム」福岡県大野城市・神奈川県川崎市公演
 ・ 大野城まどかぴあ大ホール(福岡県大野城市)、2月24日、1回、
 主催：財団法人大野城市都市施設管理公社(大野城まどかぴあ)・文化庁、
 後援：大野城市・大野城市教育委員会・福岡県教育委員会・福岡県立筑紫丘高等学校同窓会、
 福岡県高等学校芸術・文化連盟・ケーブルステーション福岡
 ・ 川崎市アートセンターアルテリオ小ホール(神奈川県川崎市)、2月27日・28日、2回、
 主催：川崎市アートセンター、後援：「しんゆり・芸術のまち」PR委員会

(4) 海外における上演
 (バレエ)
 ・ 新国立劇場バレエ団アメリカ・ワシントン公演「ライモンダ」「ミックス・プログラム」
 ジョン・F・ケネディーセンターオペラ劇場（アメリカ、ワシントンD.C.）、2月15日～17日、3回、
 主催：ジョン・F・ケネディーセンター

(演劇)
 ・ 「下周村一花に嵐のたとえもあるさー」中国・北京公演
 中国児童芸術劇院（中国、北京市）、8回、4月1日～8日、主催：中国国家話劇院

3. 伝統芸能の伝承者
 芸術の実演家その他
 の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

振興会における自己点検評価の結果
 をふまえつつ、委員の協議により、
 評定を決定する

1. 養成研修の実施

(1) 養成研修の実施

区 分	年度計画	研修実績	うち修了者	修了者累計	中期計画	
歌舞伎	俳優19期	10名程度	9名	—	18名	18名
	鳴物13期	1名	1名	1名		
	長唄4期	3名程度	3名	—		
大衆芸能	寄席囃子	—	—	4名	9名	8名
	太神楽5期	3名程度	2名	—		
能 楽	7期	3名	2名	2名	5名	8名
文 楽	23期	2名程度	3名	—	4名	6名
組 踊	1期	10名	10名	10名	10名	—

※ 「修了者累計」は中期計画期間中の修了者の累計。

(2) 研修発表会等の実施

- ・ 合同研修修了発表会・研修発表会（3/13日、本館小劇場）
 鳴物第13期生の修了発表会とともに、歌舞伎俳優第19期生、長唄第4期生、太神楽第5期生の発表会を合同で実施した。
- ・ 能楽4回：能楽研鑽会3回（6/12・12/10・3/11、能楽堂）、東西合同研究発表会1回（8/29、京都観世会館）
- ・ 第23期文楽研修生発表会（1/26、文楽劇場）
- ・ 組踊2回：第5回発表会（10/4）、研修修了発表会（3/8）

(3) 募集

- ・ 鳴物第14期生（研修期間3年）：3名合格（応募3名中）
- ・ 竹本第18期生（研修期間2年）：合格者なし（応募1名中）
- ・ 能楽第8期生（ワキ方・囃子方・狂言方、研修期間6年）：7名合格（応募9名中）
- ・ 組踊第2期生（立方・地方、研修期間3年）：9名合格（応募15名中）

2. 既成者研修の実施

(1) 既成者研修発表会の実施

区 分	計画	実績	公演名
歌舞伎俳優既成者研修発表会	2回	2回	「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」
歌舞伎音楽既成者研修発表会	1回	1回	「音の会」
能楽若手研究会	3回	3回	「若手能」（京都・大阪・東京）
文楽既成者研修発表会	1回	1回	「文楽若手会」
文楽素浄瑠璃既成者研修発表会	2回	2回	「義太夫節に親しむ会」

(2) 能楽研究課程の開講

A

A

国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、
 着実な成果があがっているものと認められる。

【より良い事業とするための意見】
 ・ 竹本については合格者がおらず再募集を行
 う由であるが、募集の広報、選考および選考
 後の研修の在り方に関して工夫することが期
 待される。

・ 寄席囃子については、前期中期目標期間中
 にすでに休止されており、次期募集に関して
 は、さらに関係者と協議・検討を重ね、適切
 な対応をしていくことが期待される。

・ 現代青少年が置かれている社会背景に基づ
 く彼らの一般的な気質や性情を十分に踏まえ、
 選考及び選考後の研修のあり方に関して一層
 工夫を加えることが期待される。

能楽の既成者研修として、前年度に引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開設した。(受講者50名)

3. 外部評価、委員会における検討等の実施

- ・ 養成事業委員会 3月24日(月)に1回開催
(検討内容) 19年度の養成実施状況、20年度の事業実施計画、募集等
(反映状況) 20年度の研修生の募集については、メディアの活用や振興会HPの充実化、教育関係者への周知等更なる工夫と改善をし、優秀な人材の確保を図る。既成者研修については、公演の実施を目標に一層の技芸の向上を図る。

【特記事項】

20年度開講予定であった歌舞伎音楽の竹本第18期研修については、選考試験の結果合格者がいなかったが、竹本の若手の育成は重要な課題であり、21年度の開講に向けて20年度に再度募集を実施することとした。

①歌舞伎(俳優、音楽)

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

A

1. 研修の実施

歌舞伎俳優(研修期間3年): 第19期生9名の1年目の研修を実施。
歌舞伎音楽・鳴物(笛コース・研修期間2年): 第13期生1名の2年目の研修を実施し、研修を修了。
歌舞伎音楽・長唄(研修期間3年): 第4期生3名の1年目の研修を実施。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師	回数	
歌舞伎俳優	実技 計492回	歌舞伎実技	澤村田之助、中村時蔵、市川團蔵、松本錦吾、中村時蝶、ほか	191回
		立廻り・とんぼ	尾上松太郎、荒木達雄、ほか	89回
		日本舞踊	花柳泰輔、花柳錦吾、藤間勘祖、藤間勘十郎、ほか	102回
		義太夫	竹本朝重	25回
		長唄	杵屋喜三郎、杵屋寒玉、ほか	61回
	鳴物	田中佐太郎、望月太左衛門、ほか	24回	
その他 計86回	作法・講義・体操 公演・稽古見学 その他(着付等)	桜井宗梅、近藤瑞男、天森悦子、ほか	53回 20回 13回	
合計			578回	
鳴物	実技 計325回	鳴物	田中佐太郎、田中傳左衛門、田中傳次郎、鳳声晴由、鳳声晴之、福原寛、ほか	297回
		長唄	鳥羽屋里長、ほか	48回
		能楽(笛ほか)	一噌幸弘	11回
	その他 計170回	作法・講義・体操 公演・稽古見学 その他(楽屋実習等)	桜井宗梅、景山正隆、近藤瑞男、天森悦子、ほか	52回 22回 65回
合計			495回	
長唄	実技 計374回	長唄	鳥羽屋里長、鳥羽屋文五郎、杵屋巴太郎、杵屋長四郎、ほか	320回
		鳴物	田中佐太郎、望月太左衛門、ほか	54回
		その他 計106回	作法・講義・体操 公演・稽古見学 その他(楽屋実習等)	桜井宗梅、景山正隆、近藤瑞男、天森悦子、ほか
	合計			480回

3. 発表会(1回実施)

「合同研修修了発表会・研修発表会」3月13日(木)、本館小劇場
鳴物第13期生の修了発表会とともに、歌舞伎俳優第19期生、長唄第4期生、太神楽第5期生の発表会を合同で実施した。
・ 歌舞伎俳優: 実技「寿曾我対面」、舞踊「元禄花見踊」、長唄「小鍛冶」、立廻り「基本の型」
・ 鳴物: 長唄「高砂丹前」、鳴物「笛の黒みず音楽奏法」
・ 長唄: 長唄「五郎時致」、長唄「菖蒲浴衣」

4. 募集・選考の状況

歌舞伎俳優19期は、8月の適性審査に9名が合格した(9名中)。
長唄4期は、8月の適性審査に3名が合格した(3名中)。
鳴物第14期生、竹本第18期生の募集を行い、見学会・説明会を実施した。
選考試験を前倒して2月に行い(前回は3月)、鳴物は3名(応募3名中)が仮合格したが、竹本は合格者がいなかった(応募1名中)。

5. メニュー、研修実施方法等の検討

(関係団体等との協議)

伝統歌舞伎保存会・歌舞伎囃子協会・歌舞伎長唄協議会・歌舞伎義太夫竹本協会・松竹株式会社等と、適性審査の時期や内容、必要なメニュー及び効率的な研修の実施方法について協議検討を行った。
歌舞伎俳優については、伝統歌舞伎保存会の協力を得て、若手幹部俳優の起用など講師の充実を図った。
歌舞伎俳優において、新たに副担当者を置き、精神的ケアを含めた環境の整備を行った。

【特記事項】

歌舞伎俳優については、前期・前々期が研修生6名であったのに対し、9名を対象に研修を実施できた。
歌舞伎俳優研修受講生(1名)を9月に受入れ、3月まで歌舞伎俳優研修を受講した。
20年度開講予定であった歌舞伎音楽・竹本第18期研修については、選考試験の結果合格者がいなかったが、竹本の若手の育成は重要な課題であり、歌舞伎義太夫竹本協会からの依頼もあるため、21年度の開講に向けて20年度に再度募集を実施することとした。

②大衆芸能（寄席囃子、太神楽）

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

1. 研修の実施（研修期間3年）
第5期生2名の1年目の研修を実施。
2. 主な授業及び回数、主な講師

区 分	授業内容	主な講師	回 数
実 技 計438回	投げもの・立てもの 日本舞踊 長唄・囃子	翁家和楽、錦味仙三郎、翁家小楽、錦味勇二郎、錦味繁二郎、叶家勝二、ほか	330回
		藤間理衣	35回
		今藤長十郎、望月太左衛、望月鏡子、ほか	73回
その他 計103回	作法・講義・体操 公演・稽古見学 その他(着付等)	桜井宗梅、倉田喜弘、荒木達雄、天森悦子、ほか	48回
			37回
			18回
合 計			541回

3. 発表会（1回実施）
「合同研修修了発表会・研修発表会」3月13日（木）、本館小劇場
鳴物第13期生の修了発表会とともに、歌舞伎俳優第19期生、長唄第4期生、太神楽第5期生の発表会を合同で実施した。太神楽（曲桴・五階茶碗）。
4. 募集・選考の状況
太神楽5期は、7月の適正審査に2名が合格した（3名中）。
寄席囃子第13期生の募集については、寄席囃子演奏者が充足しているため、関係団体と協議の結果、今年度の募集を見送ることとした。引き続き協議・検討を進める。
5. メニュー、研修実施方法等の検討
（関係団体等との協議）
日本演芸家連合、落語協会、落語芸術協会、太神楽曲芸協会と、適性審査の時期や内容、必要なメニュー及び効率的な研修の実施方法、修了後の受入れ等について協議・検討を行った。

A

③能楽（ワキ方、狂言方、囃子方）

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

1. 研修の実施
第7期生2名（専門研修課程）の6年目（専門研修課程3年次）の研修を実施し、研修を修了。
2. 主な授業及び回数、主な講師

区 分	授業内容	主な講師	回 数
ワキ方	ワキ謡・型	福王茂十郎、福王和幸	158回
小鼓方	専門研修	大倉源次郎、清水晴祐、吉阪一郎	84回
シテ謡	観世・宝生	観世清和、木月孚行、高橋章	85回
四拍子	大鼓・太鼓・笛	亀井忠雄、金春惣右衛門、一噌庸二、ほか	70回
講 義	技法論	松本雍、岩崎雅彦	21回
楽屋・舞台実習		福王茂十郎、大倉源次郎	289回
合 計			707回

3. 発表会等（4回実施）
第7期生は最終年次のため、「能楽研鑽会」において、「乱」「石橋」「小鍛冶」などの曲を主任講師の助演のもとに発表した。（6月12日・12月10日・3月11日、能楽堂）
また、第7期生が京都・大阪の各養成会研修生等と合同で「東西合同研究発表会」に参加し、相互交流を深めながら、日頃の技芸研鑽の成果を発表した。（主催：京都能楽養成会／共催：大阪能楽養成会・国立能楽堂／8月29日、京都観世会館）
4. 募集・選考の状況
第8期能楽（三役）研修は、ワキ方・小鼓方・大鼓方・狂言方と決定し、募集を行った。選考試験を2月に行い（従来は3月）、7名（応募9名中）が合格したが、うち3名は辞退した。
5. メニュー、研修実施方法等の検討
講師会議を年3回実施し、最終年次に相応しい曲目を検討し選定した。また、修了後に能楽師として独り立ちができるように国立能楽堂以外の舞台・楽屋実習をより多く実施した。
（関係団体等との協議）
日本能楽会、能楽協会等関係団体と、研修修了生の処遇、次期募集について協議を行った。

A

④文楽（大夫、三味線、人形）

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

1. 研修の実施（研修期間2年）
第23期生3名の1年目の研修を実施。（内訳：三味線1名、人形2名）
2. 主な授業及び回数、主な講師

区 分	授業内容	主な講師	回 数
義大夫	義大夫の基本等	竹本伊達大夫、豊竹咲大夫、ほか	20回
三味線	三味線の基本等	鶴澤寛治、鶴澤清治、竹澤団七、豊澤富助、ほか	144回
人形実技	人形の足の遣い方	吉田和生、桐竹勘十郎、吉田玉女、吉田清之助、ほか	131回
講 義	文楽の歴史・概論等	阪口弘之、高木浩志、倉田喜弘、荻田清、ほか	87回
舞	日本舞踊	山村若	18回
作法	茶道	安田宗敏	10回

A

その他	公演見学等	216回
合 計		626回

3. 発表会 (1回実施)
「第23期文楽研修生発表会」1月26日(土)、文楽劇場
4. 募集・選考の状況
研修生の適性の判断については、適性審査実施以前に本人の希望をもとに三業の専攻を講師と慎重に協議を行い、結果、三味線志望1名、人形志望2名として10月に適性審査を実施し、3名とも合格した。
5. メニュー、研修実施方法等の検討
適性審査以降のカリキュラムについて、講師と慎重に協議した結果、新たに1年次(研修発表会終了後)から舞台実習を組み入れることとした。講師については、幹部技芸員である講師と協議検討した結果、新たに人形の講師2名を迎えた。
(関係団体等との協議)
文楽協会と研修生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について検討を行った。

⑤組踊 (立方・地方)

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 研修の実施 (研修期間3年)
第1期 (10名) の3年目の研修を実施し、研修を修了。
2. 主な授業及び回数、主な講師

区 分	授業内容	主な講師	回 数
組踊実技	立方・地方	宮城能風、城間徳太郎、ほか	152回
副実技	琉球舞踊・華等	玉城節子、宮城文、ほか (総勢4名)	41回
基礎実技	発声訓練等	宮里京子、川畑三矢、幸地貞子	99回
講義研修	演劇・舞踊論等	田中英機、三隅治雄、幸喜良秀、金城厚	40回
鑑賞・見学研修	歌舞伎鑑賞等		27回
その他	研修発表会等		6回
合 計			365回

3. 発表会 (2回実施)
「第5回組踊研修生発表会」10月4日(木)、国立劇場おきなわ大劇場、組踊「女物狂」
「第1期組踊研修修了発表会」3月8日(土)、国立劇場おきなわ大劇場、組踊「花売の縁」
4. 募集・選考の状況
第2期生の募集を行い(9月~11月)、12月に選考試験を行った結果、立方5名・地方4名の計9名が合格した(応募15名中)。
5. メニュー、研修実施方法等の検討
組踊講師会議を実施し(6回)、技芸の発表会やカリキュラムの内容等について情報交換を行い、技芸の習得状況を踏まえた研修の実施に努めた。
(関係団体等との協議)
20年度から開講する第2期生の募集・選考方法等について、伝統組踊保存会、沖縄伝統舞踊保存会、沖縄伝統音楽野村流保存会、沖縄伝統音楽安富流保存会、沖縄伝統音楽箏曲保存会等の関係団体と協議した。
【特記事項】
17年度の開講から3年が経過し第1期生が修了生した。

A

⑥既成者研修

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 歌舞伎俳優既成者研修発表会 (実績2回・目標2回)
- ① 第13回稚魚の会・歌舞伎会合同公演
- | 期 間 | 日数・回数 | 会 場 |
|-----------------|-------|-------|
| 8/22(水)~8/26(日) | 5日12回 | 本館小劇場 |
- 内容: A・B班「菅原伝授手習鑑」寺子屋の場(中村吉衛門=監修・指導)、
「乗合船恵方万歳」(藤間勘祖=振付)
C班「今様須磨の写絵」(藤間勘祖=振付)、「勧進帳」(市川團十郎=監修・指導)
開演時間: 11:00/14:30/18:00 入場料金: 3,000円(学生2,100円)、障害者2割引
入場者数5,555人(入場率89%)
- ② 第17回上方歌舞伎会
- | 期 間 | 日数・回数 | 会 場 |
|-----------------|-------|------|
| 8/18(土)~8/19(日) | 2日4回 | 文楽劇場 |
- 内容: 「一條大蔵譚」大蔵館奥殿(片岡仁左衛門・片岡秀太郎=指導)、「乱朝恋山崎」(山村若=振付)、
「新版歌祭文」座摩社・野崎村(片岡我當・片岡秀太郎=指導)
開演時間: 11:00/16:00 入場料金: 3,500円(学生2,500円)、障害者2割引
入場者数2,481人(入場率92%)
2. 歌舞伎音楽既成者研修発表会 (実績1回・目標1回)
- 第9回音の会公演
- | 期 間 | 日数・回数 | 会 場 |
|-----------------|-------|-------|
| 8/11(土)~8/12(日) | 2日2回 | 本館小劇場 |
- 内容: 「蜘蛛の拍子舞」、「鷺娘」、「仮名手本忠臣蔵一山科閑居の場一」(中村梅玉・坂東玉三郎=監修・指導)
開演時間: 12:00 入場料金: 2,000円(学生1,400円)、障害者2割引
入場者数955人(入場率92%)
3. 能楽研修発表会 (実績3回・目標3回)
- ① 第17回能楽若手研究会: 京都公演

A

期 間	日数・回数	会 場
9/1(土)	1日1回	京都観世会館

内容：能「三輪」、狂言「寝音曲」、能「葵上」、能「経正」、狂言「節分」、能「海士」
 開演時間：10:30/15:00 入場料金：3,000円(学生1,500円)
 入場者数505人(入場率107%)

② 第17回能楽若手研究会：大阪公演

期 間	日数・回数	会 場
1/19(土)	1日2回	大槻能楽堂

内容：能「草子洗小町」、狂言「二九十八」、能「項羽」、能「小督」、狂言「昆布売」、能「船弁慶」
 開演時間：10:30/15:00 入場料金：前売2,700円、当日3,000円(学生1,500円)
 入場者数766人(入場率76%)

③ 第17回能楽若手研究会：東京公演

期 間	日数・回数	会 場
2/2(土)	1日1回	能楽堂

内容：能「松風」、狂言「吹取」、能「土蜘蛛」 開演時間：13:00
 入場料金：正面3,000円・脇正面2,500円(学生1,800円)・中正面2,000円(学生1,400円)、障害者2割引
 入場者数619人(入場率99%)

4. 文楽既成者研修発表会（実績2回・目標2回）

① 第7回文楽若手会

期 間	日数・回数	会 場
6/23(土)～6/24(日)	2日2回	文楽劇場

内容：「御所桜堀川夜討」弁慶上使の段、「仮名手本忠臣蔵」身売りの段・勘平腹切の段、
 「義経千本桜」道行初音旅
 開演時間：13:00 入場料金：2,000円(学生1,400円)、障害者2割引
 入場者数967人(入場率66%)

② 第2回義太夫節に親しむ会

期 間	日数・回数	会 場
8/30(木)	1日1回	文楽劇場小ホール

内容：「一谷嫩軍記」熊谷桜の段（豊竹靖大夫、鶴澤清丈）、「国性爺合戦」楼門の段（豊竹呂茂大夫、
 竹澤宗助賛助出演）、「絵本太功記」妙心寺の段（豊竹つばさ大夫、野澤喜一郎）
 開演時間：18:30 入場料金：1,000円(学生700円)、障害者2割引
 入場者数151人(入場率95%)

③ 第3回義太夫節に親しむ会

期 間	日数・回数	会 場
2/28(木)	1日1回	文楽劇場小ホール

内容：「一谷嫩軍記」組討の段（豊竹希大夫、鶴澤清丈）、「祇園祭礼信仰記」鳶田の段（豊竹睦大夫、
 豊澤龍爾）、「義経千本桜」河連法眼館の段（豊竹咲甫大夫、鶴澤清介賛助出演、鶴澤清公）
 開演時間：18:30 入場料金：1,000円(学生700円)、障害者2割引
 入場者数174人(入場率109%)

5. 能楽研究課程

能楽の既成者研修として開設した研究課程（研修修了生と能楽師子弟を対象とする）は3年目を迎え、研究生50名が受講した（実施回数：406回）。本課程では、シテ方が副科（笛・小鼓・大鼓・太鼓）を受講するほか、三役は異流立会いによる交流を経験し、レパートリーを拡げた。研究課程と第7期生合同の研鑽会では、第7期生が最終年次のため、共に難易度の高い曲目を習得した。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 研修の実施

(1) 養成研修の実施

区 分	年度計画	研修実績	うち修了者	修了者累計	中期計画	
オペラ	8期	5名	5名	5名	25名	25名
	9期	5名	5名	—		
	10期	5名	5名	—		
バレエ	4期	6名	6名	—	16名	16名
演劇	1期	15名	15名	15名	15名	—
	2期	15名	14名	—		
	3期	15名	15名	—		

※ 「修了者累計」は中期計画期間中の修了者の累計。

(2) 研修発表会等

オペラ：3回（3月研修公演、7月・11月試演会）、その他6回（ロビーコンサートほか）
 バレエ：2回（1年次発表会、公開レッスン）
 演劇：3回（1期生修了公演、5月・8月1期生試演会）、その他3回（2期生朗読劇ほか）

(3) 募集

オペラ第11期生（研修期間3年間）：5名合格（86名中）、合格発表後1名辞退
 バレエ第5期生（研修期間2年間）：5名合格（42名中）
 演劇第4期生（研修期間3年間）：15名合格（267名中）

A

新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果があがっているものと認められる。また、三部門が出揃って順調に推移している。

【より良い事業とするための意見】
 ・オペラ研修の充実ぶりは特筆に値するので、続行されることを切望する。

・演劇研修所に演出コースの新設を検討すべきときがきている。

①オペラ

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

2. メニュー、研修実施方法等の検討

- (1) 委員会の開催等
演劇研修所サポート委員会を2回開催したほか、各部門の専門委員から研修についての意見を聴取した。
(2) 研修所長及び講師ほか専門家と協議し、研修方法の改善を図った。

【特記事項】

バレエ研修を19年9月から芸能花伝舎内の施設で行うことになった。
バレエ研修について、20年度から毎年募集を行うことになった。

1. 研修の実施

第8期生（5名、3年目）、第9期生（5名、2年目）、第10期生（5名、1年目）の研修を実施し、第8期生全員が修了した

2. 主な授業及び回数、主な講師

区 分	授業内容	主な講師	回 数
第8期	実 技	オペラ実習	4・5月は海外研修、ブライアン・マスダ、ほか
	計799回	身体表現	飯塚勳生、花柳千代、三輪えり花、ほか
	座 学	講 義	海老澤敏、ジョナサン・ミラー、ほか
	計232回	語 学	イタリア文化会館・ドイツ文化センター等派遣講師、ほか
	その他	舞台実習	ロビーコンサート、試演会、ほか
計22回	舞台鑑賞		
合 計			1,053回
第9期	実 技	オペラ実習	ブライアン・マスダ、ほか
	計938回	身体表現	飯塚勳生、花柳千代、三輪えり花、ほか
	座 学	講 義	海老澤敏、ジョナサン・ミラー、ほか
	計180回	語 学	イタリア文化会館・ドイツ文化センター等派遣講師、ほか
	その他	舞台実習	ロビーコンサート、試演会、ほか
計18回	舞台鑑賞		
合 計			1,136回
第10期	実 技	オペラ実習	ブライアン・マスダ、ほか
	計938回	身体表現	飯塚勳生、花柳千代、三輪えり花、ほか
	座 学	講 義	海老澤敏、ジョナサン・ミラー、ほか
	計180回	語 学	イタリア文化会館・ドイツ文化センター等派遣講師、ほか
	その他	舞台実習	ロビーコンサート、試演会、ほか
計19回	舞台鑑賞		
	見 学		1回
合 計			1,137回

3. 発表会等（研修公演1回、試演会2回）

(1) 研修公演・公開レッスン

- ① 7月リサイタル（試演会）（7月28日～29日、2回、小劇場）
② 11月リサイタル（試演会）（11月24日～25日、2回、小劇場）
③ 研修公演 モーツァルト作曲「フィガロの結婚」（3月13日～16日、4回、中劇場）

(2) その他出演等

- ① ロビーコンサート（6月3日、1回、新国立劇場メインエントランスロビー）
② 近江楽堂コンサート（8月7日、1回、近江楽堂）
③ 三重大学レクチャーコンサート（10月6日、1回、三重大学三翠小ホール）
④ イタリア文化会館コンサート（10月13日、1回、アニェリホール）
⑤ 近江楽堂コンサート（12月11日、1回、近江楽堂）
⑥ 京都国立博物館スプリング・オペラコンサート（3月21日～22日、3回、京都国立博物館特別展示館中央ホール）

4. 募集・選考の状況

大学院声楽専攻終了程度の実力を有する者で、入所時年齢が女性32歳以下、男性35歳以下の者を対象に、第11期生の募集を行った。応募総数86名。1月10日から14日まで3次にわたる選考を経て5名（ソプラノ2名、メゾ・ソプラノ2名、バリトン1名）が合格した。合格発表後1名が入所を辞退した。受験料は5,000円。

5. メニュー、研修実施方法等の検討

- 第4期研修より、海老澤オペラ研修所長のもと、以下のとおり大幅な研修方法の改善を図り、継続中である。
- ・ 研修生の声種を重視し、専門講師陣による十分な検討を経て、一人一人が修得すべきレパートリーを選定する。
 - ・ 個人レッスンに加え、学年枠を取り払ったアンサンブル・レッスンや集団での創作活動にも十分に配慮したプログラムを組む。
 - ・ オペラに必須の伊・独・英語を軸とした語学、及び演技基礎の充実を図る。
 - ・ 海外から経験豊富な講師陣を招聘し、多角的かつ集中的に指導を行う。
 - ・ 特任・準特任講師、ヘッドコーチ等を設置し、随時講師陣によるミーティングを行い、個々のレッスンの繋がりを作るとともに、日常的・恒常的に研修状況をチェックし研修内容に反映させる。同時に、研修生の身体的チェックや、精神面も含めた相談にあたる。

②バレエ

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

1. 研修の実施

第4期（6名、1年目）の研修を実施する。

2. 主な授業及び回数、主な講師

新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果があがっているものと認められる。また、三部門が出揃って順調に推移している。

【より良い事業とするための意見】
・オペラ研修の充実ぶりは特筆に値するので、続行されることを切望する。

・演劇研修所に演出コースの新設を検討すべきときがきている。

区 分	授業内容	主な講師	回 数
実 技 計447回	クラシカル・バレエ	牧阿佐美、豊川恵美子、新井咲子、佐藤勇次、岸辺光代、ほか	275回
	キャラクター・		
	コンテンポラリー・ダンス 身体表現	ゲンナーディ・イリイン、木賀真佐子、小島章司、アキコ・カンダ 橋本佳子、三輪えり花	84回 88回
座 学 計110回	講 義	福田一雄、薄井憲二、新谷佳冬、大原永子、ほか	110回
その他 計108回	舞台実習	公開レッスン、発表会、ほか	85回
	舞台鑑賞	オペラ・バレエ・演劇各主催公演、ほか	22回
	見 学		1回
合 計			665回

3. 発表会等

(1) 研修発表会・公開レッスン

- ① 1年次公開レッスン（9月8日、1回、中劇場）
- ② 1年次発表会（2月24日、1回、中劇場）

(2) その他

- ① 舞台実習「ドン・キホーテ」（6月28日～7月1日、4回、オペラ劇場）
- ② 演劇基礎研修アトリエ発表会「ガラスの動物園」（3月28日、1回、合唱リハーサル室）

4. 募集・選考の状況

プロフェッショナルなダンサーとして就業する意志を持っている者で、入所時年齢が17歳から19歳までの者を対象に、第5期生の募集を行った。応募総数42名。3月2日から15日まで3次にわたる選考を経て6名（女性3名・男性3名）が合格した。受験料は5,000円。

5. メニュー、研修実施方法等の検討

- ・ 毎年度募集制へ移行するための過渡期的施策を実施した。20年4月から、1年次と2年次が並存して研修を行う毎年度募集の体制が整った。
- ・ 研修場所として、19年9月より芸能花伝舎内に新しく建設された専用の稽古場を、平日の日中に優先使用できる体制を整えた。また、20年度から研修生が増加することに伴う稽古場不足を補うため、新国立劇場バレエリハーサル室を平日夕方の一定の時間帯に使用できるように調整を行った。
- ・ これまで発表会等、必要な時期に限定して委嘱していたコンテンポラリー・ダンスの講師を通年の講師とした。講師の選定は研修所長をはじめとする講師会にて数名の候補者を挙げ、その中から「グラハムメソッド」の正統的な継承者であるアキコ・カンダに委嘱することとした。
- ・ 研修所に通いながら高校卒業の資格を取るため、「新国立劇場バレエ研修所高等学校科目単位認定制度」を創設した。通信制の科学技術学園高校の協力を仰ぎ、研修所におけるクラシカル・バレエのレッスン時間が、高校の授業単位の一部として20年度から認められるようになった。

③演劇及びその他の関係者の
研修

振興会における自己点検評価の結果
をふまえて、委員の協議により、
評定を決定する

1. 研修の実施

第1期生（15名、3年目）、第2期生（14名、2年目）、第3期生（15名、1年目）の研修を実施し、第1期生全員が修了した。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区 分	授業内容	主な講師	回 数	
第1期	実 技 計731回	演劇実習 宮田慶子、西川信廣、栗山民也、ほか	731回	
	合 計		731回	
第2期	実 技 計1,176回	身体と演技	山中ゆうり、木村早智	85回
		声と演技	池内美奈子	178回
		即興・演技実技	オーハン・ヨースケ、鍛田かおる、ローラ・マーシャル、ほか	255回
		シーンスタディ	加納幸和、鐘下辰男、ペーター・ゲスナー、栗山民也	391回
		日本舞踊	花柳千代、花柳太郎	52回
		歌唱と演技	深沢桂子、小川美也子、安崎求	118回
		バレエ・ダンス	河野有紀子	26回
座 学 計92回	講 義	大笹吉雄、鶴山仁、黒澤世莉、宮田慶子、樋田慶子、高橋昭子	92回	
その他 計85回	観劇とディスカッション		40回	
	金曜サロン	鐘下辰男、井上ひさし、柳家花緑、豊竹呂勢大夫、ほか	18回	
	オリエンテーション 見学等		16回 11回	
合 計			1,290回	
第3期	実 技 計962回	身体と演技	山中ゆうり、木村早智	88回
		声と演技	池内美奈子	233回
		即興・演技実技	オーハン・ヨースケ、鍛田かおる、ローラ・マーシャル、ほか	301回
		シーンスタディ	石丸さち子	103回
		日本舞踊	花柳千代、花柳太郎	58回
		歌唱と演技	伊藤和美	53回
		バレエ・ダンス	井手茂太、河野有紀子	43回
朗読	今井朋彦	17回		

A

	その他実技	橋本佳子、ほか	66回
座学 178回	講義	大笹吉雄、鶴山仁、黒澤世莉、宮田慶子、榎田慶子、高橋昭子	178回
その他 計109回	観劇とディスカッション		51回
	金曜サロン	鐘下辰男、井上ひさし、柳家花緑、豊竹呂勢大夫、ほか	22回
	オリエンテーション 見学等		32回
合計			4回
			1,249回

3. 発表会等

(1) 研修公演・公開レッスン

- ① 研修所公演・試演会①「音楽劇三文オペラ」(5月6日～8日、3回、小劇場)
- ② 研修所公演・試演会②「あぶらでり」「かどで」(7月27日～29日、4回、Cリハーサル室)
- ③ 修了公演「リハーサルルーム」(2月8日～10日、3回、小劇場／2月24日、1回、大野城まどかぴあ大ホール／2月27日～28日、2回、川崎市アートセンターアルテリオ小劇場)

(2) その他出演等

- ① 第1期生 丸山眞男のインタビュー記事「24年目に語る被爆体験」を朗読
丸山眞男手帖の会第8回「復初」の集い、8月15日、星陵会館
新国立劇場主催公演「異人の唄」に2名が出演したほか、外部出演等多数
- ② 第2期生 朗読劇「リトル・ボーイビック・タイフーン～少年口伝隊一九四五～」
「世界P. E. N. フォーラム」、2月22日・24日、2回、全労済ホールスペースゼロ
「国際ドラマリーディングフェスティバル」、3月7日、1回、川崎市アートセンターアルテリオ小劇場
- ③ 第3期生 デモンストレーション作品「黒猫」(脚本・映像・演出：奥秀太郎)に協力
「これからの舞台スタッフには何が求められているのか—シンポジウムと研修会—」
舞台芸術共通基盤研修実行委員会主催／文化庁平成19年度芸術団体人材育成支援事業
1月31日、1回、小劇場

4. 募集・選考の状況

プロフェッショナルな俳優として舞台活動を行うことを目指している者で、入所時年齢が18歳以上30歳以下の者を対象に、第4期生の募集を行った。応募総数267名。2月11日から17日まで、3次にわたる選考を経て、15名(男性7名、女性8名)が合格した。受験料は5,000円。

また、演劇研修所における不安や疑問に答えるべく、研修所施設内において、研修所概要やカリキュラム等に関する説明会を2回実施した(8月25日・参加者65人、12月22日・参加者37人)。

5. メニュー、研修実施方法等の検討

広く専門家の意見を聴取するために、6名の委員による演劇研修所スタジオ・サポート委員会を2回開催し、研修所の運営や方向性について、議論を重ねた。

6. その他

社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)が主催する「現役俳優のためのリフレッシュコース」に協力し、演劇研修所のカリキュラムを発展させた形で、現役舞台俳優のための短期集中トレーニングを行った(7月9日～20日、芸能花伝舎創造スペース)。また、短期間のワークショップ開催への要望が多数あったので、2日間のお試しコースを行った(3月17日～18日、芸能花伝舎創造スペース)。

【特記事項】

年度当初に一身上の理由により第2期生1名が辞退した。

4. 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

① 伝統芸能に関する調査研究の実施

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

(1) 上演資料集の刊行

① 方針

自主公演の上演に当たり、過去の上演情報、演技・演出等の情報を調査し、出演者及び公演スタッフの参考に供し、あわせて一般の鑑賞、研究の一助とするため、上演資料集を刊行する。

国立劇場本館においては、歌舞伎公演・歌舞伎鑑賞教室公演(目標6冊)、文楽公演・文楽鑑賞教室公演(目標4冊)に際し刊行し、他の分野についても必要に応じて刊行する。

② 刊行実績

区分	刊行実績
歌舞伎 刊行7冊 (計画6冊)	6月鑑賞教室「双蝶々曲輪日記—引窓—」(No. 500)
	7月鑑賞教室「新版歌祭文—野崎村—」(No. 501)
	10月公演「平家女護島—俊寛—」「昔語黄鳥填—うぐいす塚—」(No. 503)
	11月公演「通し狂言 摂州合邦辻」(No. 504)
	12月公演「それぞれの忠臣蔵」(No. 505)
	1月公演「通し狂言 小町村芝居正月」(No. 508)
文楽 刊行6冊 (計画4冊)	3月鑑賞教室「芦屋道満大内鑑—葛の葉—」(No. 510)
	5月公演「通し狂言 絵本太功記」(No. 499)
	9月公演「夏祭浪花鑑」「菅原伝授手習鑑」(No. 502)
	〈増刊〉「吉田玉男 文楽藝話」
	12月鑑賞教室「伊賀越道中双六」(No. 506)

A

S

A 国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って着実な成果があがっており、高く評価される。なお、上演資料集刊行は国立劇場の成果への“核”として評価される。

	12月公演「信州川中島合戦」「新版歌祭文」(No. 507) 2月公演「二人禿・鶴山姫捨松・壺坂観音霊験記」(No. 509)
組踊 刊行3冊 (計画2冊)	6月定期公演 組踊「二童敵討」(12) 9月定期公演 組踊「義臣物語」(13) 1月定期公演 組踊「久志の若按司」(14)

③ 配付実績

- ・ 歌舞伎・文楽 出演者及び公演スタッフ：各150件、研究者等：各90件、研究機関等：各60件
- ・ 組踊 出演者及び公演スタッフ：各66件、研究者等：各10件、研究機関等：63件

④ 外部専門家等の意見及びアンケート調査

ア 外部専門家等の意見

入手し難い資料や図版資料が充実しており、研究に資することができる。

イ アンケート調査

発送時に刊行物に用紙を添付して調査を行った。

- ・ No. 503歌舞伎 回答者数38人。回答者の92.1%から概ね満足との回答を得た(35人)。
- ・ No. 509文楽 回答者数37人。回答者の97.0%から概ね満足との回答を得た(33人)。
- ・ No. 12～14組踊 回答者数18人。全員が概ね満足と答えた。

【特記事項】

過去に上演資料集に掲載されていた吉田玉男の藝話を1冊にまとめ、上演資料集増刊「玉男藝話」として刊行し、9月文楽公演から本館と文楽劇場で販売した。

国立劇場おきなわでは、次回の上演に資する資料として「自主公演記録台本」を作成した。19年度に上演した組踊全8演目の上演台本に詳細な演出を書き込み、巻末にデータCDを添付した。

(2) 自主公演の映像記録等の作成

① 方針

自主公演について、映像、写真等による記録を作成し、伝統芸能の公開等に活用する。

② 収録実績

区 分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真66公演、扮装図鑑等7公演、文楽人形等5公演
能楽堂	映像・音声・写真51公演
文楽劇場	映像・音声・写真15公演、文楽人形等5公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真33公演

※ 歌舞伎公演(鑑賞教室を含む)は、鬘・衣裳・小道具等の写真を撮影記録し(扮装図鑑)、下座の附帳等を収集した。また、文楽公演(鑑賞教室を含む)は、人形・大道具・小道具等の写真を撮影記録した。

③ 活用実績

- ・ 視聴(映像資料及び音声資料)利用数総計：5,549件(10,748時間)

区 分	一 般	関係者(出演者等)	合 計
本館・演芸場	997件(2,116時間)	1,373件(4,509時間)	2,370件(6,625時間)
能楽堂	1,549件(2,943時間)	545件(706時間)	2,094件(3,649時間)
文楽劇場	27件(64時間)	984件(334時間)	1,011件(398時間)
国立劇場おきなわ	58件(71時間)	16件(5時間)	74件(76時間)

- ・ 複製(映像資料及び音声資料)

区 分	関係者(出演者等)
本館・演芸場	155件(269点)
能楽堂	251件(259点)
文楽劇場	137件(268点)
国立劇場おきなわ	173件(179点)

※ 複製は出演者に対してのみ実施。

【特記事項】

本館の図書閲覧室・視聴室を日中利用できない人のために19年度より原則として毎月第3木曜日の利用時間を20時まで延長して開室した。(通常は10時～17時開室)

(3) 「近代歌舞伎年表」の刊行

① 方針

日本各地の歌舞伎を中心とした演劇興行に関する年表を作成する。19年度は、「名古屋篇」第二巻の刊行及び第三巻の刊行準備のための作業と、基礎的な調査である劇界記事100件程度、興行カード600件程度をそれぞれ作成する。

② 実績

刊 行：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第二巻(20年3月)

刊行準備：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第三巻 資料の追加収集、データ整理、原稿作成の一部を行った。

調査作業：「名古屋篇」劇界記事の作成：126件(目標100件)

「名古屋篇」原稿作成のための興行カード作成：683件(目標600件)

【特記事項】

歌舞伎興行以外の小規模な劇場での各種興行を一覧表として掲載することにより、興行界全体の姿を浮かび上げさせ、歌舞伎興行の位置付けを明確化することができた。

(4) 古文献の復刻等

① 方針

伝統芸能に関する古文献についての調査研究を行い、解題を付した復刻、翻刻として公開する。また、過去の刊行物等について増補・改訂を行い、改訂版の刊行に向けた準備作業を行う。

伝統芸能情報館では、「日本の伝統芸能講座 音楽」の刊行及び次巻「舞踊・演劇」篇と「系統別歌舞伎戯曲解題」の刊行準備を行う（20年度刊行予定）。また、「歌舞伎俳優名跡便覧」第四次修訂版の刊行準備を併せて行う。

能楽堂では、NOH THEATRE「国立能楽堂調査研究2」の刊行を行う。

文楽劇場では、特に人形浄瑠璃・義太夫節に関する資料の収集を続けながら、これまでに収集した資料を活用・集成して成果物を作成するための準備を進める。

② 調査実績

刊行：「日本の伝統芸能講座 音楽」（20年3月刊行）

「NOH THEATRE 国立能楽堂調査研究2」（20年3月刊行）

第2号には、国立能楽堂の収集資料及び展示に関する調査を依頼した研究者の報告論文（1本）及び若手能楽研究者の論文（2本）を掲載した。

刊行準備：「日本の伝統芸能講座 舞踊・演劇」篇の執筆より原稿入手、掲載する資料の調査を行った。

「系統別歌舞伎戯曲解題」の原稿収集と確認

「歌舞伎俳優名跡便覧」第四次修訂版の刊行に向けて、歌舞伎俳優の襲名、改名、屋号、俳名等に関する調査を行った。また、新しい段階の調査として役者の紋についてデータ収集を開始した。

「義太夫等SPレコード目録」の刊行に向けて、文楽劇場所蔵の義太夫SPレコード約4,300枚につき、ジャンル別（義太夫と女流義太夫の区別）、演目、演者、音質や保存状態等について調査した。

③ 配布実績 「日本の伝統芸能講座 音楽」研究者・研究機関：300冊

④ 外部専門家の意見及びアンケート調査

「日本の伝統芸能講座 音楽」は、能楽、歌舞伎、文楽等ジャンルごとの手引き書が数多く出版されている中で、音楽を軸に日本の伝統芸能全体を視野に入れた図書として貴重なものである。研究者が少なくなっている分野もあり、また近年、研究も細分化されてきているので、執筆陣を構成するのも容易ではない。そのためもあり、内容的に専門性が高くなり、商業ベースに乗せ難い面もあって敬遠されがちであったが、伝統芸能を総合的にとらえられるとともに、各ジャンル相互の歴史的関連や個々の特質を知ることができ、評価できる。

【特記事項】

「日本の伝統芸能講座 音楽」の一般への販売を淡交社より行った。

(5) 意識調査の実施

① 方針

大衆芸能に関する一般の意識調査として、国立演芸場に来場した高校生を対象に「大衆芸能に関する意識調査」を実施する。実施結果を分析した報告書を作成し、振興会内部の業務運営の参考とするほか、関係機関等にも配布する。

② 調査実績

19年8月・12月国立演芸場定席公演の来場者を対象として意識調査を実施。集計結果は報告書「大衆芸能に関する意識調査」としてまとめた。実施場所は演芸場。回答者数は1,179人（うち有効回答1,165人）。

③ 配付実績 関係部署・機関等への配布：35件

(6) 国立劇場が委嘱・初演した音楽作品の楽譜及び解説の刊行

① 方針

国立劇場が委嘱、初演した音楽作品を、作曲家ごとに楽譜、解説及び公演時の録音をCD化したものを付し、「現代の日本音楽」として継続的に刊行する。19年度は、「第19集」及び「第20集」を刊行し、再演及び研究への活用を図る。

② 刊行実績

「現代の日本音楽 第19集（松尾祐孝）」（19年12月刊行）

「現代の日本音楽 第20集（廣瀬量平）」（20年1月刊行）

③ 配布実績 研究者、研究機関：400冊

④ 外部専門家等の意見

現代の創造活動の先端を行く作曲家達の伝統に対する様々なアプローチの仕方がうかがえるとともに、楽譜を見ながらCDで実際に音が聴け、しかも英文付きということで、作曲コンクールでも海外からの応募作品が随分多くなっている状況にもあり、国の内外を問わず日本の伝統楽器による作曲を志す人達にとって格好の入門書ともなっている。

洋楽系18名、邦楽系2名の現代作曲家の作品を取り上げ、全20集をもってこのシリーズの完結を迎えたが、国立劇場委嘱の音楽作品には、なお取り上げるべき作品が残されており、このシリーズの継続を望む。

【特記事項】

春秋社より一般へ販売をしている。本シリーズは今回の第20集を以て終了する。

(7) 「沖縄芸能史年表」の刊行

① 方針

御冠船の時代から現代にいたるまでの沖縄伝統芸能の上演等の記録を調査整理し、沖縄芸能史年表を刊行する。

② 実績

「沖縄芸能史年表第4集」を刊行した（20年3月）。

琉球新報（明治42年1月～44年9月）、沖縄毎日新聞（明治42年2月～43年6月）、本土発行新聞、雑誌芸能関係記事、家譜、戦前のレコードから琉球・沖縄に関する記事及びデータから資料を抽出し、漢文体・変体仮名を新漢字・新仮名遣い変換する作業を行った。

②伝統芸能に関する資料の収集及び活用

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

(8) 資料の収集・分類整理、閲覧

① 方針
伝統芸能に関する資料を、各館の収集方針の下、適宜適切に収集する。図書については、一般の利用を促進させるため、引き続き開架図書を充実する。

② 実績
(図書の収集・閲覧)

区 分	収 集	閲 覧
伝統芸能情報館	収集図書：2,727冊 単行本322冊、逐次刊行物992冊、 筋書等1,413冊 開架図書：約7,260冊	閲覧室利用者数：3,648人 閉架図書閲覧者数：590人 開室日数：207日
能楽堂	収集図書：609冊 単行本等246冊、逐次刊行物363冊	図書閲覧者数：1,036人(4,188冊) 開室日数：255日
文楽劇場	収集図書：553冊 単行本95冊、逐次刊行物120冊、 筋書等338冊 普及コーナーの開架図書：821冊	閲覧室利用者数：508人 普及コーナー利用者数：9,244人 図書閲覧者数：351人(1,371冊) 図書貸出者数：66人(119冊) 閲覧室開室日数：232日
国立劇場おきなわ	収集図書：674点 単行本371冊、逐次刊行物183冊、 筋書等60冊、公演・演出台本60冊	レファレンスルーム利用者数：847人 開室日：168日

(資料の収集・閲覧等)

区 分	収 集	閲 覧
伝統芸能情報館	収集資料：3,923点 芝居版画1点、レコード・CD5点、 公演記録等資料3,981点、その他21点	資料閲覧件数：1,280件(972点) 写真複製使用件数：99件(443点)
能楽堂	収集資料：3,210点 特別資料(装束3点・絵画文献4点)、 公演記録資料(ビデオ等628点、写真2,575点)	特別資料閲覧件数：2件(320点) 資料閲覧件数：1,570件 映像資料閲覧件数：2,094件(4,402点) 写真複製使用件数：251件(259点)
文楽劇場	収集資料：348点 公演記録等資料121点、視聴覚資料156点、 人形等4点、その他67点	写真複製使用件数18件(52点)
国立劇場おきなわ	収集資料：845点 公演記録等資料439点、視聴覚資料391点、 組踊衣裳7点、小道具等8点	写真複製使用件数15件(96点)

③ 外部専門家等の意見及びアンケート調査

ア 外部専門家等の意見

- 文化財の市場流出には波があるが、現在の流出状況は稀なことである。この期に積極的に散逸や海外流出を防ぐ努力を重ねるべきである。ここ数年の資料収集により、国立能楽堂に情報が集約するようになってきた。今後も収集・研究の両輪で能楽文化財の活用をおおいに望む。

イ アンケート調査

- 伝統芸能情報館：20年1月に閲覧室利用者のアンケートを実施した。回答数61人。回答者の91.8%が概ね満足と答えた(56人)。
- 能楽堂図書閲覧室の利用者アンケート：5月9日～8月17日に実施。回答数17人。回答者の70.6%が概ね満足と答えた(12人)。
- 文楽劇場図書閲覧室の利用者アンケート：1月3日～3月31日に実施。回答数19人。回答者の84.2%が概ね満足と答えた(16人)。
- 国立劇場おきなわレファレンスルームの利用者アンケート：回答数21人。回答者の81.0%が概ね満足と答えた(17人)。

【特記事項】

本館の図書閲覧室・視聴室を日中利用できない人のために19年度より原則として毎月第3木曜日の利用時間を20時まで延長して開室した。(通常は10時～17時開室)

(9) 収集資料の活用・刊行

① 方針

伝統芸能情報館では、研究重点の資料収集を行いつつ、展示向きの資料の収集を進める。能楽堂において開催する特別展示「高島屋コレクション展」のため収集した資料等を活用し「高島屋コレクションの研究(仮題)」を刊行する。文楽劇場においては、特に人形浄瑠璃・義太夫節に関する資料の収集を続けながら、これまでに収集した資料を活用・集成して成果物を作成するための準備を進める。

② 実績

- 「歌舞伎版画図録 第12巻」の刊行準備 収録予定の錦絵の目録作成等
- 「高島屋コレクション展—華麗なる能装束」の刊行
「高島屋コレクション展」(9月21日～12月8日に開催)のための調査結果を元に、図録を兼ねた「高島屋コレクション展—華麗なる能装束」を刊行した(19年9月)。

A

(活用実績) 研究者及び研究機関等へ配布し、展示に際して販売した。

- ・ 「文楽人形衣裳集」の刊行準備
文楽劇場開場時以来の衣裳付帳面を基礎に、文楽の衣裳を分類別・演目別に体系立てて写真撮影し、研究者に服飾史的原稿を依頼し、刊行に向けての材料集めを行った。

(10) データベース化 (図書、資料、自主企画映画、公演情報、公演記録写真、扮装図鑑)

① 方針

収蔵資料について、フィルムをデジタルデータ化し、併せて情報のデータベース化を進め、伝統芸能情報館及びインターネットにおいて一般の利用 (検索・閲覧) に供する。

自主公演に関する情報 (場割、配役、上演時間、休演者等) のデータベース化を進め、伝統芸能情報館及びインターネットにおいて一般の利用 (検索・閲覧) に供する。

公演記録写真について、フィルムをデジタルデータ化した上で文化デジタルライブラリーに登録し、伝統芸能情報館 (情報展示室、図書閲覧室) 内での一般の利用 (検索・閲覧) に供する。

国立劇場自主企画映画のデータベース化を進め、伝統芸能情報館 (情報展示室、図書閲覧室) 内での一般の利用 (検索・閲覧) に供する。

② 実績

事項	実施内容
図書	逐次刊行物等11,100冊 (計画: 15,000冊程度) 文楽劇場逐次刊行物9,994冊、国立劇場の単行本その他1,106冊をデータベース化した。
資料	錦絵150件 (計画: 錦絵150件) 「芝居版画図録」第12巻として刊行予定の錦絵150件 (281点) を文化デジタルライブラリーに登録した。
自主企画映画	5本 (計画: 5本) 国立劇場製作の自主企画映画「かぶきの音」「文楽の魅力」「鑑賞入門 井筒をみる」「鑑賞入門 藤戸をみる」「座敷舞の魅力 舞の心」の計5本を文化デジタルライブラリーに登録した。
公演情報	119公演 (計画: 80公演) 歌舞伎11公演、文楽14公演、舞踊・邦楽12公演、雅楽・声明12公演、民俗芸能9公演、特別企画8公演、能狂言53公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録した。
公演記録写真	20,149枚 (計画: 18,000枚) 国立劇場で18年度に撮影した歌舞伎公演・文楽公演 (鑑賞教室を含む) の公演記録写真 8,493枚、国立劇場で9年5月から15年2月までに撮影した文楽公演記録写真 11,656枚を文化デジタルライブラリーに登録した。
扮装図鑑	7公演 (計画: 7公演) 国立劇場で17年10月から18年7月までに上演された歌舞伎公演 (鑑賞教室を含む) の「扮装図鑑」を文化デジタルライブラリーに登録した。

③ 外部専門家等の意見

公演情報や収蔵資料の画像がインターネットを通じて外部に配信されるようになったため、芸能関係者・研究者はもとより、広く一般も利用が可能となり、大変便利である。

【特記事項】

自主企画映画については、今年度で44作品全ての登録を完了した。

19年度に「演芸・大衆芸能」公演の公演情報が公開したことにより、13年度から進めてきた旧「伝統芸能情報システム」から「文化デジタルライブラリー」へのデータ移行が完了し、国立劇場、演芸場、能楽堂、文楽劇場の公演情報は、全てのジャンルにおいて検索・閲覧が可能になった。併せて、国立劇場の歌舞伎公演と文楽公演の公演記録写真についても、画像データが全て登録され、公演情報の検索と連動して伝統芸能情報館内で検索・閲覧が可能となった。

(11) 博物館施設等への資料の貸与

① 方針

博物館施設等の求めに応じ、収集した資料等を貸与し、伝統芸能に対する理解の促進に努める。

② 実績

- ・ 能楽堂収蔵資料
貸与件数2件4点 (世田谷文学館、大阪歴史博物館)、貸与内容: 能装束類 (厚板、大口、中啓、鬘帯)
- ・ 文楽劇場収蔵資料
貸与件数6件41点 (大阪国際会議場、世界陸上プラザ、丸亀市立資料館、大阪市中央区役所、大阪府立女性総合センター、同志社女子大学)、貸与内容: 人形・三味線・写真パネル等
- ・ 国立劇場おきなわ収蔵資料
貸与件数1件1点 (浦添市美術館)、貸与内容: 黒朝衣装 (琉球舞踊で使用される芭蕉布で縫われた衣装)

【特記事項】

能楽振興のため積極的に全国4か所の美術館で展示公開する「国立能楽堂コレクション展」の実施に向けて準備を進めた。20年度は、国立能楽堂開場25周年記念事業として「国立能楽堂コレクション展」を次の4会場において全国巡回展を実施する。島根県立石見美術館 (4/19~5/26)、MOA美術館 (7/26~9/2)、奈良県立美術館 (10/25~11/30)、新潟県立近代美術館 (1/24~3/1)。

(12) デジタル展示

① 方針

収集した資料等を利用してジオラマビジョンコンテンツや12面マルチ映像コンテンツを作成し、伝統芸能情報館におい

てデジタル展示を行う。

② 実績

ジオラマビジョンは、18年度に制作した「能の舞台」(約15分)を上映した。
12面マルチ映像は14～17年度に制作した「歌舞伎誕生400年」コンテンツ(全4作・合計1時間)を上映した。

【特記事項】

今年度は、伝統芸能情報館1階の展示室改装工事もあり、新規のコンテンツは計画していない。

(13) 展示

① 方針

収集した資料を各劇場施設の目的に沿って展示公開するとともに、展示についての目録等を作成する。

② 展示公開の実績(実施21回・計画21回)

区分	期間	内容	来場者数
伝統芸能 情報館 資料展示室	4/10～5/27(47日間)	「名古屋の芸能」	3,856人
	6/1～7/24(52日間)	「歌舞伎入門」	5,840人
	10/3～1/27(106日間)	「伝統芸能の顔」	11,721人
	2/8～3/31(51日間)	「能楽と歌舞伎」※5/25まで実施	6,900人
	合 計(258日間)		28,317人
演芸場 資料展示室	4/1～6/20(78日間)	「演芸の風景」	8,233人
	7/2～9/20(80日間)	「落語の歴史」	7,810人
	10/1～12/20(70日間)	「演芸資料展」	8,794人
	1/2～3/20(63日間)	「押絵羽子板の世界」展	8,914人
	合 計(291日間)		33,751人
能楽堂 資料展示室	5/9～6/22(40日間)	「能楽入門Ⅰ－江戸庶民と能－」	4,590人
	7/4～8/19(41日間)	「能楽入門Ⅱ－能の作り物－」	4,690人
	9/21～12/8(68日間)	「高島屋コレクション展－華麗なる能装束－」	10,076人
	1/26～3/9(37日間)	「国立能楽堂収蔵資料展」	3,856人
	合 計(186日間)		23,212人
文楽劇場 資料展示室	4/7～5/12(35日間)	企画展示「糸操りの世界」 同時開催「文楽入門」	11,456人
	6/6～8/9(63日間)	常設展示「文楽入門Ⅰ」 企画コーナー：木下順二の世界	19,708人
	8/18～10/13(55日間)	常設展示「文楽入門Ⅱ」 企画コーナー：祈りのかたち	5,505人
	11/3～12/8(35日間)	企画展示「吉田玉男を偲んで」 同時開催「文楽入門」	14,695人
	1/3～3/4(60日間)	常設展示「文楽入門Ⅲ」 企画コーナー：芝居絵・上演演目にちなんで	15,944人
	合 計(248日間)		67,308人
国立劇場 おきなわ 資料展示室	4/13～6/24(73日間)	「組踊の世界」	3,363人
	7/13～9/30(86日間)	「琉球舞踊の世界」	1,312人
	10/12～12/25(75日間)	「御座楽の世界」	1,594人
	1/18～3/24(67日間)	「歌舞伎入門」	1,488人
	合 計(301日間)		7,757人

③ 目録等刊行物の実績

伝統芸能情報館：展示目録「名古屋の芸能」「歌舞伎入門」「伝統芸能の顔」「能楽と歌舞伎」

演芸場：展示目録「演芸の風景」「落語の歴史」「演芸資料展」「押絵羽子板の世界」

能楽堂：展示関連図録「高島屋コレクション展」、目録「能楽入門Ⅰ－江戸庶民と能－」

「能楽入門Ⅱ－能の作り物－」

国立劇場おきなわ：展示関連パンフレット「組踊の展開 田里朝直」、展示解説「歌舞伎年表」

④ 外部専門家等の意見及びアンケート調査

ア 外部専門家等の意見

能楽堂の展示は、資料借用のための交渉から準備、開場へ至る経緯が大変であるが、努力の成果が見えて良かった。

今後も、未公開資料や普段接する機会の少ない作品を展示公開し、研究の用に供してほしい。今後はもっと広く告知をして活動内容を知らせてほしい。

イ アンケート調査

室内にアンケート用紙を置いて、利用者に記入してもらう方法で行った。

- ・ 伝統芸能情報館展示室「伝統芸能の顔展」期間中(10/3～1/27)
回答者60人。回答者の95.0%が概ね満足と答えた(57人)。
- ・ 能楽堂資料展示室「能楽入門Ⅱ－能の作り物－展」期間中(7/4～8/19)
回答数125人。回答者の84.8%が概ね満足と答えた(106人)。
- ・ 能楽堂資料展示室「高島屋コレクション展－華麗なる能装束－」期間中(11/13～12/8)
回答数197人。回答者の86.3%が概ね満足と答えた(170人)。
- ・ 文楽劇場資料展示室(実施期間11/19～11/25)
回答数160人。回答者の91.9%が概ね満足と答えた(147人)。
- ・ 国立劇場おきなわ資料展示室(全展示期間中)
回答数337人。回答者の84.6%が概ね満足と答えた(285人)。

		<p>【特記事項】</p> <p>伝統芸能館の資料展示室は、本館3階資料展示室と統合したことに伴い、改装を行った。展示スペースは10月3日からリニューアルされ、従来よりも展示のスペースが大きく広がった。</p> <p>本館小劇場の9月文楽公演に際して、吉田玉男一周忌追善公演にちなみ「吉田玉男思い出の品々」と題したロビー展示を実施した。</p> <p>能楽堂では、9月19日(水)に、能楽堂大講義室に138人の受講者を集め、「能楽特別講座」を開催した。</p> <p>長崎巖共立女子大学教授による「能装束の歴史と高島屋コレクション」のレクチャーの後、国立能楽堂の全施設を開放し、国立能楽堂資料展示室の第1期展示とともに、第2・3期の展示作品を能舞台やロビー等で一堂に見られる展示プレビューを行った。</p> <p>国立劇場おきなわでは、ロビー展示として「御冠船踊りと組踊」を常設展示した。また、新国立劇場開場10周年記念ポスター展を20年2月2日～11日まで、大劇場ホワイエで開催した。組踊研修生発表会にあわせて、ロビー展示を2回開催した。</p> <p>委員会における検討、アンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査事業委員会 (7月6日開催) <p>調査事業全分野にわたって、各委員から意見を聴取した。各事業について、高く評価されるとともに、事業の継続が必要であるとの意見があった。</p>	
<p>展示公開状況</p>	<p>100%以上</p> <p>70%以上 100%未満</p> <p>70%未満</p>	<p>実績21回/計画21回 (達成度100.0%)</p>	<p>A</p>
<p>(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する</p>		<p>B</p> <p>調査研究及び資料の収集・活用については、端緒にすぎたばかりなので、まだ成果が目に見えた形では充分あがっていないと思われる。</p>
<p>①現代舞台芸術に関する調査研究の実施</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>(1) 上演情報のデータベース化</p> <p>① 方針 主催公演に関する上演情報の情報検索システムへ入力し、館内の端末において一般の利用に供する。 また、出演者情報のデータ化を進める。</p> <p>② 実績 ホームページの機能・デザインの変更により、出演者などのプロフィール、公演記録写真などの情報を公開した。なお、18年度から情報センター閲覧室の情報検索端末並びに新国立劇場1階待合せコーナーの情報端末から新国立劇場ホームページを閲覧可能としている。</p> <p>(内 訳)</p> <p>ア 公演情報：32件</p> <ul style="list-style-type: none"> オペラ：13件 「トゥーランドット」、「リゴレット」、「ドン・ジョヴァンニ」、「蝶々夫人」、「こうもり」、「ラインの黄金」、「ワルキューレ」、「ムツェンスク郡のマクベス夫人」、「チェネントラ」、「修禅寺物語」、「ペレアスとメリザンド」、こどものためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険～指環をとりもどせ!」、高校生のためのオペラ鑑賞教室「椿姫」 舞踊：10件 「デヴィット・ピントレーのアラジン」、「シンデレラ」、「ライモンダ」、「Ballet the Chic-バラシン/サーブ/ドゥアト」、「白鳥の湖」、「ローランプティのコッペリア」、「DANCE EXHIBITION 2008-Dance meets Music」、「古楽とストラヴィンスキー」、「森山開次作品集(仮題)」、「金森穰 Noism09」 演劇：9件 「近代能楽集『綾の鼓』『弱法師』」、「山の巨人たち」、「イリュージョン・コミック舞台は夢-」、シリーズ・同時代【海外編】Vol.1「昔の女(ドイツ)」、シリーズ・同時代【海外編】Vol.2「シュート・ザ・クロウ(アイルランド)」、シリーズ・同時代【海外編】Vol.3「タトゥー(ドイツ)」、「夏の夜の夢」、現代能楽集「鶴」 <p>イ 出演者情報：1,675件 オペラ：890件、舞踊：515件、演劇：270件</p> <p>(2) 上演作品に関する公演資料の収集整理</p> <p>① 方針 国内外の現代舞台芸術上演に関する公演資料(上演チラシ、ポスター、パンフレット等)を収集整理する。</p> <p>② 実績 チラシ等：316件(オペラ：78件、舞踊：76件、演劇：152件、その他：10件) ポスター：577件(国内上演ポスター：552件、海外上演ポスター：25件) 公演プログラム(筋書、番組)：301件(オペラ：122件、舞踊：55件、演劇：124件)</p> <p>(3) 団体・劇場との資料交換</p> <p>① 方針 国内外の現代舞台芸術団体及び劇場と公演関係資料等の交換を行う。</p> <p>② 実績 今年度は、10周年記念誌及びDVDと新国立劇場の主催公演関係資料(プログラム、チラシ、年報、公演カレンダー等)を、国内外の現代舞台芸術団体及び劇場へ送付し、先方の公演関係資料を新国立劇場宛送付してもらった。 送付団体数：335件(国内芸術団体106件、国内劇場117件、海外劇場112件)</p>	<p>B</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間団体や研究機関などと連携して調査研究事業がまさに現代舞台芸術分野におけるセンター的役割を担っていくことを期待する。 新国立劇場で上演されたオペラ、ダンス、演劇などの映像をDVD化して市販する処置を進展させることを望む。

		<p>受領団体数：215件（国内芸術団体55件、国内劇場54件、海外劇場106件）</p> <p>(4) 日本近代の舞踊上演に関する資料の調査、報告書の作成</p> <p>① 方針 日本近代の舞踊上演に関する資料の調査を実施する。調査結果については、報告書を作成の上、研究者等に配布する。</p> <p>② 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本近代の舞踊上演に関する資料の調査、報告書作成 「日本洋舞史年表Ⅴ 1981～1983」の刊行 研究者・研究団体等に配布（310件） 前年度に刊行した「日本洋舞史年表Ⅳ-1 1976-1978」「同 Ⅳ-2 1979-1980」をホームページに掲載し、広く一般に公開した。 <p>(5) 海外劇場調査・オペラハウスデータベースの整備</p> <p>① 方針 海外劇場の現状に関する調査等を実施するとともにオペラハウスデータベースの整備を進める。</p> <p>② 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外劇場調査 新国立劇場開場10周年を迎え、今後、新国立劇場の過去の公演データ・資料をアーカイブにする予定があり、海外の主要な劇場がどのように保存・管理しているかを主にアンケートの形式で調査した。 データベース化 オペラハウスデータベースについては、他の機関で、より広範で緻密なデータ作成が実施され、かつ公開されていること、また、情報端末が新国立劇場のホームページに接続したので、そこからリンクする海外の主要な歌劇場のホームページへの接続が可能なることから、データベースの作成を見直すこととした。 	
<p>②現代舞台芸術に関する資料の収集及び活用</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>(6) 資料の収集、閲覧</p> <p>① 方針 オペラ・舞踊・演劇に関する図書、雑誌、台本、視聴覚資料等を収集、閲覧に供する。</p> <p>② 実績</p> <p>ア 収集 新国立劇場主催公演に関する上演資料のほか、我が国の現代舞台芸術に関する資料を収集した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書：9,066冊（単行本7,073冊、逐次刊行物940冊、公演・演出台本752冊、公演プログラム（筋書、番組）301冊） 市販映像：158件 <p>イ 閲覧 図書については、新国立劇場情報センター閲覧室で閲覧に供している。映像は、情報センター内ビデオブース、ビデオシアターで視聴に供しているが、舞台美術センター資料館（千葉県銚子市）内AVコーナーでも同様に広く一般の視聴に供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報センター閲覧室利用者数：32,837人（開室日数296日/年） 図書貸出件数：853件（1,756冊） ビデオブース利用者数：4,541人 ビデオシアター利用者数：3,862人 舞台美術センター資料館利用者数：1,266人（開室日数294日/年） AVコーナー利用者数：403人 <p>ウ 資料の貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> 長崎歴史文化博物館への貸出 「マダム・バタフライフェスティバル」（11月3日～19日、主催：長崎市・社団法人長崎国際コンベンション協会、「マダム・バタフライ国際コンクールin長崎」実行委員会）関連イベントとし、長崎歴史文化博物館企画展示室で開催された展示「オペラ マダム・バタフライ展～その誕生に迫る～」(11月3日～18日、協力：新国立劇場・財団法人東京二期会)にオペラ「蝶々夫人」の舞台衣裳（マネキン人形とも）、「蝶々夫人」初演当時のオペラグラス、舞台衣裳のデザイン画等所蔵品を貸出し、展示に協力した。 <p>(7) 主催公演記録映像等のデータベース化</p> <p>① 方針 現代舞台芸術情報システムにより、主催公演記録映像等各種情報をデータベース化し、劇場施設内においてコンピュータ端末を用いて一般の視聴利用に供する。</p> <p>② 実績</p> <p>ア データ化件数：62件 (内 訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> オペラ：26件 「フラ・ディアヴォロ」(Aキャスト)、「さまよえるオランダ人」、「蝶々夫人」、「さまよえるオランダ人(字幕入り)」、「運命の力」、「蝶々夫人(字幕入り)」、「西部の娘」、「ばらの騎士」、「西部の娘(字幕入り)」、「ファルスタッフ」、こどものためのオペラ劇場「スペース・トゥーランドット」(Aキャスト)、こどものためのオペラ劇場「スペース・トゥーランドット」(Bキャスト)、高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」、「ファルスタッフ(字幕入り)」、高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人(字幕入り)」、「フィガロの結婚」、「タンホイザー」、「タンホイザー(字幕入り)」、「カルメン」、「はじめてのオペラ カルメン」、「フィガロの結婚(字幕入り)」、「カルメン(字幕入り)」、「はじめてのオペラ カルメン(字幕入り)」、「ラ・ボエーム」、地域招聘公演「ナクソス島のアリアドネ」、「サロメ」 舞踊：15件 「オルフェオとエウリディーチェbyドミニク・ウォルシュ」(Aキャスト)、「オルフェオとエウリディーチェbyドミ 	<p>B</p>

ニク・ウォルシュ」(Bキャスト)、「オルフェオとエウリディーチェbyドミニク・ウォルシュ」(Cキャスト)、「コッペリア」(Aキャスト)、「コッペリア」(Bキャスト)、「コッペリア」(Cキャスト)、「Life Casting」、「消息 Substance」、「牧阿佐美の椿姫」(Aキャスト)、「牧阿佐美の椿姫」(Bキャスト)、「牧阿佐美の椿姫」(Cキャスト)、「牧阿佐美の椿姫」(Dキャスト)、「ミロク MIROKU」、「くるみ割り人形」、「ダンス名作展」

・ 演劇：9件

「コペンハーゲン」、「CLEANSKINS」、「夏の夜の夢」、「下周村」、「氷屋来たる」、「アルゴス坂の白い家」、「下周村(字幕入り)」、「たとえば野に咲く花のように」、「異人の唄」

・ その他：12件

バレエ研究所第3期生修了公演(Aキャスト)、バレエ研究所第3期生修了公演(Bキャスト)、演劇研究所「三文オペラ」、オペラ研究所「アルバート・ヘリング」(Aキャスト)、オペラ研究所「アルバート・ヘリング」(Bキャスト)、オペラ研究所7月リサイタル、バレエ研究所「第4期生(1年次)公開レッスン」、新国立劇場開場10周年記念 オペラ・バレエガラ(Aキャスト)、新国立劇場開場10周年記念 オペラ・バレエガラ(Bキャスト)、オペラ研究所11月リサイタル(試演会)、ニューイヤー オペラパレス ガラ、演劇研究所第1期生修了公演「リハーサルルーム」

イ 視聴

映像資料は、情報センター内ビデオブースやビデオシアターで視聴に供するとともに、舞台美術センター内AVコーナーでも同様に広く一般の視聴に供した。

・ 情報センター ビデオブース利用者数：4,541人(開室日数296日)

ビデオシアター利用者数：3,862人(開室日数296日)

・ 舞台美術センター AVコーナー利用者数：403人(開室日数294日)

ウ 資料紹介

・ 「日本洋舞史年表IV-1 1976-1978」、同「IV-2 1979-1980」

18年度に発行した上記刊行物の内容をデータ化した。

・ 現代演劇ポスターの撮影・データ化

新国立劇場が収集している2006年及び2007年の演劇ポスターを画像データ化した。

・ 「オペラ入門」

19年度に実施した現代舞台芸術入門講座「オペラ講座」を基に作成した。

【特記事項】

広報・宣伝や情報センターにおける視聴で使用する開場からの主催公演ダイジェスト版映像を完成させた。

(8) 展示

① 方針

収集した図書、衣裳、舞台装置等の資料を適切に保管するとともに、展示公開する。また、展示についての目録を刊行する。

② 実績

現代舞台芸術に対する一般の理解を促進するため、収集した資料(主催公演に関する衣裳・舞台装置等の舞台美術等)及び関係資料を舞台美術センター資料館で展示公開した。また、今年度が新国立劇場開場10周年に当たることから、所蔵している演劇ポスターを素材とした巡回展示に加えて新国立劇場開場10周年記念巡回展を実施し、現代舞台芸術の理解促進と併せて新国立劇場の認知度向上の一助とした。

新国立劇場では中劇場ホワイエ、2・3階ギャラリーを中心に新国立劇場開場10周年記念展示「祝祭空間10th Anniversary」を実施した。

ア 舞台美術センターにおける展示

区分	期間	内容	来場者数
常設展	4/1~3/31	「オペラハウスの感動」	1,266人
	4/1~10/21	「現代演劇ポスター展2005」※18年度から引き続き展示	※568人
	11/3~3/31	「現代演劇ポスター展2006」	※698人
企画展	4/1~6/24	「新国立劇場のモーツァルト」※18年度から引き続き展示	※239人
	11/3~3/31	「新国立劇場開場10周年記念展示 祝祭空間10th Anniversary」	※698人

※ 来場者数のうち、印のものは常設展「オペラハウスの感動」の来場者の内数。

イ 新国立劇場(ロビー)における展示

企画展「新国立劇場開場10周年記念展示 祝祭空間10th Anniversary」(9/20~3/31)

ウ 巡回展

会場	期間	内容	来場者数
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール(メインロビー)	7/28~8/5 (9日間)	「現代演劇ポスター展-新国立劇場所蔵品による-」	2,970人
名護市民会館(2階展示ギャラリー)	2/1~2/11 (11日間)	「現代演劇ポスター展-新国立劇場所蔵品による-」	—
国立劇場おきなわ(大劇場ホワイエ)	2/2~2/11 (10日間)	「新国立劇場開場10周年記念ポスター展」	1,212人
彩の国さいたま芸術劇場(ギャラリー・情報プラザ)	2/19~3/31 (41日間)	「新国立劇場開場10周年記念ポスター展」	—
	※4/13まで継続	「現代演劇ポスター展-新国立劇場所蔵品による-」	—

エ その他展示(資料貸与)

長崎歴史文化博物館企画展示室「オペラ マダム・バタフライ展~その誕生に迫る~」(11/3~11/19)

	展示公開状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績4回／計画4回（達成度100.0%）	A																																																																																																							
5. 劇場施設の利用	劇場施設の貸与等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する </div>			<p>1. 貸与実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">貸与日数</th> <th colspan="2">利用率</th> <th>(参考)</th> </tr> <tr> <th>実 績</th> <th>目 標</th> <th>実 績</th> <th>目 標</th> <th>劇場稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本館大劇場</td> <td>104日</td> <td>104日</td> <td>86%</td> <td>85%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>本館小劇場</td> <td>161日</td> <td>159日</td> <td>88%</td> <td>85%</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>演芸場</td> <td>111日</td> <td>77日</td> <td>92%</td> <td>90%</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>能楽堂</td> <td>193日</td> <td>186日</td> <td>87%</td> <td>85%</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>文楽劇場</td> <td>112日</td> <td>125日</td> <td>81%</td> <td>80%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>文楽劇場小ホール</td> <td>105日</td> <td>102日</td> <td>64%</td> <td>60%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>786日</td> <td>753日</td> <td>83%</td> <td>80%</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>国立劇場おきなわ大劇場</td> <td>64日</td> <td>75日</td> <td>53%</td> <td>60%</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>国立劇場おきなわ小劇場</td> <td>53日</td> <td>35日</td> <td>46%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>117日</td> <td>110日</td> <td>50%</td> <td>46%</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>新国立劇場オペラ劇場</td> <td>48日</td> <td>45日</td> <td>100%</td> <td>85%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>新国立劇場中劇場</td> <td>114日</td> <td>109日</td> <td>96%</td> <td>80%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>新国立劇場小劇場</td> <td>113日</td> <td>109日</td> <td>70%</td> <td>65%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>275日</td> <td>263日</td> <td>84%</td> <td>74%</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,178日</td> <td>1,126日</td> <td>78%</td> <td>73%</td> <td>89%</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 利用情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備等の概要及び貸与手続き等を振興会HPに掲載した。 空き日情報、貸劇場公演情報を振興会HPに掲載した。 利用団体へ案内を送付し、劇場利用パンフレットを作成・配布して広報に努めた。 過去の利用者への空き日等の情報の提供を行った。 文楽劇場では文楽公演新聞広告に貸劇場の案内を掲載した。 国立劇場おきなわでは、主催公演チラシ、国立劇場おきなわ友の会報誌等により、県民・会員等への周知を図った。 20年度・21年度の利用申込みの受付を実施した。また、施設の空き情報をキャンセル待ちの利用希望者に恒常的に提供した。 <p>3. 関連サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 入場券の作成及び販売（新国立劇場を除く） 場内のアナウンス及び案内業務 舞台機構操作、照明操作、音響操作 備品の貸出 稽古場施設の貸出 舞台関係の技術協力 本館：照明100件、音響25件、美術4件、舞台監督等3件、その他（つけ打ち・狂言補助等）35件 文楽劇場：照明16件、舞台監督等4件 <p>4. 利用料金に関する調査 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等について、近隣類似施設への調査票郵送、FAX・電話による問合せ及び各施設のHP閲覧により適宜調査を行った。</p> <p>5. アンケート調査 利用者に対しアンケート調査を実施した。回答数：本館・演芸場92件、能楽堂60件、文楽劇場38件、国立劇場おきなわ17件、新国立劇場43件。 (結果の概要) 舞台運営全般及び場内案内等については概ね好評であった。HPへの公演情報の掲載については価値があるという回答が多く見られたが、一方で高齢の利用者の多くはHPやメールへの関心は低かった。メールを利用しての連絡については、高齢の利用者からは懐疑的な意見が多く、メールを活用している利用者からは今後も積極的に利用したいとの回答が多く、意見が二分された。新国立劇場においては、受付時期の早期化を求める声があった。</p> <p>6. 利便性の向上のための検討等</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用システムを導入し、顧客情報管理などデータの出力機能により、業務を効率的に行う体制を構築。また、本稼働に向け顧客情報の遡及入力及び確認、各機能の細部にわたる作動確認及び調整を実施した。 21年度の小劇場申込抽選会では会場にシステム搭載のパソコン等を設置し、実際の流れと並行して、受付から抽選、内定通知書発行までを試行し、概ね順調に実施することができた。 能楽堂においては、利用者への能楽堂との相違について調査し、より使い勝手の良い施設を目指した。 国立劇場おきなわでは、20年度の稼働に向けて施設使用システムを使用したデータ入力を行い、従来の業務処理との比較検証作業を実施した。 	区 分	貸与日数		利用率		(参考)	実 績	目 標	実 績	目 標	劇場稼働率	本館大劇場	104日	104日	86%	85%	94%	本館小劇場	161日	159日	88%	85%	93%	演芸場	111日	77日	92%	90%	97%	能楽堂	193日	186日	87%	85%	91%	文楽劇場	112日	125日	81%	80%	90%	文楽劇場小ホール	105日	102日	64%	60%	75%	小 計	786日	753日	83%	80%	91%	国立劇場おきなわ大劇場	64日	75日	53%	60%	81%	国立劇場おきなわ小劇場	53日	35日	46%	30%	60%	小 計	117日	110日	50%	46%	73%	新国立劇場オペラ劇場	48日	45日	100%	85%	100%	新国立劇場中劇場	114日	109日	96%	80%	98%	新国立劇場小劇場	113日	109日	70%	65%	85%	小 計	275日	263日	84%	74%	89%	合 計	1,178日	1,126日	78%	73%	89%	B	B	国立劇場、新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、おおむね一定の成果があがっているものと認められる。 ただし、新国立劇場オペラ劇場は貸し出し日数について前年度より大幅に実績を上げているが、年間48日というのは、他の大劇場と比較すると少ないため、一層の努力の必要がある。 【より良い事業とするための意見】 オペラ劇場の稼働率が100%とあるが、年間の自主公演の数を鑑みると、リハーサルや仕込みについて、より合理的に行われるよう検証することが望まれる。
区 分	貸与日数		利用率		(参考)																																																																																																								
	実 績	目 標	実 績	目 標	劇場稼働率																																																																																																								
本館大劇場	104日	104日	86%	85%	94%																																																																																																								
本館小劇場	161日	159日	88%	85%	93%																																																																																																								
演芸場	111日	77日	92%	90%	97%																																																																																																								
能楽堂	193日	186日	87%	85%	91%																																																																																																								
文楽劇場	112日	125日	81%	80%	90%																																																																																																								
文楽劇場小ホール	105日	102日	64%	60%	75%																																																																																																								
小 計	786日	753日	83%	80%	91%																																																																																																								
国立劇場おきなわ大劇場	64日	75日	53%	60%	81%																																																																																																								
国立劇場おきなわ小劇場	53日	35日	46%	30%	60%																																																																																																								
小 計	117日	110日	50%	46%	73%																																																																																																								
新国立劇場オペラ劇場	48日	45日	100%	85%	100%																																																																																																								
新国立劇場中劇場	114日	109日	96%	80%	98%																																																																																																								
新国立劇場小劇場	113日	109日	70%	65%	85%																																																																																																								
小 計	275日	263日	84%	74%	89%																																																																																																								
合 計	1,178日	1,126日	78%	73%	89%																																																																																																								
	劇場施設の貸与状況	73%以上	51%以上 73%未満	51%未満	実績78%／目標73%（達成度106.8%）	A																																																																																																							

6. 附帯する業務	(1) 教育普及事業の実施	振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する	<p>1. 講座等の実施</p> <p>(1) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する理解の促進と普及を図るための講座等</p> <table border="1" data-bbox="1113 231 2062 619"> <thead> <tr> <th>名称(会場)</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> <th>有意義との回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>伝統芸能サロン(本館)</td><td>7回</td><td>594人</td><td>85.8%</td></tr> <tr><td>公演記録鑑賞会(本館)</td><td>12回</td><td>1,020人</td><td>94.7%</td></tr> <tr><td>能楽鑑賞講座(能楽堂)</td><td>12回</td><td>1,934人</td><td>92.6%</td></tr> <tr><td>能楽鑑賞特別講座(能楽堂)</td><td>1回</td><td>138人</td><td>92.1%</td></tr> <tr><td>公演記録鑑賞会(文楽劇場)</td><td>12回</td><td>1,820人</td><td>92.2%</td></tr> <tr><td>公演記録鑑賞会(国立劇場おきなわ)</td><td>4回</td><td>719人</td><td>91.6%</td></tr> <tr><td>オペラを楽しむ集い「オペラdeクリスマス」(舞台美術センター)</td><td>1回</td><td>343人</td><td>97.1%</td></tr> <tr><td>DVD現代舞台芸術鑑賞会(舞台美術センター)</td><td>12回</td><td>92人</td><td>—</td></tr> <tr><td>DVD現代舞台芸術鑑賞会(新国立劇場情報センター)</td><td>4回</td><td>50人</td><td>—</td></tr> <tr><td>現代舞台芸術入門講座(新国立劇場情報センター)</td><td>3回</td><td>78人</td><td>94.7%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>68回</td><td>6,788人</td><td>92.3%</td></tr> <tr><td>計画・目標</td><td>67回</td><td>5,900人</td><td>70%以上</td></tr> </tbody> </table> <p>【特記事項】 東京オペラシティとの共催で執り行う「アーツシャワー」の開催にあわせ「ビデオでデビュー舞台鑑賞！」と題して、情報センターのビデオシアターを開放して上映会を行った(7/28~7/30、来場者2,561人)。能楽鑑賞講座は、会場の定員を超える参加希望者があるため、別室を利用してモニターによる聴講を実施した。 能楽鑑賞特別講座は、特別展示「高島屋コレクション展」にあわせ、オープン前の9月19日(水)に「能装束の歴史と高島屋コレクション」と題し、長崎巖共立女子大学教授によるレクチャーと、資料展示の第1期とともに、能舞台やロビー等を開放し第2・3期の能装束60作品を一堂に内覧する展示レビューを開催した。 国立劇場おきなわの公演記録鑑賞会は、19年度はすべて本館所蔵の映像資料を上映した。「組踊花売の縁と琉球歌劇」(6月2日)、「琉球歌劇辺土名ハンドー小」(9月4日)において、沖縄方言の標準語訳を字幕表示した。</p> <p>(2) 公演内容に対する理解の促進を図るための講座等</p> <table border="1" data-bbox="1113 976 2062 1228"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>「舞の会」鑑賞講座(本館小劇場11月舞踊公演)</td><td>1回</td><td>120人</td></tr> <tr><td>文楽劇場ブレ講座(5月舞踊・邦楽公演「琵琶ブレ講座」、9月特別企画公演「祈りのかたちブレ講座」)</td><td>2回</td><td>238人</td></tr> <tr><td>オペラトーク(「ばらの騎士」「タンホイザー」「カルメン」ほか)</td><td>5回</td><td>1,004人</td></tr> <tr><td>シアタートーク(「CLEAN SKINS」「氷屋来たる」「アルゴス坂の白い家」ほか)</td><td>6回</td><td>1,080人</td></tr> <tr><td>オペラブローグ「ファルスタッフ」</td><td>1回</td><td>35人</td></tr> <tr><td>新国立劇場バレエ団春の夕べ〜ワシントンD.C.公演報告会および朝日舞台芸術賞受賞記念「椿姫」ビデオ上映会〜</td><td>1回</td><td>242人</td></tr> </tbody> </table> <p>2. デジタルコンテンツの作成等</p> <p>(1) デジタルコンテンツの作成 収集した図書・資料等を活用し、デジタル技術により教育普及を目的としたコンテンツを次のとおり作成した。 ・ 舞台芸術教材「能楽編 その一」 ・ 舞台芸術教材「民俗芸能編 その一」 ・ 舞台芸術教材「歌舞伎事典」 19年度は、舞台芸術教材としてははじめてとなる「能楽編」と「民俗芸能編」をスタートさせた。また、文化デジタルライブラリーのトップページを経由せずに入ってくる利用者の多い「歌舞伎事典」について、利用者を文化デジタルライブラリーへ誘導するように設計し直し、これまで錦絵やプロマイドが主体であった画像資料を舞台写真や動画に差し替え、内容の一層の充実を図った。</p> <p>(2) インターネットによる配信 文化デジタルライブラリーとして、インターネットを通じて一般に配信した。 アクセス件数：285,935件(目標170,000件) 歌舞伎や文楽の動画や静止画の一般への配信が可能となったため、「歌舞伎編」(その一〜その三)など初期に制作した舞台芸術教材コンテンツの視聴制限を解除し、ユーザが事前登録することなく、一般からでもすべてのコンテンツが閲覧できるようにした。</p> <p>【特記事項】 関係各位、特に著作隣接権を管理する団体の理解を得られたので、初期に制作した舞台芸術教材コンテンツ「歌舞伎編」(その一〜その三)、「演目解説 菅原伝授手習鑑」、「演目解説 義経千本桜」、「演目解説 仮名手本忠臣蔵」の視聴制限を解除した。</p>	名称(会場)	回数	参加者数	有意義との回答	伝統芸能サロン(本館)	7回	594人	85.8%	公演記録鑑賞会(本館)	12回	1,020人	94.7%	能楽鑑賞講座(能楽堂)	12回	1,934人	92.6%	能楽鑑賞特別講座(能楽堂)	1回	138人	92.1%	公演記録鑑賞会(文楽劇場)	12回	1,820人	92.2%	公演記録鑑賞会(国立劇場おきなわ)	4回	719人	91.6%	オペラを楽しむ集い「オペラdeクリスマス」(舞台美術センター)	1回	343人	97.1%	DVD現代舞台芸術鑑賞会(舞台美術センター)	12回	92人	—	DVD現代舞台芸術鑑賞会(新国立劇場情報センター)	4回	50人	—	現代舞台芸術入門講座(新国立劇場情報センター)	3回	78人	94.7%	合計	68回	6,788人	92.3%	計画・目標	67回	5,900人	70%以上	名称	回数	参加者数	「舞の会」鑑賞講座(本館小劇場11月舞踊公演)	1回	120人	文楽劇場ブレ講座(5月舞踊・邦楽公演「琵琶ブレ講座」、9月特別企画公演「祈りのかたちブレ講座」)	2回	238人	オペラトーク(「ばらの騎士」「タンホイザー」「カルメン」ほか)	5回	1,004人	シアタートーク(「CLEAN SKINS」「氷屋来たる」「アルゴス坂の白い家」ほか)	6回	1,080人	オペラブローグ「ファルスタッフ」	1回	35人	新国立劇場バレエ団春の夕べ〜ワシントンD.C.公演報告会および朝日舞台芸術賞受賞記念「椿姫」ビデオ上映会〜	1回	242人	A A	国立劇場、新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果があがっているものと認められる。
名称(会場)	回数	参加者数	有意義との回答																																																																											
伝統芸能サロン(本館)	7回	594人	85.8%																																																																											
公演記録鑑賞会(本館)	12回	1,020人	94.7%																																																																											
能楽鑑賞講座(能楽堂)	12回	1,934人	92.6%																																																																											
能楽鑑賞特別講座(能楽堂)	1回	138人	92.1%																																																																											
公演記録鑑賞会(文楽劇場)	12回	1,820人	92.2%																																																																											
公演記録鑑賞会(国立劇場おきなわ)	4回	719人	91.6%																																																																											
オペラを楽しむ集い「オペラdeクリスマス」(舞台美術センター)	1回	343人	97.1%																																																																											
DVD現代舞台芸術鑑賞会(舞台美術センター)	12回	92人	—																																																																											
DVD現代舞台芸術鑑賞会(新国立劇場情報センター)	4回	50人	—																																																																											
現代舞台芸術入門講座(新国立劇場情報センター)	3回	78人	94.7%																																																																											
合計	68回	6,788人	92.3%																																																																											
計画・目標	67回	5,900人	70%以上																																																																											
名称	回数	参加者数																																																																												
「舞の会」鑑賞講座(本館小劇場11月舞踊公演)	1回	120人																																																																												
文楽劇場ブレ講座(5月舞踊・邦楽公演「琵琶ブレ講座」、9月特別企画公演「祈りのかたちブレ講座」)	2回	238人																																																																												
オペラトーク(「ばらの騎士」「タンホイザー」「カルメン」ほか)	5回	1,004人																																																																												
シアタートーク(「CLEAN SKINS」「氷屋来たる」「アルゴス坂の白い家」ほか)	6回	1,080人																																																																												
オペラブローグ「ファルスタッフ」	1回	35人																																																																												
新国立劇場バレエ団春の夕べ〜ワシントンD.C.公演報告会および朝日舞台芸術賞受賞記念「椿姫」ビデオ上映会〜	1回	242人																																																																												
講座等の実施状況		67回以上	46回以上 67回未満	46回未満	実績68回/計画67回(達成度101.5%)	A																																																																								

講座等の参加者数	5,900人以上	4,130人以上 5,900人未満	4,130人未満	実績6,788人／目標5,900人（達成度115.1%）	A
講座等の参加者の満足度	70%以上	50%以上 70%未満	50%未満	実績92.3%／目標70%以上（達成度131.9%）	A
舞台芸術教材の作成状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績3件／計画3件（達成度100.0%）	A
文化デジタルライブラリーへのアクセス状況	170,000件以上	119,000件以上 170,000件未満	119,000件未満	実績285,935件／目標170,000件（達成度168.2%）	A

(2) 広報活動の充実

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 広報誌の発行・配布

- ・「日本芸術文化振興会ニュース」（毎月発行）
- ・「芸術文化振興基金 No. 22」（19年6月作成）
- ・「ステージノート」（毎月）
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要」（19年5月作成）
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧」（19年7月作成）
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会年報 平成18年度」（19年12月作成）
- ・「新国立劇場年報 平成18年度」（日本語・英語併記）（19年9月作成）
- ・「新国立劇場 1997－2007 開場10周年記念」（19年10月作成）
- ・「新国立劇場 1997－2007 開場10周年記念DVD 歌う・踊る・演じる」（19年10月作成）

2. ホームページの運用

(1) アクセス件数・情報更新に要する日数

区 分	アクセス数	情報更新日数
日本芸術文化振興会ホームページ	1,399,726件	1.7日
新国立劇場ホームページ	817,508件	1.7日
合計・平均	2,217,234件	1.7日
目 標	1,400,000件	7.0日

(2) ホームページの主な充実内容

① 振興会ホームページ

引き続きホームページの更新作業を内部で処理し、公演情報をはじめとするより広範な情報の追加・更新等について柔軟かつ迅速に実施した。

- ・自主公演については、英語版ホームページの公演情報を充実させることで、海外からの利用者への広報を強化した。
- ・プライバシーポリシー及びサイトポリシーを掲載し、ホームページの運用についての情報を提供することで、利用者が安心してホームページを利用できるようにした。
- ・託児室の案内を分かりやすく改善し、子ども連れの利用者の来場の促進を図った。
- ・日英2ヶ国語表記によるインターネットチケット販売を開始した（日本語版は9月、英語版は3月に運用開始）。

② 新国立劇場ホームページ

- ・ホームページの利便性を高めるために、トップページ及び全体のデザイン・構成を一新した。
- ・ページの記述形式をインターネット検索により対応した構造とした。
- ・掲載情報（ニュース、公演案内、公演記録、カレンダー）の即時性を高めるためのシステムをさらに改良し、対応項目を増やし、更新情報の公開がより迅速にしかも安定して行えるようにした。
- ・トップページの写真を、公演やイベントに関係あるものに適宜変更するとともに、フラッシュの使用や再演演目の紹介に過去の公演記録映像を配信する等、より視聴覚に訴えるデザインとした。

(3) メールマガジンの配信

① 国立劇場

メールマガジンの配信（月2回）が定着し、またインターネットチケット販売とメールマガジンの購読が会員情報管理において連動したことにより利便性が増し、相乗効果によって登録者数が増加した（登録会員数8,771人、3月末現在）。

② 新国立劇場

劇場愛好者に対し、公演情報を原則第2・4木曜日に配信する「eメールクラブ」を実施した（登録会員数4,484人、3月末現在）。また、25歳以下を対象に公演初日2週間前に空席がある場合、特別料金で観劇できる情報をメールで案内する「アカデミックプラン」を実施した（登録者数4,009人、3月末現在）。

【特記事項】

メールマガジンに購読者との相互関係強化の方策として、伝統芸能に関するクイズを組み入れた。国立劇場おきなわでは、ホームページのアクセス件数が151,309件あった。また、月1回メールマガジンを配信しており、登録者数は594人である（3月末現在）。「新国立劇場2008/2009シーズンラインアップ発表会」を20年1月17日に芸術監督臨席のもと執り行った。

A

日本芸術文化振興会の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果があがっているものと認められる。

決定からホームページへの掲載まで期間	7日未満	7日以上 9日未満	9日以上	実績1.7日／目標7日以内	A	
ホームページへのアクセス件数	140万件以上	98万件以上 140万件未満	98万件未満	実績2,217,234件／目標1,400,000件（達成度158.4%）	A	
(3) 交流事業の実施状況	振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する			<p>1. 交流公演の実施等</p> <p>(1) 「日本伝統芸能（舞踊と邦楽）中国公演」（文化庁共催国際文化交流・協力推進事業） 12月12日、1回、海淀劇院（北京） 同日昼に中国人民大学で日本語専攻の学生を対象とした邦楽・舞踊のレクチャーデモンストレーションを実施</p> <p>(2) 「アジア太平洋地域の芸能 インドの芸能～舞踊劇カタカリ～」(8月企画公演) 8月4日、1回、国立劇場おきなわ大劇場</p> <p>(3) 外務省主催在外公館文化事業 国立劇場おきなわインド・タイ派遣公演「琉球舞踊～美ら島の息吹～」 11月18日：タイ文化センター（バンコク）、11月21日：シュリラムセンター（デリー）</p> <p>(4) 新国立劇場バレエ団ワシントン公演「ミックス・プログラム」「ライモンダ」 ワシントンD.C.のケネディセンターが開催するフェスティバル“JAPAN! CULTURE+HYPER CULTURE”からの招聘を受け、公演を行った。 2月15日～17日：ケネディセンターオペラ劇場（アメリカ・ワシントンD.C.）</p> <p>(5) 日中共同プロジェクト公演 演劇「下周村ー花に嵐のたえもあるさ」 新国立劇場、中国国家話劇院、香港アーツフェスティバルの3者で共同制作を行った。 4月1日～8日：北京児童芸術劇場（中国・北京）、5月15日～20日：新国立劇場小劇場</p> <p>(6) 海外公演への協力（文楽） 日仏交流150周年記念・京都パリ50周年記念スペシャルイベントとして、文楽をルーヴル美術館で公演するに当たり後援協力を行った。また、文楽のアメリカ公演では、文楽劇場の文楽技術室職員が同行して対応し、公演の技術協力を行った。</p> <p>2. 19年度日独青少年指導者セミナー（芸術分野）の実施 17年度から継続して国際交流事業「日独青少年指導者セミナー」の芸術分野を、文部科学省からの受託事業として実施した。</p> <p>(1) 派遣事業 5月26日～6月8日、日本演劇関係者6名 ベルリン、ハノーファー、フランクフルト・アム・マインの3都市を中心に、児童青少年演劇フェスティバル訪問、児童青少年演劇観劇及び関係者との意見交換、学校訪問、評価会、ホームステイ等を実施した。</p> <p>(2) 受入事業 10月7日～20日、ドイツ演劇関係者7名 国立劇場、国立能楽堂の視察及び観劇、児童青少年演劇観劇及び関係者との意見交換、ドイツ団によるドイツ児童演劇事情の講義、ワークショップへの参加、学校訪問、評価会、ホームステイ等を実施した。また、地方プログラムにおいては、姫路市教育委員会の協力を得て、小学校及び地域の伝統文化教授活動の見学、地域住民との交流を実施した。</p> <p>(3) 日独勤労青年交流事業ドイツ団の受入れ 昨年度好評であったことから今年度も引き続き、日独青少年指導者セミナーの関連事業として、国立青少年教育振興機構に協力し、日独勤労青年交流事業のドイツ団を受け入れ、国立劇場見学、ドイツ勤労青年団によるプレゼンテーション及び振興会職員との意見交換を行った。（6月25日、ドイツ勤労者10名）</p> <p>3. 海外の芸能関係者等の来場、見学等</p> <p>(1) 国立劇場本館8件85人、主な来場者：中国廈門(アモイ)市文化局視察団、韓国ソウル文化財団代表理事、ほか</p> <p>(2) 能楽堂2件10人、来場者：スウェーデン王立オペラハウス衣裳担当、中国廈門市文化局視察団</p> <p>(3) 文楽劇場2件10人、来場者：中国廈門市文化局視察団、台北市政府文化局</p> <p>(4) 国立劇場おきなわ1件3人、来場者：タイ王国文化省芸術局長</p> <p>(5) 新国立劇場9件173人、主な来場者：パレルモ・マッシモ劇場関係者、上海大劇場関係者、ほか</p> <p>4. 研修事業の実施等（新国立劇場）</p> <p>(1) 韓国舞台技術者研修事業の実施 韓国舞台技術者1名（芸術の殿堂公演場運営チーム）を受け入れて、20年2月29日から3月11日までの12日間演劇公演「焼肉ドラゴン」の制作を中心に研修を行った。</p> <p>(2) 在日大使館関係者オペラ・バレエ鑑賞プログラム（新国立劇場） オペラ専門劇場を有し、質の高いオペラ・バレエを制作・上演していることを海外に発信するとともに、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与するため、国際交流基金との共同ホストにより以下のとおり実施した。</p> <p>① オペラ「ばらの騎士」6月12日、ベトナム大使をはじめ8ヶ国が出席</p> <p>② オペラ「カルメン」12月6日、タイ大使をはじめ7ヶ国が出席</p> <p>③ オペラ「アイーダ」3月26日、エジプト大使はじめ2ヶ国・1団体が出席</p> <p>(3) アジア太平洋パフォーミング・アーツ・センター連盟 (AAPPAC) への参加 舞台芸術の拠点を担うアジア太平洋地域の主要な総合芸術文化施設で構成される標記連盟（19カ国、58施設・団体が加</p>	A	日本芸術文化振興会の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果があがっているものと認められる。

		<p>盟)に平成9年以来加盟しており、年次総会に出席するとともに情報交換等の活動を行っている。19年度は、APPAC総会の実施開催月の関係で年次総会が開催されなかったが(19年3月に開催)が、6月の議長団体等の改選で、新国立劇場が常務理事団体に選出された。また、同連盟事務局による加盟機関の2006年度運営状況の統計資料作成に協力した。</p> <p>(4) オペラ・ヨーロッパへの参加 11月23日～25日にブラハ劇場(チェコ)で開催されたオペラ・ヨーロッパ会議に参加し情報交換に努めた。</p> <p>(5) その他 10月15日～18日に上海で開催された「第9回中国上海国際芸術祭」に参加し、上海大劇院等AAPPAC加盟団体はじめ、関係団体等と情報交換に努めた。</p> <p>5. 無形文化遺産保護のための集団研修の実施 財団法人ユネスコ・アジア文化センター・文化庁主催の文化遺産保護国際貢献事業(無形文化遺産パートナーシッププログラム)の一環として行われた「無形文化遺産保護のための集団研修」(1月21日～26日東京・大阪・京都)に協力し、以下のとおり研修の受入れを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日 時: 1月23日 ・ 場 所: 国立劇場本館 ・ 対 象: アジア太平洋地域13ヶ国から参加した行政官・専門家等25名 (バングラデシュ、中国、フィジー、インドネシア、イラン、モンゴル、パキスタン、フィリピン、タイ、ウズベキスタン、ベトナム、南アフリカ、ペルー) ・ 内 容: 講義「国立劇場伝統芸能の後継者養成研修について」のほか、養成研修の見学及び歌舞伎公演の鑑賞を行った(講義の内容は、デジタル映像・テキスト教材化され、財団法人ユネスコ・アジア文化センターの「無形文化遺産データベース」上で配信されている)。 	
<p>(4) 劇場利用者等へのサービスの向上</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>1. 観劇環境の整備</p> <p>(1) 施設・設備等の整備</p> <p>① バリアフリー等環境整備 高齢者、身体障害者を含めた劇場利用者に安全で優しい観劇環境の整備に努めた。 (主な整備事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険防止のため、大小劇場入口扉の開閉を改善した。(本館) ・ 災害等に備えて、観客用の非常食の備蓄を行った。(本館) ・ 能楽堂正門付近の歩行者の安全を確保するため、照明器具を増設した。(能楽堂) ・ オペラ劇場及び中劇場の大型遮音扉(計14ヶ所)について、制御装置の交換等の補修工事を行い、開場以来の経年劣化等を解消した。(新国立劇場) ・ 身体障害者補助犬法に基づき、補助犬を伴って利用できることを周知するステッカーをインフォメーションカウンターや利用者の目に付きやすい箇所に設置した。(新国立劇場) <p>② 観劇環境の快適化、案内表示の改善等 劇場内の美化や案内看板等を改善し、快適かつ利便性の高い観劇環境の整備に努めた。 (主な整備事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立劇場環境整備委員会において案内表示の改善に向けた検討を進め、本館・演芸場周辺の案内看板6ヶ所を統一的で分かりやすいデザインに更新した。夜間に視認性を高めるため電飾看板とした。(本館・演芸場) ・ インフォメーション・ディスプレイの更新により、見やすい公演情報の提供を行った。(本館・演芸場) ・ 本館大劇場の空調設備の改修を行った。(本館) ・ エスカレーターに注意書きステッカーを貼付して、利用者に対し事故防止の呼びかけを行った。(本館) ・ 来場者用傘立てを更新・増設した。(本館) ・ 観客用トイレのトイレトペーパーホルダーを取り替え、利便性の向上を図った。(本館) ・ インカムを積極的に活用して、場内案内係員間の情報伝達を改善し、サービスの向上を図った。(本館) ・ 観客用トイレに消臭・芳香剤を設置した。(演芸場) ・ 1階玄関にチラシコーナーを設置するなど1階ロビーの環境を整備した。(演芸場) ・ 観客用女性トイレの一部を和式から洋式に変更した。(文楽劇場) ・ 老朽化した冷暖房装置(冷温水発生機)を更新し、劇場ロビーや客席等の環境改善を図った。(文楽劇場) ・ 正面玄関の主要扉(自動ドア)の入口に玄関マット及び自動ドアの位置を明示した立看板を設置した。(国立劇場おきなわ) ・ 楽屋口側の屋外に喫煙所を設置した。(国立劇場おきなわ) ・ 新国立劇場外壁のコンクリート部分及び正面エントランス石壁部分が変色・欠損を来し、また長年の塵埃・風雨等による汚れも著しいため、建物竣工後初めてその補修及び高圧洗浄を実施し、美観の回復を図った。(新国立劇場) ・ 自動車での来場者と新宿駅から徒歩で来場する利用者の利便性向上のため、道路管理者と協議をし、甲州街道、青梅街道の道路標識及び新宿駅周辺の歩行者用表示板等へ案内標識を掲出した。(新国立劇場) ・ オペラ劇場におけるオペラ・バレエ公演日に合わせ、演目をイメージした大型の装飾花を「ウェルカム・フラワー」として正面エントランスに設置した。(新国立劇場) ・ 新国立劇場開場10周年に際し、正面車路等に10周年記念ロゴを付したフラッグを、また1階正面にはバナーを掲出した。また、正面エントランスからオペラ劇場プロムナードまでレッドカーペットを敷設した。オペラ劇場では柱巻き装飾をしたほか、簡易組立式バナーを各所に設置した。(新国立劇場) <p>(2) その他の対応 (主な対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国立劇場さくらまつり」の開催 親しみやすく開かれた国立劇場をアピールするため開催する「国立劇場さくらまつり」も4回目を迎え、20年の春は3月25日から4月3日の10日間開催した。昨年同様に、国立劇場前庭に床机や野点傘などを配置し、来場者へ職員が茶菓のサービス 	<p>A</p> <p>劇場利用者等へのサービスは、各般にわたり飛躍的に向上しており、日本芸術文化振興会の事業目的の達成に一層寄与しているものと認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自のインターネット販売システムをはじめとする劇場利用者等へのサービスについては、提案・回答者の構成に偏りが無いよう、様々な手段で利用者からの要望等を収集し、サービスの向上を図ることが望ましい。 ・ 事業報告書にあるアンケート調査が一律「概ね満足」という回答しか記載していないが、質問事項の妥当性を検証するとともに、劇場施設利用に関するアンケート調査の結果の記載の例のように他の評価についても積極的に取り上げる姿勢が望まれる。

を行い、紙切りや太神楽の実演などを行った。今回は、駿河桜から生まれて劇場が大切に育てた新種の桜の名前の募集を行った（応募2,083件）。日本テレビ「NNNニュースリアルタイム」、フジテレビ「とくだね」などマスコミ取材があり、来場者は19,200人であった。

- ・ 国立劇場託児室は、123回開室し330人の利用があった。（本館）
- ・ 18年度におけるセキュリティ強化の検討結果を踏まえ、本館・演芸場8ヶ所にICカードリーダーによる施錠設備を設置した。20年度から運用を開始する。（本館・演芸場）
- ・ 東京オペラシティと共同で「アーツシャワー2007～オペラシティの夏祭り～」(7月21日～8月11日)を開催した。新国立劇場エリアでは、7月28日～8月5日の期間、スタンブラリーや情報センター・ビデオシアターでの連続上映「ビデオデビュー舞台鑑賞!」、屋台、ピンゴ大会、オペラ劇場探検ツアーなどのイベントを催し、期間中約5,000人の来場者があった。（新国立劇場）
- ・ 託児サービスとして「キッズルーム・ドレミ」を92日間開室し456人の利用があった。（新国立劇場）
- ・ 新国立劇場開場10周年に際し、劇場アテンダントの制服をファッションデザイナー森英恵からデザインアドバイスを得てリニューアルした。（新国立劇場）
- ・ オペラ劇場における終演後のクローク混雑の緩和と観客の導線確保のため、案内表示やクローク利用者とその他を分けるテーブル付きポールを設置した。

2. 外国語への対応

英語を中心に、外国語によるパンフレット等の作成、案内表示、場内放送、イヤホンガイドなどのサービスを提供し、引き続き外国人の利用環境の充実を図っている。

(主なサービス等)

- ・ 歌舞伎公演及び文楽公演（鑑賞教室は除く）について、解説書に英文解説を併載した。（本館・文楽劇場）
- ・ 舞踊・邦楽等の短期公演について英文解説リーフレットを作成し、無料配布した。（本館）
- ・ 3月歌舞伎鑑賞教室において試験的に英文解説リーフレットを作成し、無料配布した。（本館）
- ・ 4月企画公演（蛸燭能）を除く全50公演で「座席字幕システム」により日本語・英語2チャンネル方式で字幕表示を実施した（能楽堂）。
- ・ 歌舞伎公演、文楽公演15公演で英語版イヤホンガイドサービスを提供した。（本館・文楽劇場）
- ・ 英語による観劇マナー等のインフォメーションを行い、状況に合った案内放送等の充実を図った。（本館）
- ・ ビジット・ジャパン・キャンペーンの一環として国土交通省が発行する、能楽についての英文パンフレット“Invitation to NOH”に情報提供を行った。（能楽堂）
- ・ 文楽公演（鑑賞教室は除く）に際して、英語、中国語、韓国語による解説パンフレットを配布した。（文楽劇場）
- ・ 英語版・中国語版・韓国語版「劇場案内リーフレット」を配布（国立劇場おきなわ）
- ・ 一部の公演を除き、公演プログラムに英文による物語解説を掲載した。（新国立劇場）
- ・ 英語で対応できる劇場案内スタッフを配置した。（新国立劇場）
- ・ 日英2ヶ国語による「新国立劇場年報2006年度」を作成した。（新国立劇場）
- ・ 劇場施設を紹介する英文パンフレットを作成した。（新国立劇場）
- ・ 日英2ヶ国語による新国立劇場開場10周年記念誌を作成した。同時に作成した開場10周年記念DVDもインデックスを日英2ヶ国語表記にした。（新国立劇場）
- ・ 日英2ヶ国語による「日本芸術文化振興会の概要」を作成した。

3. インターネットによるチケット販売等

(1) 独自のインターネット販売システムの稼働

販売促進機能を持つ独自のインターネット販売システムの構築を行い、販売を行った。（19年9月販売開始）

- ・ 9月1日よりインターネット販売を開始（10月演芸場・定席公演の売出し）
- ・ 長期公演は、10月歌舞伎公演（9/4あぜくら会員、9/6一般）から販売開始し、短期公演は11月舞踊公演（10/12あぜくら会員、10/13一般）からインターネット販売を開始
- ・ 11月公演の売出しより能楽堂公演（10/8～9）・文楽劇場公演（10/11）の販売を開始
販売開始から20年3月公演までのチケット販売枚数の16.6%がインターネットを通じた券売であった。

(2) システムの販売促進機能の概要

- ・ チケット情報に特化した販売専用ホームページ（チケットセンターホームページ）の開設
- ・ 電話予約受付時間外の全劇場公演のインターネットでの販売
- ・ 既存会員に加え、新たにインターネット専用会員（NTJメンバー）の創設（3月末現在5,500人）
- ・ 観劇当日までの購入、引取りを実現するために自動発券機の導入
- ・ 発売日情報などを直接インターネット専用会員に送付するお知らせメール機能

4. 会員組織によるサービス

(1) あぜくら会

① 会報の発行（計画：毎月発行）

「あぜくら」を毎月25日に年12回発行した。

② 会員向け催事（計画：3回程度実施）

「あぜくらの集い」を6回実施した。参加会員数合計970人。

- ・ あぜくらの集い「映画“獅子の座”の上映とお話」（昼夜2回）
5月17日（木）、能楽堂、参加者300人（昼の部157人、夜の部143人）
お話：増田正造、茂山忠三郎（昼の部）、渡邊容之助（夜の部）
映画「獅子の座」（1953年大映、出演：長谷川一夫・田中絹代）を上映
- ・ あぜくらのタベ「世界に広がる太鼓」
8月30日（木）、演芸場、参加者280人
解説：林英哲、イワン・クリワース(Taik0z)、実演：英哲風雲の会、Taik0z

- ・ あぜくらの集い「吉田玉女 師匠吉田玉男の思い出を語る」
9月11日(火) 伝統芸能情報館、参加者120人
お話：吉田玉女、小川知子
芸能生活70周年を迎えた平成14年に吉田玉男が自ら選んだ極め付けの十二役（一部分）を公演記録より抜粋して上映
- ・ あぜくらの集い「鶴澤燕三 文楽の三味線の魅力」
12月6日(木)、伝統芸能情報館、参加者120人
鶴澤燕三が実演を交えながら、文楽三味線の世界を紹介
- ・ あぜくらの集い「竹本住大夫を迎えて」
2月12日(火)、伝統芸能情報館、参加者150人
竹本住大夫が義太夫の語りについて思い出等を語る

③ アンケート調査

会員向け催事の参加者に対し、アンケート調査を実施した（6回）。
合計：回答数921人（配布数970人、回収率94.9%）。回答者の92.4%が概ね満足と答えた（610人）。

④ 会員数

在籍者数	目標会員数	利用件数
15,989人	15,600人	80,857件

(2) 文楽友の会

① 会報の発行（計画：6回発行）

「文楽劇場友の会会報」を4月、5月、7月、9月、11月、2月に年6回発行した。

② 会員向け催事（計画：4回程度実施）

ア 「文楽のつどい」を5回開催した。参加会員数合計641人。

- ・ 4月文楽公演にちなんで（4月4日、小ホール、参加者174人）
記録映像上映「加賀見山旧錦絵」、座談（桐竹紋寿、吉田和生、吉田玉女）、4月文楽公演見どころ・聞きどころ
- ・ 文楽夏休み公演にちなんで（7月18日、小ホール、参加者133人）
講談「難波戦記」、お話「文楽の小道具」、夏休み文楽みどころ・聞きどころ
- ・ 11月文楽公演・吉田玉男一周忌追善にちなんで（10月31日、小ホール、参加者179人）
記録映像上映「吉田玉男の名舞台あれこれ」、座談（吉田玉女 ほか）、11月文楽見どころ・聞きどころ
- ・ 初春公演にちなんで（12月15日、小ホール、参加者111人）
記録映像上映「1月公演にちなんで」、対談（吉田文雀、高木浩志）、お話「1月文楽見どころ・聞きどころ」
- ・ 文楽ゆかりの地見学ツアー（3月12日、参加者44人）
東海道石部宿の町並、石部歴史民俗資料館、京都市内の六角堂見学

イ 友の会会員キャンペーンを実施。11月文楽公演の第1部・第2部ともに購入した会員へ記念品（ぼち袋）を進呈した（626人）。

③ 会員数

在籍者数	目標会員数	利用件数
7,222人	7,150人	17,836件

(3) 国立劇場おきなわ友の会

① 会報の発行（計画：4回発行）

「国立劇場おきなわ友の会会報」を6月、9月、12月、3月に年4回発行した。

② 会員向け催事（計画：2回程度実施）

ア バスツアー及び組踊公演鑑賞会の実施

10月27日、参加者49人。
貸切バスで玉城朝薫の墓など縁の地を回り、その後組踊公演を鑑賞する。

イ 2008新春講演会

1月26日、小劇場、参加者83人
組踊についてのミニ講話と登場人物による唱えの違いなど実演を交えて分かりやすく説明した（講師：大城學、実演：金城真次、仲村逸夫）。

③ 会員数

在籍者数	目標会員数	利用件数
1,009人	1,050人	1,921件

(4) クラブ・ジ・アトレ

① 会報の発行（計画：毎月発行）

新国立劇場会報誌「クラブ・ジ・アトレ」を毎月20日に年12回発行した。

② 会員向け催事

ア 新制作オペラ公演及びレパートリー作品のバレエ公演について、会員から希望を募り、抽選でゲネプロ見学に招待した。また、その感想をホームページに掲載した。（7回、220人）

イ 2007/2008シーズントーク及び2006/2007シーズンエンディングパーティーを7月31日にオペラ劇場及びハワイエで開催した（参加者：シーズントーク429人、パーティ286人）。

ウ 友の会入会キャンペーン（11/20～3/31）

セット券申込みと同時に入会するとセット券が会員価格で購入できる友の会入会キャンペーンを実施し、482人の会員を獲得した。

③ アンケート調査

ア 各公演日にアンケート調査を実施し、会員であるか否かを記載してもらう欄を設けて、公演に対する会員の反応を把握した。

イ セット券、ポイントアップ還元サービスの際には、コメントを書き込む欄を設け、意見を広く収集した。

④ 会員数

在籍者数	目標会員数	利用件数
15,612人	15,000人	80,747件

5. 公演説明会、見学会等の実施

(1) 公演説明会の実施

鑑賞団体等に対して、制作担当職員等が演目、鑑賞のポイント等を解説する公演説明会を次のとおり実施した。

文楽劇場では、観客サービスとして一部団体について、人形遣いの協力により文楽人形の仕組みや動き等を教え、観客にも文楽人形を操って体験してもらう「人形解説」を実施した。

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	136件	6,737人
能楽堂	12件	330人
文楽劇場	74件	3,752人
国立劇場おきなわ	2件	80人
新国立劇場	31件	2,963人
合計	255件	13,862人

(2) 施設見学の実施

鑑賞団体、小中学校、その他希望者の施設見学を次のとおり受け入れた。

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	81件	2,921人
能楽堂	24件	321人
文楽劇場	6件	94人
国立劇場おきなわ	85件	1,795人
新国立劇場	40件	634人
合計	236件	5,765人

※ 本館・演芸場は、一般25件191人と鑑賞団体56件2,730人の合計。

(3) バックステージツアーの実施

一般を対象としたバックステージツアーを実施した。

区分	件数	参加人数
文楽劇場	25件	720人
国立劇場おきなわ	6件	186人
新国立劇場	11件	275人
合計	42件	1,181人

※ 国立劇場おきなわでは、夏休み親子向けバックステージツアー（劇場見学及び組踊ワークショップ）を開催した（4回、参加者153人）。

※ 新国立劇場では、子供向けの「劇場探検ツアー」を実施した（5回、参加者183人）。

※ 新国立劇場の一般向けバックステージツアーは、内容の見直しを行い、新年度のリニューアルに向けて12月から3月にかけて4回試行した。

(4) ボランティアの活用

・「文楽応援団」

文楽劇場において、平成13年度発足のボランティア団体「文楽応援団」（現在団員数68人）が、文楽公演期間中に限り、文楽全般についての解説活動等を行った。19年度は、1公演1日平均で12人の解説員が392人の観客に対し解説を行った。

・国立劇場さくらまつりにおいて、来場者サービスに地元町内会の有志の協力を得た。

【特記事項】

大阪府立東住吉高校芸能文化科の生徒38人が授業の一環として、文楽三業体験学習を行った。（文楽劇場）

6. イヤホンガイド、字幕表示

(1) イヤホンガイドサービスの実施（計17公演）

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演（鑑賞教室含む）	7公演	全公演
文楽公演（鑑賞教室含む）	10公演	全公演（英語版は鑑賞教室を除く8公演）

【特記事項】

文楽鑑賞教室を除く15公演で英語版イヤホンガイドサービスの提供を行っている。

(2) 字幕表示の実施

① 実施状況（計117公演）

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演（鑑賞教室含む）	3公演	6月鑑賞教室、7月鑑賞教室、3月鑑賞教室
文楽公演（鑑賞教室含む）	10公演	全公演
舞踊・邦楽・声明・民俗芸能・特別企画公演	13公演	5月舞踊公演、8月舞踊公演、11月舞踊公演、3月舞踊公演、7月邦楽公演（邦楽へのいざない）、10月邦楽公演（女流のいま・素浄瑠璃）、1月邦楽公演、4月声明公演、9月民俗芸能公演、3月民俗芸能公演、4月舞踊・邦楽公演、9月特別企画公演（祈りのかたち）
能楽公演（鑑賞教室含む）	50公演	4月企画公演「蠟燭の灯りによる」を除く全公演
組踊等沖繩伝統芸能公演	28公演	5月企画公演（話芸）と11月企画公演（国立劇場寄席）を除く全公演
オペラ公演	12公演	オペラ10公演、地域招聘オペラ公演、高校生のためのオペラ鑑賞教室
演劇公演	1公演	日中共同制作公演「下周村一花に嵐のたえもあるさー」

② 能楽堂座席字幕装置

能楽堂では、能楽に対する理解の促進を図るとともに外国人等の利用環境の整備を図るため、能舞台の特殊な舞台構造を十分考慮し、調査研究を重ねた結果、日本で初めてのパーソナル・タイプの「座席字幕システム」を導入している。日本語表示だけでなく、海外からの観客がそれぞれの使用言語を必要なチャンネルによって最大3ヶ国語まで選択することが可能である。18年11月17日の定例公演より導入されているが、19年度においては、4月企画公演（蠟燭の灯りによる）を除くすべての自主公演で、日本語・英語2チャンネル方式で字幕表示が実施されている。なお、「夏休み親子のための能楽公演」では、解説をより平易なものとし、現代語訳を3チャンネルで表示するなど、字幕表示の本旨である舞台演技について一層の理解が得られるよう対応している。

7. 要望・苦情への対応

(1) 要望・苦情等の受付体制

- ・ 各劇場に「ご意見箱」を設置
- ・ ホームページに「ご意見欄」（日本芸術文化振興会HP）、「ご意見箱」（新国立劇場）を設置
- ・ 公演等においてアンケート調査を実施
- ・ 電話等による要望・苦情等の受付

(2) 要望・苦情等及び対応状況

① ご意見箱402件（本館78件、演芸場58件、能楽堂25件、文楽劇場227件、国立劇場おきなわ14件）

寄せられた要望・苦情に対しては、事実関係の調査を行い、サービスの向上に努めるべく職員への周知を行うとともに、可能なものについては回答した。

② ホームページの「ご意見欄」（振興会HP、144件）、「お問い合わせ」（国立劇場おきなわHP、39件）、「ご意見箱」（新国立劇場HP、213件）

寄せられた意見については、定められた連絡体制に従って関係部署間で協議等を行い、迅速な対応を図るとともに、必要に応じて回答した（「ご意見欄」への回答75件）。また、役員へ報告の上、全職員へ館内LANによる周知を行い、問題意識の共有を図るとともに事業等への反映に努めた。なお、代表的な問い合わせはホームページ「よくある質問」に掲載し、利用者の利便性の向上を図っている。

③ 主な対応事例等

- ・ ホームページへの終演予定時間の掲載
- ・ インターネットチケット販売の開始
- ・ 国立劇場楽屋入口の案内表示を分かりやすく改善（本館）
- ・ 図書閲覧室の開室時間を延長（本館）
- ・ 喫煙所の設置、正面玄関の案内表示の改善等（国立劇場おきなわ）

8. 売店、レストラン等の充実

(1) アンケート調査の実施

売店、レストラン等に関するアンケート調査を、能楽堂（9月・3月の2回実施）、文楽劇場（1月に売店・レストランで各1回実施）、新国立劇場（常時設置と公演アンケートと同時に実施）の各館において適宜実施し、ご意見箱等に寄せられた要望等とあわせ、関係者間で意見交換を行い、店側に意見の反映をお願いした。

(2) その他

- ・ お弁当チラシを共同して作成し、レストランをアピールした。（能楽堂）
- ・ 11月文楽公演にちなんで、レストランが「蓮の実弁当」を公演期間中に販売した。（文楽劇場）
- ・ カフェ・ビュッフェを公演時に営業（国立劇場おきなわ）
- ・ 新国立劇場の売店については、委託先が撤退するのを機に、他のコンサートホール等の販売調査を実施し、外部専門家の意見を取り入れながら、新規オリジナルグッズ、店舗運営や販売方法について検討を行い、20年4月のリニューアルオープンに向け、新規取引先の選定を含めた準備を行った。（新国立劇場）
- ・ 昨年度からオペラ劇場ホワイエで移動式カウンターによるグッズ等の販売をしているが、19年度は販売する品物の増加を図った。（新国立劇場）

会員数の確保	38,800人以上	27,160人以上 38,800人未満	27,160人未満	実績39,832人／目標38,800人（達成度102.7%）	A
--------	-----------	------------------------	-----------	--------------------------------	---

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定																																																																																																			
		A	B	C		段階的評定	定 性 的 評 定 等																																																																																																		
<p>収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。</p> <p>また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。</p>	<p>収入の確保、効率的な予算の執行等</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>			<p>1. 財務状況</p>																																																																																																				
		<p>※Sについては、客観的基準を事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。また、Fについても、客観的基準を事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合、その評定を付す。 【以下、全ての項目について同様】</p>			<p>(1) 予 算 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>計画額</th> <th>実績額</th> <th>増△減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">収 入</td> </tr> <tr> <td>運営費交付金</td> <td>11,482,186</td> <td>11,482,186</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td>73,870</td> <td>73,543</td> <td>△327</td> </tr> <tr> <td>施設整備費補助金</td> <td>801,393</td> <td>801,249</td> <td>△144</td> </tr> <tr> <td>公演事業収入 (注1)</td> <td>2,862,463</td> <td>3,046,427</td> <td>183,964</td> </tr> <tr> <td>公演受託事業収入 (注2)</td> <td>8,500</td> <td>55,546</td> <td>47,046</td> </tr> <tr> <td>基金運用収入</td> <td>1,839,579</td> <td>1,879,488</td> <td>39,909</td> </tr> <tr> <td>寄附金収入</td> <td>1,000</td> <td>0</td> <td>△1,000</td> </tr> <tr> <td>その他の収入 (注3)</td> <td>0</td> <td>22,445</td> <td>22,445</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17,068,991</td> <td>17,360,884</td> <td>291,893</td> </tr> <tr> <td colspan="4">支 出</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td>1,135,126</td> <td>1,112,530</td> <td>22,596</td> </tr> <tr> <td>うち人件費</td> <td>661,274</td> <td>655,949</td> <td>5,325</td> </tr> <tr> <td>うち物件費</td> <td>473,852</td> <td>456,581</td> <td>17,271</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>10,420,930</td> <td>10,798,540</td> <td>△377,610</td> </tr> <tr> <td>うち人件費 (注4)</td> <td>2,163,848</td> <td>2,256,021</td> <td>△92,173</td> </tr> <tr> <td>うち物件費 (注5)</td> <td>8,257,082</td> <td>8,542,519</td> <td>△285,437</td> </tr> <tr> <td>雑損失</td> <td>0</td> <td>200</td> <td>△200</td> </tr> <tr> <td>施設整備費</td> <td>801,393</td> <td>801,249</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>公演事業費 (注6)</td> <td>2,862,463</td> <td>2,962,653</td> <td>△100,190</td> </tr> <tr> <td>公演受託事業費 (注2)</td> <td>8,500</td> <td>54,490</td> <td>△45,990</td> </tr> <tr> <td>基金助成事業費</td> <td>1,840,579</td> <td>1,961,083</td> <td>△120,504</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17,068,991</td> <td>17,690,745</td> <td>△621,754</td> </tr> </tbody> </table> <p>主な増減理由 (注1) 有価証券売却益による事業外収入の増 (注2) 受託事業の増 (注3) 前年度助成金の減額・要望取下げに係る戻入、及び過年度助成金の交付決定取消に係る返還による増 (注4) 退職手当の増 (注5) 新国立劇場事業費（施設整備事業費）等の増 (注6) 新国立劇場舞台照明機器整備等による増</p>			区 分	計画額	実績額	増△減	収 入				運営費交付金	11,482,186	11,482,186	0	雑収入	73,870	73,543	△327	施設整備費補助金	801,393	801,249	△144	公演事業収入 (注1)	2,862,463	3,046,427	183,964	公演受託事業収入 (注2)	8,500	55,546	47,046	基金運用収入	1,839,579	1,879,488	39,909	寄附金収入	1,000	0	△1,000	その他の収入 (注3)	0	22,445	22,445	計	17,068,991	17,360,884	291,893	支 出				一般管理費	1,135,126	1,112,530	22,596	うち人件費	661,274	655,949	5,325	うち物件費	473,852	456,581	17,271	事業費	10,420,930	10,798,540	△377,610	うち人件費 (注4)	2,163,848	2,256,021	△92,173	うち物件費 (注5)	8,257,082	8,542,519	△285,437	雑損失	0	200	△200	施設整備費	801,393	801,249	144	公演事業費 (注6)	2,862,463	2,962,653	△100,190	公演受託事業費 (注2)	8,500	54,490	△45,990	基金助成事業費	1,840,579	1,961,083	△120,504	計	17,068,991	17,690,745	△621,754	<p>A A</p> <p>日本芸術文化振興会の役割を踏まえた管理運営及び事業の実施において、適正な財務計画及び処理がなされているものと認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 国からの運営費交付金については減少傾向にあるが、公演の質を保つために、今後とも、外部資金の確保に向けた努力が望まれる。</p>	
区 分	計画額	実績額	増△減																																																																																																						
収 入																																																																																																									
運営費交付金	11,482,186	11,482,186	0																																																																																																						
雑収入	73,870	73,543	△327																																																																																																						
施設整備費補助金	801,393	801,249	△144																																																																																																						
公演事業収入 (注1)	2,862,463	3,046,427	183,964																																																																																																						
公演受託事業収入 (注2)	8,500	55,546	47,046																																																																																																						
基金運用収入	1,839,579	1,879,488	39,909																																																																																																						
寄附金収入	1,000	0	△1,000																																																																																																						
その他の収入 (注3)	0	22,445	22,445																																																																																																						
計	17,068,991	17,360,884	291,893																																																																																																						
支 出																																																																																																									
一般管理費	1,135,126	1,112,530	22,596																																																																																																						
うち人件費	661,274	655,949	5,325																																																																																																						
うち物件費	473,852	456,581	17,271																																																																																																						
事業費	10,420,930	10,798,540	△377,610																																																																																																						
うち人件費 (注4)	2,163,848	2,256,021	△92,173																																																																																																						
うち物件費 (注5)	8,257,082	8,542,519	△285,437																																																																																																						
雑損失	0	200	△200																																																																																																						
施設整備費	801,393	801,249	144																																																																																																						
公演事業費 (注6)	2,862,463	2,962,653	△100,190																																																																																																						
公演受託事業費 (注2)	8,500	54,490	△45,990																																																																																																						
基金助成事業費	1,840,579	1,961,083	△120,504																																																																																																						
計	17,068,991	17,690,745	△621,754																																																																																																						
			<p>(2) 収支計画 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>計画額</th> <th>実績額</th> <th>増△減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">費用の部</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td>1,106,000</td> <td>1,094,405</td> <td>11,595</td> </tr> <tr> <td>うち人件費</td> <td>661,000</td> <td>655,949</td> <td>5,051</td> </tr> <tr> <td>うち物件費</td> <td>445,000</td> <td>438,456</td> <td>6,544</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>9,085,000</td> <td>9,682,742</td> <td>△597,742</td> </tr> <tr> <td>うち人件費 (注1)</td> <td>2,164,000</td> <td>2,265,027</td> <td>△101,027</td> </tr> <tr> <td>うち国立劇場等関係経費 (注2)</td> <td>6,468,000</td> <td>6,975,772</td> <td>△507,772</td> </tr> <tr> <td>うち舞台芸術振興事業費</td> <td>453,000</td> <td>441,943</td> <td>11,057</td> </tr> <tr> <td>公演事業費</td> <td>2,863,000</td> <td>2,877,636</td> <td>△14,636</td> </tr> <tr> <td>公演受託事業費 (注3)</td> <td>9,000</td> <td>54,490</td> <td>△45,490</td> </tr> <tr> <td>基金助成事業費</td> <td>1,891,000</td> <td>1,961,083</td> <td>△70,083</td> </tr> <tr> <td>うち人件費</td> <td>117,000</td> <td>120,680</td> <td>△3,680</td> </tr> <tr> <td>うち物件費</td> <td>1,774,000</td> <td>1,840,403</td> <td>△66,403</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>738,000</td> <td>916,070</td> <td>△178,070</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>△219,254</td> <td>219,254</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>15,692,000</td> <td>16,367,172</td> <td>△675,172</td> </tr> <tr> <td colspan="4">収益の部</td> </tr> <tr> <td>運営費交付金</td> <td>10,118,000</td> <td>10,837,605</td> <td>719,605</td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td>74,000</td> <td>73,543</td> <td>△457</td> </tr> <tr> <td>公演事業収入</td> <td>2,863,000</td> <td>2,855,384</td> <td>△7,616</td> </tr> <tr> <td>公演受託事業収入 (注3)</td> <td>9,000</td> <td>55,546</td> <td>46,546</td> </tr> <tr> <td>基金運用収入</td> <td>1,839,000</td> <td>1,824,662</td> <td>△14,338</td> </tr> <tr> <td>寄附金収入</td> <td>1,000</td> <td>0</td> <td>△1,000</td> </tr> <tr> <td>資産見返運営費交付金戻入</td> <td>738,000</td> <td>599,904</td> <td>△138,096</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	計画額	実績額	増△減	費用の部				一般管理費	1,106,000	1,094,405	11,595	うち人件費	661,000	655,949	5,051	うち物件費	445,000	438,456	6,544	事業費	9,085,000	9,682,742	△597,742	うち人件費 (注1)	2,164,000	2,265,027	△101,027	うち国立劇場等関係経費 (注2)	6,468,000	6,975,772	△507,772	うち舞台芸術振興事業費	453,000	441,943	11,057	公演事業費	2,863,000	2,877,636	△14,636	公演受託事業費 (注3)	9,000	54,490	△45,490	基金助成事業費	1,891,000	1,961,083	△70,083	うち人件費	117,000	120,680	△3,680	うち物件費	1,774,000	1,840,403	△66,403	減価償却費	738,000	916,070	△178,070	その他	0	△219,254	219,254	計	15,692,000	16,367,172	△675,172	収益の部				運営費交付金	10,118,000	10,837,605	719,605	雑収入	74,000	73,543	△457	公演事業収入	2,863,000	2,855,384	△7,616	公演受託事業収入 (注3)	9,000	55,546	46,546	基金運用収入	1,839,000	1,824,662	△14,338	寄附金収入	1,000	0	△1,000	資産見返運営費交付金戻入	738,000	599,904	△138,096
区 分	計画額	実績額	増△減																																																																																																						
費用の部																																																																																																									
一般管理費	1,106,000	1,094,405	11,595																																																																																																						
うち人件費	661,000	655,949	5,051																																																																																																						
うち物件費	445,000	438,456	6,544																																																																																																						
事業費	9,085,000	9,682,742	△597,742																																																																																																						
うち人件費 (注1)	2,164,000	2,265,027	△101,027																																																																																																						
うち国立劇場等関係経費 (注2)	6,468,000	6,975,772	△507,772																																																																																																						
うち舞台芸術振興事業費	453,000	441,943	11,057																																																																																																						
公演事業費	2,863,000	2,877,636	△14,636																																																																																																						
公演受託事業費 (注3)	9,000	54,490	△45,490																																																																																																						
基金助成事業費	1,891,000	1,961,083	△70,083																																																																																																						
うち人件費	117,000	120,680	△3,680																																																																																																						
うち物件費	1,774,000	1,840,403	△66,403																																																																																																						
減価償却費	738,000	916,070	△178,070																																																																																																						
その他	0	△219,254	219,254																																																																																																						
計	15,692,000	16,367,172	△675,172																																																																																																						
収益の部																																																																																																									
運営費交付金	10,118,000	10,837,605	719,605																																																																																																						
雑収入	74,000	73,543	△457																																																																																																						
公演事業収入	2,863,000	2,855,384	△7,616																																																																																																						
公演受託事業収入 (注3)	9,000	55,546	46,546																																																																																																						
基金運用収入	1,839,000	1,824,662	△14,338																																																																																																						
寄附金収入	1,000	0	△1,000																																																																																																						
資産見返運営費交付金戻入	738,000	599,904	△138,096																																																																																																						

資産見返寄附金戻入	0	52,181	52,181
貸倒引当金戻入	0	825	825
固定資産売却益 (注4)	0	7,094	7,094
有価証券売却益	0	194,182	194,182
その他の収入 (注5)	0	22,446	22,446
計	15,642,000	16,523,372	881,372
純利益	△50,000	156,200	206,200
積立金取崩額	50,000	50,308	308
総利益	0	206,508	206,508

主な増減理由

- (注1) 退職手当の増
(注2) 新国立劇場の施設整備等の増
(注3) 受託事業の増
(注4) 新国立劇場の舞台装置等の売却による増
(注5) 前年度助成金の減額・要望取下げに係る戻入、及び過年度助成金の交付決定取消に係る返還による増

(3) 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	27,190,000	35,801,330	△8,611,330
業務活動による支出 (注1)	15,832,000	20,286,649	△4,454,649
投資活動による支出 (注2)	9,994,000	11,716,213	△1,722,213
財務活動による支出 (注3)	0	219,599	△219,599
翌年度への繰越金	1,364,000	3,578,869	△2,214,869
資金収入	27,190,000	35,801,330	△8,611,330
業務活動による収入	17,146,000	21,337,499	△4,191,499
運営費交付金による収入	11,482,000	11,482,186	△186
公演事業による収入	2,863,000	2,622,850	240,150
公演受託事業による収入	9,000	26,352	△17,352
基金運用による収入	1,839,000	1,879,487	△40,487
その他の収入 (注4)	953,000	5,326,624	△4,373,624
投資活動による収入	8,296,000	11,172,204	△2,876,204
施設整備費補助金による収入	801,000	777,028	23,972
その他の収入 (注5)	7,495,000	10,395,176	△2,900,176
財務活動による収入	0	500	△500
民間出えん金受入による収入	0	500	△500
前年度よりの繰越金	1,748,000	3,291,127	△1,543,127

主な増減理由

- (注1) 投資有価証券の取得、長期性預金の預入による支出増
(注2) 投資有価証券の取得による支出増
(注3) リース債務の返済による支出
(注4) 投資有価証券の償還による収入増
(注5) 投資有価証券の売却による収入増

2. 剰余金

- (1) 損益計算の結果、19事業年度の当期純利益は156,200千円である。
その主な理由は以下のとおりである。

[収入支出決算]

- ① 公演事業等において、83,773千円の収支差が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 歌舞伎公演、文楽公演などの公演費の192,290千円の支出減
- ・ 有価証券売却益などによる事業外収入の219,751千円の収入増

(減要因)

- ・ 舞台照明機器整備などによる新国立劇場施設維持管理費の228,496千円の支出増
- ・ 舞台管理費などの附帯事業費の70,983千円の支出増
- ・ 歌舞伎公演、文楽公演などの劇場入場料収入の40,554千円の収入減

- ② 基金助成事業において、△59,150千円の収支差が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 基金運用収入の39,909千円の収入増
- ・ 前年度助成金の減額・要望取下げに係る戻入、及び過年度助成金の交付決定取消に係る返還による収入の22,445千円の収入増
- ・ 助成業務に係る経費の17,965千円の支出減

(減要因)

- ・ 助成金の135,908千円の支出増

[損益計算]

- ③ 公演事業費に係る資本金的支出により76,011千円の費用の減となった。
④ 自己財源で取得した資産の減価償却により35,298千円の費用の増となった。

- ⑤ 前期未収収益より今期未収収益が減少したことにより50,945千円の収益の減となった。
 ⑥ 運営費交付金債務残額の収益化により143,007千円の収益の増となった。
 (2) 当期総利益は、当期純利益156,200千円に目的積立金（基金助成事業積立金）取崩額50,308千円を加え、206,508千円である。これについて、当期は中期目標期間の最終年度にあたるため、独立行政法人通則法第44条第3項による処理は行わず、同第1項に規定する積立金として整理することとしている。

3. 運営費交付金債務 (単位：千円)

区 分	期首残高 /受入額	費用進行基準 による収益化額	会計基準第90第3 項による収益化額	
平成15年度運営費交付金	44,123	0	44,123	0
平成16年度運営費交付金	990	0	990	0
平成17年度運営費交付金	130,207	96,625	33,582	0
平成18年度運営費交付金	323,228	282,704	40,524	0
平成19年度運営費交付金	11,482,186	11,458,398	23,788	0
計	11,980,734	11,837,727	143,007	0

4. 積立金の状況 (単位：千円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
通則法44条1項積立金	976,390	238,974	0	1,215,364
通則法44条3項積立金 (目的積立金)	50,308	270,078	50,308	270,078
計	1,026,698	509,053	50,308	1,485,443

※ 当期は中期目標期間の最終年度であるため、目的積立金で未使用となっている270,078千円については、利益処分時において積立金（通則法第44条第1項の規定による積立金）へ振り替えることとしている。基金助成事業積立金取崩額50,308千円は、中期計画の剰余金の使途において定めた助成事業の充実に充てるため、平成18年3月17日付けにて主務大臣から承認を受けた109,522千円のうちの未使用分を取り崩したものである。

5. 外部資金の獲得状況 (8件、85,385千円)

- ・ 日本伝統芸能中国公演（文化庁共催国際文化交流・協力推進事業）等の受託事業収入 3件、55,546千円
- ・ 芸術祭主催公演等における負担金による収入 4件、29,339千円
- ・ 芸術文化振興基金に対する民間出せん金 1件、500千円

6. 短期借入金

なし。

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定																				
		A	B	C		段階的評定	定 性 的 評 定 等																			
1. 人事に関する計画	職員の計画的、適正な配置と人事交流の推進 事務能率の維持、増進 職員数の抑制	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p> <p>※Sについては、客観的基準を事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。また、Fについても、客観的基準を事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合、その評定を付す。 【以下、全ての項目について同様】</p>			<p>(1) 国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、円滑な委託業務の実施に資することができた。また、より効率的な業務運営を図るため、新国立劇場運営財団との相互人事交流を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の機関及び国立大学法人から出向者の受入れ（24人） 国の機関への職員の派遣（1人） 国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣（4人） 新国立劇場運営財団への職員の派遣（16人） 新国立劇場運営財団からの出向者の受入れ（2人） <p>(2) 積極的に外部研修を取り入れ、職員の質の向上と専門的な知識習得を図った。 また、職員の心の健康に関する相談窓口として新たに外部の専門業者と契約し、電話、メール、面接等によってプライバシーに配慮し、気軽に相談できる窓口を設置した。</p>	A	A	適切に実施されたものと認められる。																		
2. 施設及び設備に関する計画	計画に沿った整備の推進	<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>			<p>(1) 施設整備費補助金による施設・設備の整備等</p> <ul style="list-style-type: none"> 本館大劇場音響パワーアンプスピーカー設備整備工事 97,650千円 能楽堂中央監視制御設備整備工事 66,444千円 新国立劇場中劇場照明操作卓等整備工事 92,479千円 新国立劇場中劇場音響出力系機器整備工事 108,780千円 国立劇場おきなわ土地購入 435,896千円 不動産鑑定士による土地価格評価を行い、適正な価格にて2,461㎡を購入した。 <p>(2) 運営費交付金等による施設・設備の整備等 演芸場屋上防水改修、本館・演芸場非常警報設備改修等を実施し、施設設備の老朽化対策及び保全を図った。 18年度に実施した客席及び舞台の空調温度調査を踏まえ、本館大劇場空調設備の改修を実施したほか、本館大稽古室床改修、大小劇場公演監事室等改修、大小劇場間通路防火戸修繕、文楽劇場空調用冷温水発生機更新等を実施し、良好な舞台環境・観劇環境を確保し、利便性を向上するとともに、施設・設備の保全を図った。 また、新国立劇場においては、緊急を要する設備等整備について財源を確保し、舞台照明機器整備、オペラ劇場舞台機構操作卓整備工事、オペラ劇場・中劇場舞台床整備工事、外壁工事（カーテンウォールシール打替その他）を実施した。</p>	A	A	適切に実施されたものと認められる。																		
3. その他振興会の業務の運営に関し必要な事項		<p>振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>			<p>(1) 国立劇場おきなわ運営委託（財団法人国立劇場おきなわ運営財団）</p> <p>① 委託契約の状況 19年4月1日付けで19年4月1日から20年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について737,852,000円を限度として締結。委託確定額は681,873,000円である。</p> <p>② 委託内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 公演の実施（沖縄伝統芸能等30公演） 組踊（立方・地方）伝承者の養成 沖縄伝統芸能に関する調査研究、資料収集・利用業務 劇場施設の貸与（大劇場、小劇場） 劇場施設の管理運営 その他附帯する業務 <p>③ 運営に関する協議及び報告の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務委託に係る規程の改正を協議（資料取扱規程の一部改正、職員の給与の特例に関する規程の制定） 業務委託契約の変更、収支計画の変更を協議 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領 劇場施設（固定資産）取得報告書兼引き渡し書を受領 <p>④ 運営委託の方針・連絡体制の整備等 運営財団の業務内容が振興会年度計画に沿った形でより効率的に実施され、かつ成果があがるよう、昨年度に引き続き新規採用職員の東京における研修の実施のほか、予算執行に関する意見交換を行った。このような機会を増加させることによって、昨年度に引き続き振興会と運営財団が共通理解のもと、事業の実施及び劇場の管理運営に当たれるような環境の整備を行った。</p> <p>⑤ 効率化状況等</p> <p>ア 効率化状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> 委託費の状況 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>15年度(下半期)</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>19年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>332,025</td> <td>795,306</td> <td>755,686</td> <td>722,282</td> <td>681,873</td> </tr> <tr> <td>前年度比</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>95.0%</td> <td>95.6%</td> <td>94.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 国立劇場おきなわは16年1月に開場したため、16年度が平年度化の1年目となる。</p> <p>イ 委託先における業務の効率化等</p> <ul style="list-style-type: none"> 19年度途中よりホームページ上で入札に関する情報提供を実施した。 新規採用職員を対象とした業務研修を振興会（東京）において実施した。 契約事務に関する指導を行った。 	年度	15年度(下半期)	16年度	17年度	18年度	19年度	金額	332,025	795,306	755,686	722,282	681,873	前年度比	—	—	95.0%	95.6%	94.4%	B	B	特定の関連公益法人へ運営を委託している国立劇場おきなわ及び新国立劇場については、その委託費の大半が国費に由来するものであることに鑑み、日本芸術文化振興会が説明責任をはたす為に、相手先の運営状況を確認する方途として、財団の管理運営に関する事項について、把握できるように契約内容を改善すべきである。
年度	15年度(下半期)	16年度	17年度	18年度	19年度																					
金額	332,025	795,306	755,686	722,282	681,873																					
前年度比	—	—	95.0%	95.6%	94.4%																					

(2) 新国立劇場運営委託（財団法人新国立劇場運営財団）

① 委託契約の状況

19年4月1日付けで19年4月1日から20年3月31日までの現代舞台芸術に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について5,082,853,000円を限度として締結。委託確定額は5,054,843,000円である。

② 委託内容

- ・ 公演の実施（オペラ10公演、バレエ5公演、現代舞踊5公演、演劇8公演、その他2公演、地域招聘1公演、普及公演2公演）
- ・ 研修事業の実施（オペラ研修：第8・9・10期生、バレエ研修：第4期生、演劇研修：第1・2・3期生）
- ・ 劇場施設の貸与（オペラ劇場、中劇場、小劇場）
- ・ 劇場施設の管理
- ・ その他附帯する業務（教育普及、国際交流等）

③ 運営に関する協議及び報告の状況

- ・ 業務委託に関する規程の改正を協議（職員の給与規程の一部改正、組織規程の一部改正等）
- ・ 業務委託契約の変更、収支計画の変更を協議
- ・ 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ・ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ・ 固定資産取得報告書を受領
- ・ 固定資産不用通知書を受領

④ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

振興会で行っている業務運営の形態等を基準に、受託者が多様な手段により相当の自己収入を確保することを前提とし、できる限りコストを抑制しつつ、目標とした事業を実施する契約内容とした。効率的な業務運営のため、委託先より状況報告書・実績報告書を定期的に提出させ、自己収入確保に重要な入場者数を各公演ごとに確認する等、効率化状況を把握した。

⑤ 効率化状況等

ア 効率化状況等

・ 委託費の状況

（単位：千円）

年度	15年度(下半期)	16年度	17年度	18年度	19年度
金額	2,774,367	5,107,980	4,986,982	5,092,003	5,054,843
前年度比	—	97.1%	97.6%	102.1%	99.3%

※ 16年度前年度比は15年度通年との比較。

※ 18年度は新国立劇場情報センターに係る業務を新たに委託した（230,352千円の増）。この影響を除外した場合の委託費は4,861,651千円で17年度比97.5%である。19年度についてもこの影響を除外した場合の委託費は4,827,175千円で18年度比99.3%ある。

イ 委託先における業務の効率化等

- ・ 外部委託の見直しを行い、一般競争入札の拡大を図った。
- ・ 19年度途中よりホームページ上で入札に関する情報提供を実施した。
- ・ 自主公演の事業費の計画に関する事務を会計課に一元化するとともに、人員配置の見直しを行った。
- ・ 「メンタルヘルス研修」等の内部研修を実施するとともに、振興会主催で行われた「営業研修」や外部で行われた「舞台芸術フェア・アートマネジメントセミナー」等の外部研修に職員を派遣した。

内部統制（監査規定、体制、監査実績、監査内容 等）についての評価委員会のコメント

監事監査及び内部監査ともに、規程を整備し、確実に実施されている。監事監査と内部監査の役割を明確にし、連携した監査体制を構築することで、内部統制機能のさらなる強化改善の実現が望まれる。